



令和7年度

事業報告書

日本赤十字社徳島県支部事務局  
徳島赤十字ひのみね医療療育センター  
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院  
徳島赤十字病院  
徳島県赤十字血液センター

# 目 次

I	日本赤十字社徳島県支部	1
I	支部事務局の概要	1
1	沿 革	1
2	組 織	3
3	役員・評議員	4
(1)	役員名簿	4
(2)	評議員名簿	5
4	支部事務局	7
(1)	組 織	7
(2)	職員の現員	7
II	重 点 事 項	8
1	赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強	8
(1)	赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施	8
(2)	「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施	8
(3)	大阪・関西万博を通しての広報活動	8
(4)	時代に応じた寄付制度の普及・啓発	8
(5)	日本赤十字社功労表彰の実施	8
(6)	企業等と連携した赤十字活動の推進	8
2	災 害 救 護	9
(1)	長期の避難生活を見据えた「食」の支援体制の強化	9
(2)	大規模災害時における避難者支援体制の強化	9
(3)	地域を対象とした防災活動の推進	9
3	赤十字救急法等の普及活動	9
(1)	気候変動に対応した赤十字講習の推進	9
(2)	一次救命処置を中心とした赤十字講習の普及	9
(3)	各種赤十字講習の推進	9
4	赤十字奉仕団活動	9
(1)	赤十字奉仕団の活性化	9
(2)	災害に強い地域づくりへの貢献	10
(3)	未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及	10

5	青少年赤十字	10
	(1) 「こども赤十字」の普及	10
	(2) 幼児等を対象とした防災教育事業の推進	10
	(3) 青少年赤十字国際交流事業にかかる海外メンバーの受け入れ	10
6	国際活動	10
	(1) 「海外救援金」の募集及び「海外たすけあい」キャンペーンの実施	10
	(2) アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援	10
Ⅲ	事業の実施状況	11
1	赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強	11
	(1) 社資募集実績表	11
	(2) 地区別社費実績表	12
	(3) 分区別社費実績表	13
	(4) 年度別社資実績状況	14
	(5) 赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施	15
	(6) 「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施	16
	(7) 大阪・関西万博を通しての広報活動	16
	(8) 赤十字事業説明バス	16
	(9) 時代に応じた寄付制度の普及・啓発	17
	(10) 日本赤十字社功労表彰の実施	17
	(11) 企業等と連携した赤十字活動の推進	17
2	災害救護体制の充実・強化	19
	(1) 救護班の編成	19
	(2) 各種災害救護訓練・研修等の実施及び参加	20
	(3) 救護物資及び救護資材	22
	(4) 災害用移動炊飯器を活用した炊き出し訓練の実施	24
	(5) 赤十字災害用移動炊飯器「専用鉄板」の配備	27
	(6) 赤十字災害時活動用テントの配備	28
	(7) 大規模災害時における要支援者支援体制の強化	30
	(8) 地域における防災・減災事業の推進	32
	(9) 臨時救護の状況	33
	(10) 赤十字小規模災害見舞金等交付状況	33
	(11) 国内の災害義援金の受付状況	34

3	赤十字の救急法等の普及活動	35
(1)	救急法	35
(2)	水上安全法	39
(3)	健康生活支援講習	40
(4)	幼児安全法	41
4	赤十字奉仕団	42
(1)	地域赤十字奉仕団	42
(2)	青年赤十字奉仕団	45
(3)	特殊赤十字奉仕団	46
5	青少年赤十字	46
(1)	青少年赤十字の加盟促進等	46
(2)	会議及び研修会	48
(3)	「こども赤十字」の普及	50
(4)	幼稚園等を対象とした防災教育事業の推進	50
(5)	国際交流事業の実施	51
(6)	福祉体験学習の実施	52
(7)	書き損じはがき収集活動実施状況	53
(8)	青少年赤十字活動資金（1円玉募金）	53
(9)	中古本等買い取りプログラム「キモチと」	53
(10)	青少年赤十字優良児童・生徒表彰状況	53
6	国際活動	54
(1)	各種災害救援金及び人道危機救援金の募集	54
(2)	アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援	54
(3)	「海外たすけあい」キャンペーンの実施	54
IV	一般会計決算状況	56
1	総括	56
(1)	歳入	56
(2)	歳出	56
2	社会福祉施設特別会計（本部会計拠点区分）決算状況	57
(1)	総括	57
(2)	前期末支払資金残高	57

Ⅱ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター	59
1 ひのみね医療療育センターの概要	59
(1) 沿革	59
(2) 施設の概要	61
(3) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター 組織図	64
(4) 職員数	65
2 事業の実施状況	66
徳島赤十字ひのみね医療療育センター	66
(1) 外来診療	66
(2) 入所（入院）施設	67
(3) 地域を対象とした事業	69
(4) 決算状況	74
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設〔障害者支援施設〕	76
(1) 入所施設	76
(2) 利用者の状況	76
(3) 地域を対象とした事業	77
(4) 決算状況	78
Ⅲ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院	81
1 乳児院の概要	81
(1) 沿革	81
(2) 施設の概要	82
(3) 組織図	82
(4) 職員数	83
2 事業の実施状況	84
(1) 事業の概要	84
(2) 重点事項	84
(3) 在籍児童の状況	89
(4) 入所児童の状況	90
(5) 退所児童の状況	91
(6) 決算状況	91

IV	徳島赤十字病院	95
I	病院の概要	95
(1)	沿革	95
(2)	概要	100
II	重点事項	102
1	地域の基幹病院としての特色発揮と機能強化	102
2	安全・安心の医療提供体制の構築	104
3	赤十字医療施設としての特色発揮と機能強化	104
4	効率的な運営体制の構築	104
5	人材育成と確保	105
6	保健事業	107
III	事業実績数値	108
IV	事業の実施状況	108
(1)	入院患者延数	108
(2)	新入院患者数	108
(3)	平均在院日数	108
(4)	外来患者延数	108
(5)	紹介患者数（再診含む）	109
(6)	初診の紹介率	109
(7)	救急患者数	109
(8)	ドクターカー出動件数	109
(9)	ドクターヘリ受入件数	109
(10)	保健医療圏患者数	110
V	決算の状況	111
(1)	収益的収入及び支出	111
(2)	資本的収入及び支出	113
V	徳島県赤十字血液センター	115
1	血液センターの概要	115
(1)	沿革	115
(2)	組織と人員配置	119

2	重点事項	120
(1)	若年層献血者及び複数回献血協力者の確保	120
(2)	献血バス1稼働当たりの採血数の確保	122
(3)	献血ルームの活性化	122
(4)	献血推進団体等との連携強化	123
(5)	輸血用血液製剤適正使用の促進	123
(6)	効率的な供給体制の構築	124
(7)	採血環境の改善と看護師の育成	124
(8)	災害に対する備え	124
3	事業の実施状況	125
(1)	献血状況	125
(2)	供給状況	133



## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。



# I 日本赤十字社徳島県支部事務局



# I 日本赤十字社徳島県支部

## I 支部事務局の概要

### 1 沿革

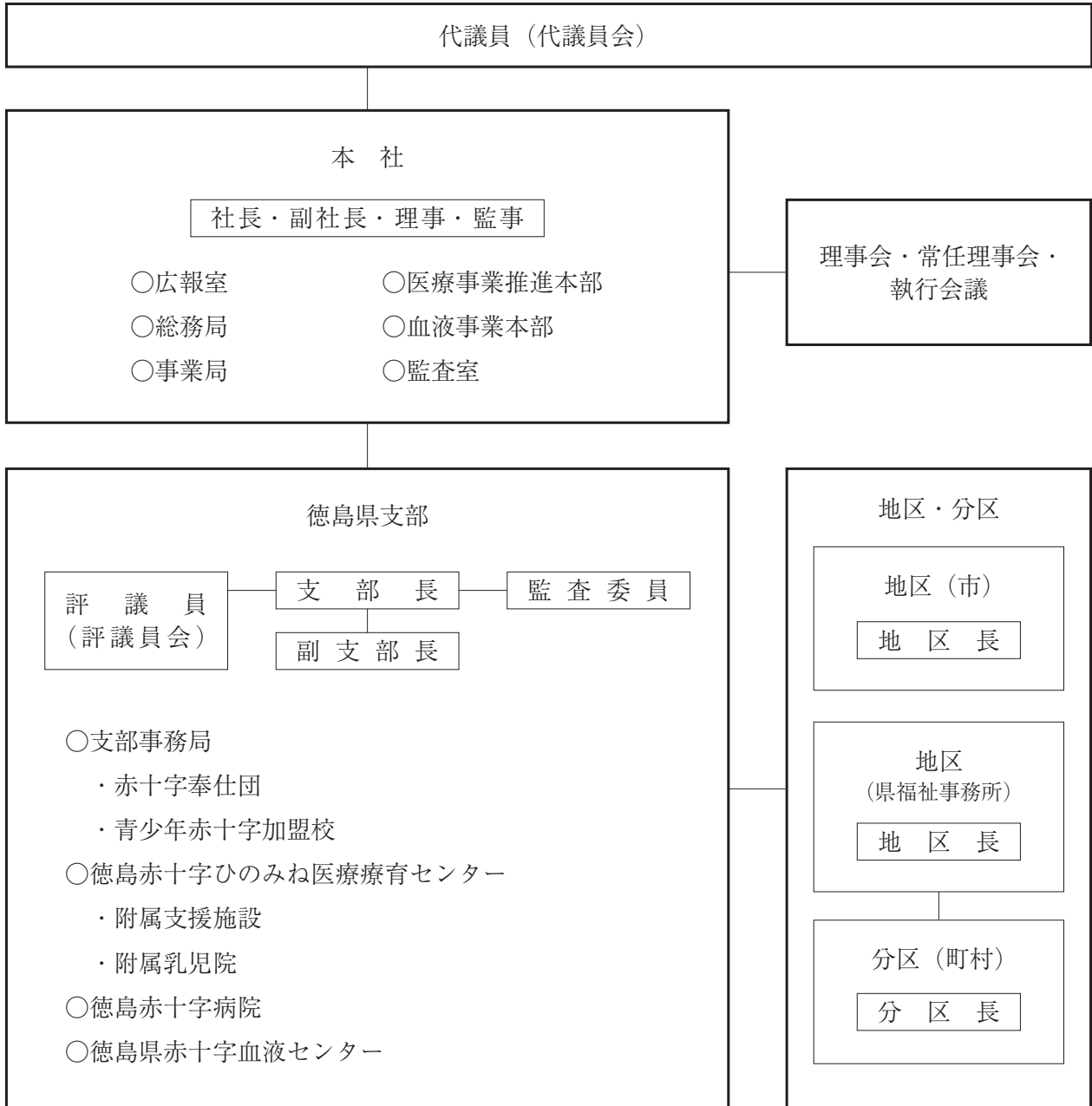
年 月 日	事 項
明治20. 10. 28	四国の他の3県にさきがけ日本赤十字社徳島県委員部として創立、初代委員長に酒井明氏が就任
27. 11. 27	日本赤十字社徳島県委員部は各県に支部制がしかれ、日本赤十字社徳島支部と改称 初代支部長に村上義雄氏が就任
昭和20. 7. 4	徳島本町にあった支部社屋が戦災により焼失し、翌5日北常三島町2丁目の民家を借り業務を開始
22. 9. 27	初の民間人支部長に奥村嘉蔵氏が就任
23. 9. 1	徳島本町の旧敷地内に木造平屋の支部社屋を再建
27. 10. 31	新定款の制定により日本赤十字社徳島支部と改称
35. 3. 13	徳島市新蔵町1丁目の県有地647.20㎡を借受け、鉄筋コンクリート3階建（一部4階）延面積953.35㎡の支部社屋を建設
42. 1. 6	奥村嘉蔵氏死去により支部長辞任
6. 3	第38代支部長に武市恭信氏が就任
56. 10. 12	武市恭信氏、支部長辞任
13	第39代支部長に三木申三氏が就任
58. 11. 26	徳島市庄町3丁目12-1の県有地3,378.81㎡を借受け、鉄筋コンクリート3階建の本館延面積861.84㎡及び鉄筋平屋建の倉庫及び車庫延面積280.58㎡、合計延面積1,142.42㎡の新社屋建設 ※同県有地内に血液センター社屋及び車庫総延面積2,559.96㎡も同時建設
59. 3. 10	徳島市新蔵町1丁目の旧社屋を解体
62. 11. 25	名誉副総裁三笠宮妃殿下をお迎えして支部創立百周年記念赤十字大会を開催
平成5. 10. 4	三木申三氏、支部長辞任
5	第40代支部長に圓藤寿穂氏が就任
9. 7. 23	皇太子殿下・同妃殿下をお迎えして第33回献血運動推進全国大会を開催
14. 3. 17	圓藤寿穂氏、支部長辞任
18	第40代支部長職務代理に副支部長藤野井親仁氏が就任
5. 22	第41代支部長に大田正氏が就任
15. 5. 29	大田正氏、支部長辞任
6. 4	第42代支部長に飯泉嘉門氏が就任
16. 9. 9	吉野川市鴨島町に赤十字防災センターを設置

年 月 日	事 項
平成19. 12. 6	名誉副総裁高円宮妃殿下をお迎えして支部創立百二十周年記念赤十字大会を開催
23. 9. 8	板東俘虜収容所跡地（鳴門市ドイツ村公園）に「赤十字ゆかりの地モニュメント」を設置
27. 5. 1	支部事務局1階玄関ホールに「赤十字展示コーナー」を設置
29. 4. 22 ～ 6. 11	支部創立百三十周年記念展「今に生きる『人道博愛の心』－美術に見る日本赤十字社の歩み－」を徳島県立近代美術館で開催
9. 7	海部郡牟岐町に赤十字南部救護倉庫を設置
12. 6	名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下をお迎えして支部創立百三十周年記念赤十字大会を開催
30. 3. 31	吉野川市鴨島町の赤十字防災センターを廃止
4. 24	「とくしま赤十字災害救護サポートセンター」を開所
令和5. 5. 18	飯泉嘉門氏、支部長辞任
5. 19	第43代支部長に後藤田正純氏が就任

## 2 組 織

### 日本赤十字社の組織

(令和8年4月1日現在)



### 3 役員・評議員

#### (1) 役員名簿

(令和8年4月1日現在)

役職名	氏名	住所	備考	
支部役員	支部長	後藤田 正 純	徳島市万代町	徳 島 県 知 事
	副支部長	遠 藤 彰 良	徳島市幸町	徳島県市長会長・徳島市長
		古 川 保 博	板野郡北島町	徳島県町村会長・北島町長
		岡 田 好 史	徳島市西船場2	(株)阿波銀行 相談役
	監査委員	原 孝 仁	鳴門市撫養町	公 認 会 計 士
		川 長 光 男	阿南市柳島町	元徳島県町村会常務理事

本社役員	理 事	川 島 周	徳島市北佐古1	社会医療法人川島会会長 徳島県赤十字有功会副会長
	代 議 員	川 島 周	徳島市北佐古1	社会医療法人川島会会長 徳島県赤十字有功会副会長
		岡 田 好 史	徳島市西船場2	(株)阿波銀行 相談役

## (2) 評議員名簿

(任期 令和7年2月14日～令和10年2月13日)

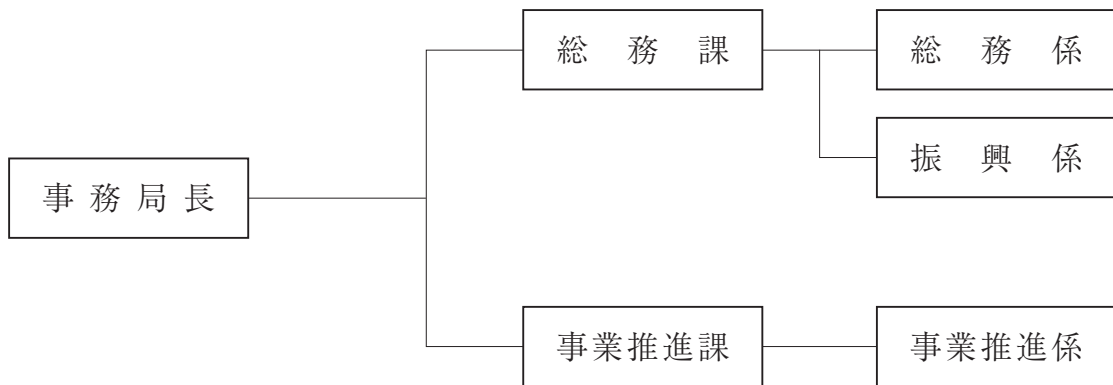
(令和8年4月1日現在)

選出地区名	氏名	住所	備考
徳島市	宇都宮 正 登	徳島市幸町3	徳島市医師会長
	池 上 治 徳	徳島市中徳島町2	徳島新聞社理事社長
	松 本 侯	徳島市北田宮1	徳島県歯科医師会長
	板 東 恵 子	徳島市南沖洲	徳島市地区赤十字 奉仕団委員長
鳴門市	泉 理 彦	鳴門市撫養町	鳴門市長
	矢 野 壽美子	鳴門市撫養町	鳴門市地区赤十字 奉仕団委員長
小松島市	中 山 俊 雄	小松島市横須町	小松島市長
	竹 島 由美子	小松島市櫛淵町	小松島市地区赤十字 奉仕団委員長
阿南市	岩 佐 義 弘	阿南市富岡町	阿南市長
	紅 露 清 恵	阿南市桑野町	阿南市地区赤十字 奉仕団委員長
吉野川市	原 井 敬	吉野川市鴨島町	吉野川市長
	喜 島 寧 子	吉野川市鴨島町	吉野川市地区赤十字 奉仕団委員長
阿波市	町 田 寿 人	阿波市市場町	阿波市長
美馬市	加 美 一 成	美馬市穴吹町	美馬市長
三好市	高 井 美 穂	三好市池田町	三好市長

選出地区名	氏 名	住 所	備 考
東 部	野 上 武 典	勝浦郡勝浦町	勝 浦 町 長
	岩 城 福 治	名東郡佐那河内村	佐 那 河 内 村 長
	小 林 智 仁	名西郡石井町	石 井 町 長
	古 川 保 博	板野郡北島町	北 島 町 長
	東 根 弘 幸	板野郡板野町	板 野 町 長
南 部	橋 本 浩 志	那賀郡那賀町	那 賀 町 長
	影 治 信 良	海部郡美波町	美 波 町 長
西 部	兼 西 茂	美馬郡つるぎ町	つ る ぎ 町 長
	松 浦 敬 治	三好郡東みよし町	東 み よ し 町 長
支部長選出	長 岡 奨	徳島市西船場 2	徳島県赤十字有功会長 (株)阿波銀行 取締役会長
	福 壽 由 法	徳島市万代町 1	徳島県保健福祉部長
	藤 田 育 美	美馬市脇町	赤十字奉仕団徳島県 支 部 委 員 長
	野 田 耕市郎	三好市井川町	青少年赤十字徳島県 指 導 者 協 議 会 長
	澤 田 明 宏	美馬市脇町	日本青年会議所四国地区 徳島ブロック協議会長

#### 4 支部事務局

##### (1) 組織



(2) 職員の現員 (令和8年4月1日現在) 10名

## II 重点事項

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という日本赤十字社の使命に基づき、各種人道活動を展開した。

### 1 赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強

#### (1) 赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施

徳島新聞社の協力により、毎月1回の記事連載を行い、赤十字の使命や活動、命を守る知識・技術の普及に努めた。

また、県内各地の幹線道路沿いに設置している赤十字看板や、のぼり、ケーブルテレビ等を活用して地域に根ざした広報活動を展開するとともに、新聞やホームページ等様々な媒体による情報発信を行い、「赤十字活動の見える化」を推進した。

#### (2) 「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施

世界赤十字デーの5月8日から14日までの間、徳島の象徴的な建築物である徳島中央公園「鷺の門」を赤十字カラーである赤色のライトで照らし、赤十字運動の啓発を図った。

#### (3) 大阪・関西万博を通しての広報活動

大阪・関西万博の「赤十字パビリオン（国際赤十字・赤新月運動館）」に関する各種広報活動を通して、赤十字思想の普及を図った。

#### (4) 時代に応じた寄付制度の普及・啓発

超高齢社会におけるライフプランに応じた赤十字支援の方法（遺産や相続財産の寄付、御香典からの寄付等）に関する相談窓口を開設し、関係機関の協力を得ながら積極的な情報提供に努めた。

#### (5) 日本赤十字社功労表彰の実施

赤十字奉仕団員や地区・分区役員等、赤十字活動に功労のあった方々への顕彰を行い、赤十字活動への更なる理解と協力を呼びかけた。

#### (6) 企業等と連携した赤十字活動の推進

企業等の社会貢献活動と連携して、「赤十字活動支援自動販売機」や「チャリティーボックス（募金箱）」の設置など、身近で手軽に赤十字活動を支援できる環境の整備に努めた。

## 2 災害救護

### (1) 長期の避難生活を見据えた「食」の支援体制の強化

「赤十字災害用移動炊飯器」で調理可能な「専用鉄板」を地区・分区に追加配備し、長期の避難生活を見据えた地域での「食」の支援体制の充実・強化を図った。

### (2) 大規模災害時における避難者支援体制の強化

大規模災害時の長期避難生活において、特に支援が必要な乳児及び要配慮者に特化した当支部オリジナル「段ボールベッド」を赤十字南部及び西部倉庫に配備し、避難者支援体制の強化を図った。

### (3) 地域を対象とした防災活動の推進

地域における「自助」「共助」の力を高めるために赤十字防災セミナーを開催するとともに、地域へ配備している災害用移動炊飯器や段ボールベッド等を活用した訓練を実施して、災害に強い地域づくりへの支援を行った。

## 3 赤十字救急法等の普及活動

### (1) 気候変動に対応した赤十字講習の推進

気候変動に伴う気温の上昇により、熱中症が増加傾向にあることから、熱中症に関する内容を盛り込んだ赤十字講習を積極的に実施し、熱中症予防の啓発に努めた。

### (2) 一次救命処置を中心とした赤十字講習の普及

心肺蘇生やAED等の一次救命処置を中心とした救急技法の普及を図り、尊い命を救う知識と技術の普及に努めた。また、講習が重複する学校のプール時期には「リモート講習」も併用しながら一次救命処置の普及に努めた。

### (3) 各種赤十字講習の推進

水の事故防止に関する講習や高齢者・乳幼児に焦点を当てた講習等、対象のニーズに合わせた各種赤十字講習を行い、いのちと健康を守るための知識と技術の向上を図った。

## 4 赤十字奉仕団活動

### (1) 赤十字奉仕団の活性化

地域のニーズに対応した奉仕団活動を広く周知し、新たな奉仕団員を募集するためのチラシを作成・配付するとともに、モデル奉仕団活動等を通して、奉仕団活動の活性化に努めた。

(2) 災害に強い地域づくりへの貢献

当支部が県内各地域に配備している「災害用移動炊飯器」や「専用鉄板」、「災害時活動用テント」を活用した炊き出し訓練等を実施するとともに、地区・分区へ配備した当支部オリジナル「段ボールベッド」の設営訓練等を行い、地域の防災力の向上に努めた。

(3) 未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及

青少年赤十字加盟校の児童・生徒等を対象に、赤十字人道紙芝居「ぼんどうのコスモス」の上演活動を通して、未来を担う青少年への「人道のこころ」の普及を図った。

## 5 青少年赤十字

(1) 「こども赤十字」の普及

将来に向け、幼児期からの赤十字精神の普及を図るため、幼稚園・こども園を対象に青少年赤十字への加盟を推進した。

(2) 幼児等を対象とした防災教育事業の推進

災害時に子どもたち自らが考え、判断し、危険から身を守る行動を身に付けられるよう、幼児向け赤十字防災教材を青少年赤十字加盟園に配布するとともに、同教材を活用した防災セミナーを幼稚園で実施した。

(3) 青少年赤十字国際交流事業にかかる海外メンバーの受け入れ

青少年赤十字海外メンバーとの交流を通して、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進するとともに、「Think globally, Act locally」というテーマのもと、特に気候変動や平和教育について学びを深めた。

## 6 国際活動

(1) 「海外救援金」の募集及び「海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者・被災者の緊急救援等を行うための「救援金」を募集するとともに、開発途上国赤十字社の行う保健衛生、災害対策事業等の開発協力を行うために「海外たすけあい」募金キャンペーンを実施した。

(2) アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援

日本赤十字社中国・四国各県支部と連携し、アジア・大洋州地域における「給水・衛生キット」の配備をはじめとした給水・衛生活動の支援を行った。

### Ⅲ 事業の実施状況

#### 1 赤十字思想の普及、赤十字会員等・社資（赤十字活動支援費）の増強

地区・分区や赤十字奉仕団、赤十字協賛委員、赤十字有功会、各種ボランティア等の協力と会員の支援を得て、次のとおり実績をあげることができた。

##### (1) 社資募集実績表

項 目	目標額（円）	実績額（円）	達成率（％）
一 般 社 資	139,000,000	151,705,779	109.1
内 訳	社 費	90,489,975	70.1
	寄 付 金	60,339,804	603.4
	指定寄付金	0	—
法 人 社 資	18,000,000	49,174,306	273.2
内 訳	指定寄付金	2,000,000	100.0
	その他社資	47,174,306	294.8
合 計	157,000,000	200,880,085	127.9

※ 達成率は小数第2位を四捨五入

(2) 地区別社費実績表

年度別 地区名	令和7年度			令和6年度		
	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
徳島市区 地	45,719,000	24,329,687	53.2	45,540,000	24,518,360	53.8
鳴門市区 地	9,333,000	7,897,719	84.6	9,357,000	8,178,340	87.4
小松島市区 地	6,160,000	1,930,735	31.3	6,184,000	2,130,200	34.4
阿南市区 地	11,774,000	9,977,100	84.7	11,767,000	10,429,858	88.6
吉野川市区 地	6,474,000	5,138,113	79.4	6,495,000	5,592,778	86.1
阿波市区 地	5,720,000	4,712,200	82.4	5,739,000	4,880,000	85.0
美馬市区 地	4,653,000	3,973,452	85.4	4,681,000	3,920,397	83.8
三好市区 地	3,869,000	4,241,211	109.6	3,925,000	4,176,005	106.4
東部地区	23,562,000	9,778,563	41.5	23,458,000	10,616,790	45.3
南部地区	4,260,000	4,132,404	97.0	4,347,000	4,267,823	98.2
西部地区	3,476,000	3,564,420	102.5	3,507,000	3,731,746	106.4
その他	4,000,000	10,814,371	270.4	4,000,000	11,052,869	276.3
計	129,000,000	90,489,975	70.1	129,000,000	93,495,166	72.5

※1 達成率は小数第2位を四捨五入

※2 「その他」は日本赤十字社徳島県支部扱いの社費協力

### (3) 分區別社費実績表

年度別 地区・分区名		令和7年度			令和6年度		
		目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
徳島市地区		45,719,000	24,329,687	53.2	45,540,000	24,518,360	53.8
鳴門市地区		9,333,000	7,897,719	84.6	9,357,000	8,178,340	87.4
小松島市地区		6,160,000	1,930,735	31.3	6,184,000	2,130,200	34.4
阿南市地区		11,774,000	9,977,100	84.7	11,767,000	10,429,858	88.6
吉野川市地区		6,474,000	5,138,113	79.4	6,495,000	5,592,778	86.1
阿波市地区		5,720,000	4,712,200	82.4	5,739,000	4,880,000	85.0
美馬市地区		4,653,000	3,973,452	85.4	4,681,000	3,920,397	83.8
三好市地区		3,869,000	4,241,211	109.6	3,925,000	4,176,005	106.4
東 部 地 区	勝浦町分区	785,000	799,000	101.8	803,000	823,600	102.6
	上勝町分区	233,000	260,900	112.0	242,000	271,300	112.1
	佐那河内村分区	342,000	441,600	129.1	345,000	456,600	132.3
	石井町分区	4,273,000	1,842,360	43.1	4,258,000	1,958,310	46.0
	神山町分区	787,000	827,226	105.1	789,000	899,103	114.0
	松茂町分区	2,526,000	1,183,077	46.8	2,540,000	1,493,965	58.8
	北島町分区	4,207,000	835,560	19.9	4,133,000	895,654	21.7
	藍住町分区	6,307,000	1,225,640	19.4	6,246,000	1,353,851	21.7
	板野町分区	2,198,000	877,400	39.9	2,189,000	898,000	41.0
	上板町分区	1,904,000	1,485,800	78.0	1,913,000	1,566,407	81.9
	計	23,562,000	9,778,563	41.5	23,458,000	10,616,790	45.3
南 部 地 区	那賀町分区	1,210,000	1,299,000	107.4	1,236,000	1,291,600	104.5
	美波町分区	1,018,000	1,025,620	100.7	1,038,000	1,084,400	104.5
	牟岐町分区	603,000	706,334	117.1	621,000	634,523	102.2
	海陽町分区	1,429,000	1,101,450	77.1	1,452,000	1,257,300	86.6
	計	4,260,000	4,132,404	97.0	4,347,000	4,267,823	98.2
西 部 地 区	つるぎ町分区	1,264,000	1,404,000	111.1	1,289,000	1,506,006	116.8
	東みよし町分区	2,212,000	2,160,420	97.7	2,218,000	2,225,740	100.3
	計	3,476,000	3,564,420	102.5	3,507,000	3,731,746	106.4
その他		4,000,000	10,814,371	270.4	4,000,000	11,052,869	276.3
計		129,000,000	90,489,975	70.1	129,000,000	93,495,166	72.5

※1 達成率は小数第2位を四捨五入

※2 「その他」は日本赤十字社徳島県支部扱いの社費協力

## (4) 年度別社資実績状況

年度	項目	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
令和3年度	一般社資	139,000,000	136,765,146	98.4
	社費金	129,000,000	98,322,798	76.2
	寄付金	10,000,000	38,442,348	384.4
	法定寄付金	0	0	-
	法人社資	18,000,000	40,384,584	224.4
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	38,384,584	239.9
	計	157,000,000	177,149,730	112.8
令和4年度	一般社資	139,000,000	157,804,428	113.5
	社費金	129,000,000	98,709,795	76.5
	寄付金	10,000,000	57,228,134	572.3
	法定寄付金	0	1,866,499	-
	法人社資	18,000,000	59,419,563	330.1
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	57,419,563	358.9
	計	157,000,000	217,223,991	138.4
令和5年度	一般社資	139,000,000	122,928,047	88.4
	社費金	129,000,000	95,813,933	74.3
	寄付金	10,000,000	26,716,937	267.2
	法定寄付金	0	397,177	-
	法人社資	18,000,000	48,150,392	267.5
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	46,150,392	288.4
	計	157,000,000	171,078,439	109.0
令和6年度	一般社資	139,000,000	171,705,863	123.5
	社費金	129,000,000	93,495,166	72.5
	寄付金	10,000,000	78,210,697	782.1
	法定寄付金	0	0	-
	法人社資	18,000,000	50,200,716	278.9
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	48,200,716	301.3
	計	157,000,000	221,906,579	141.3
令和7年度	一般社資	139,000,000	151,705,779	109.1
	社費金	129,000,000	90,489,975	70.1
	寄付金	10,000,000	60,339,804	603.4
	法定寄付金	0	876,000	-
	法人社資	18,000,000	49,174,306	273.2
	法定寄付金	2,000,000	2,000,000	100.0
	その他の社資	16,000,000	47,174,306	294.8
	計	157,000,000	200,880,085	127.9

※ 達成率は小数第2位を四捨五入

## (5) 赤十字への理解と共感を広げる積極的な広報の実施

### ① 徳島新聞での記事連載

毎月第3土曜日に、徳島新聞の暮らし面に「命を守る赤十字活動」と題した記事連載を行い、県内での様々な赤十字活動を紹介するとともに、災害時等に役立つ知識や技術の普及に努めた。

なお、掲載内容は次のとおりである。

掲 載 日	記 事 内 容
令和7年4月19日	大阪・関西万博「赤十字パビリオン」について
5月17日	命を救う AED について
6月21日	災害時の食事管理について
7月19日	多発する川の水難事故
8月16日	献血の日と歴史について
9月20日	逃げ遅れの心理について
10月18日	乳児院のボランティアについて
11月15日	国際活動について
12月20日	発達障害について
令和8年1月17日	はたちの献血について
2月21日	ドクターカーについて
3月21日	こころのケアについて

### ② 赤十字看板や懸垂幕による広報

交通量の多い幹線道路沿いへの赤十字看板の設置を継続するとともに、行政庁舎（県税局徳島支所・藍住町役場）に懸垂幕を設置し、「いのちと健康、尊厳を守る」という日本赤十字社の使命と、その活動原資が赤十字活動支援費であることを広く啓発した。

### ③ 地域に根ざした広報活動の展開

赤十字運動月間を中心に、地域の人々が集まる公共施設等に地区・分区、赤十字奉仕団等の協力を得て「赤十字のぼり」を設置するとともに、四国放送及び県内ケーブルテレビ局の協力を得てスポット CM を放送するなど、地域に根ざした広報活動を展開した。

## (6) 「赤十字レッドライトアッププロジェクト」の実施

世界赤十字デーの5月8日から14日までの間、全国同時展開事業である「赤十字レッドライトアッププロジェクト」を実施した。

徳島市の協力を得て、徳島中央公園「鷺の門」を赤十字カラーである赤色のライトで照らし、赤十字運動月間の普及・啓発に努めた。



ライトアップの様子

## (7) 大阪・関西万博を通しての広報活動

日本赤十字社の創設者・佐野常民が1867年のパリ万博で、「敵味方の区別なく救う」という赤十字の理念に感動し、1877年に前身の博愛社を設立したことから、大阪・関西万博の「赤十字パビリオン（国際赤十字・赤新月運動館）」に関する広報活動を広く展開するとともに、赤十字奉仕団等関係者を中心にパビリオンを訪問いただくことで、赤十字思想の普及を図った。



万博と赤十字に関する講演会の様子

## (8) 赤十字事業説明バス

地域で赤十字活動に深い関わりのある赤十字奉仕団や自治会、町内会等を対象に実施した。

赤十字の仕組みと活動に関する説明や救護倉庫の見学、非常食の炊き出し体験等を行うとともに、板東俘虜収容所跡地に設置している「赤十字ゆかりの地」を見学し、赤十字活動への理解促進に努めた。



炊き出しの説明を受ける参加者

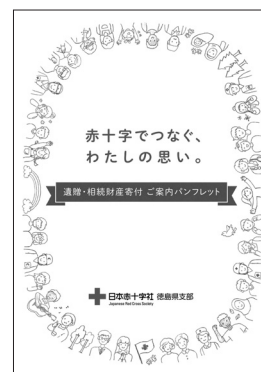
なお、実施状況は次のとおりである。

No.	実施年月日	対 象	参加者数
1	令和7年6月16日	三好市地区赤十字奉仕団三野分団	33名
2	令和7年10月7日	徳島市地区赤十字奉仕団上八万・一宮分団	24名
3	令和7年10月20日	美馬市地区赤十字奉仕団	30名
4	令和7年11月10日	南部地区那賀町（鷺敷）赤十字奉仕団	19名
5	令和7年12月11日	徳島市地区赤十字奉仕団沖洲分団	20名
計5回			126名

### (9) 時代に応じた寄付制度の普及・啓発

超高齢社会を迎え、御香典の寄付や相続財産の寄付、遺贈等の相談が寄せられている中で、寄付者の思いを実現できるように、相談窓口において情報提供や関係機関の紹介を行った。

また、ライフプランに応じた赤十字支援の方法について、ホームページ等での広報活動を行うとともに、遺贈等について分かりやすく説明したパンフレットを関係機関へ送付するなど積極的な情報発信を行った。



遺贈等について説明したパンフレット

### (10) 日本赤十字社功労表彰の実施

長年、赤十字活動に功労のあった方々への顕彰を行い、地域に根ざした赤十字活動の更なる進展を図った。

### (11) 企業等と連携した赤十字活動の推進

企業等の社会貢献活動と連携して、新たに1台の「赤十字活動支援自動販売機」を設置するとともに、「チャリティーボックス（募金箱）」設置場所の拡充を図り、身近で手軽に赤十字支援ができる環境を整備した。

また、自動販売機や募金箱に赤十字マークや人道活動の内容をデザインすることにより、赤十字活動の啓発に努めた。

なお、自動販売機の設置状況は次のとおりである。



赤十字活動支援自動販売機

① 赤十字活動支援自動販売機設置状況

(令和8年3月31日現在)

No.	市町村名	設置場所	No.	市町村名	設置場所	
1	徳島市	株式会社阿波銀行 本店	53	小松島市	徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院	
2		株式会社阿波銀行 本店	54		徳島赤十字病院	
3		株式会社阿波銀行 本店	55		徳島赤十字病院	
4		株式会社阿波銀行 本店	56		徳島赤十字病院 工事現場*	
5		株式会社阿波銀行 事務センター	57		徳島赤十字病院 工事現場*	
6		株式会社阿波銀行 事務センター	58		阿南市	日亜化学工業株式会社
7		株式会社阿波銀行 本店営業部	59	日亜化学工業株式会社		
8		阿波銀住友生命ビル*	60	日亜化学工業株式会社		
9		あわぎん相談プラザ*	61	阿南川島クリニック*		
10		株式会社阿波銀行 研修所	62	キョーエイ 羽ノ浦店		
11		株式会社阿波銀行 研修所	63	本庄公会堂*		
12		株式会社阿波銀行 福島支店	64	長生町自販機コーナー*		
13		株式会社阿波銀行 昭和町支店	65	原嘉彦氏所有地		
14		株式会社阿波銀行 川内支店*	66	吉野川市		日本フネン株式会社
15		株式会社阿波銀行 徳島北支店	67			鴨島川島クリニック
16		株式会社阿波銀行 中洲管理センター	68		株式会社阿波銀行 鴨島支店*	
17		株式会社阿波銀行 新町ビル前公園*	69		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター	
18		沖洲コミュニティセンター*	70		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター	
19		徳島県医師会館	71		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター	
20		徳島県医師会館*	72		株式会社阿波銀行 鴨島事務センター	
21		キョーエイ 沖浜店	73		阿波市	阿波中央バス*
22		キョーエイ 山城橋店	74	美馬市	有限会社三宅生コン*	
23		キョーエイ 三ッ合橋店	75		株式会社北岡組	
24		ショッピングプラザタクト	76	石井町	株式会社阿波銀行 石井支店	
25		川島病院	77	松茂町	徳島阿波おどり空港	
26		川島病院	78		株式会社阿波銀行 松茂支店	
27		川島病院	79	北島町	四国化工機株式会社	
28		川島病院	80		キョーエイ 北島店	
29		川島病院	81		株式会社渡辺不動産*	
30		川島病院	82		渡辺不動産サンチュエリップタウン*	
31		川島病院*	83		株式会社阿波銀行 北島支店	
32		川島病院 工事現場*	84		藍住町	キョーエイ 笠木店
33		川島病院 工事現場*	85			株式会社吉岡組*
34		社会福祉法人飛鳥	86			稲次整形外科病院
35		社会福祉法人飛鳥	87	かねこみそ株式会社*		
36		社会福祉法人飛鳥*	88	かねこみそ株式会社		
37		阿波製紙株式会社	89	かねこみそ株式会社		
38		一般社団法人徳島新聞社	90	藍住川島クリニック		
39		トクノウ(株)*	91	藍住川島クリニック		
40		トクノウ(株)	92	藍住町歴史館 藍の館*		
41		高橋利弘氏所有地	93	藍住町総合文化ホール		
42		岸化学グループ	94	板野町	上田食品店*	
43		喜多機械産業株式会社	95	テック情報株式会社		
44		リハビリテーション大神子病院	96	美波町	美波町国民健康保険美波病院	
45		ハッピースクエア	97		美波町医療保健センター	
46		日本赤十字社徳島県支部	98	海陽町	株式会社丸本	
47		キョーエイ 鳴門店	99		株式会社丸本	
48		鳴門クルーズサービス有限会社	100	株式会社丸本ホットフーズ		
49		日亜化学工業株式会社	101	つるぎ町	カラオケコスモス*	
50		小松島市	徳島赤十字ひのみね医療療育センター	102	東みよし町	東みよし町社会福祉協議会
51			徳島赤十字ひのみね医療療育センター	103		三好デイサービスセンターさざんか荘*
52			徳島赤十字ひのみね医療療育センター			

※ 網掛けは、令和7年度に設置した支援自販機

※ \*印は、一時待避または撤去した支援自販機

## 2 災害救護体制の充実・強化

南海トラフ巨大地震の発生が懸念されるなか、近年は豪雨災害の激甚化に加え、気候変動を背景とする災害の多様化・複合化が進んでいる。

これらの災害に迅速かつ的確に対応するため、当支部では、平時からの救護体制の強化を目的に、各種救護訓練や研修の充実を図るとともに、関係機関との連携強化や資機材整備を進め、災害発生直後から慢性期まで切れ目のない医療救護活動が展開できる体制づくりに取り組んだ。

### (1) 救護班の編成

医師や看護師、薬剤師等で編成する医療救護班をはじめ、災害急性期に活動するための専門的な訓練を受けた DMAT や、災害時における心理的苦痛の予防と軽減を図るためのこころのケア指導者の育成、また被災地の保健医療福祉調整本部等で救護活動のコーディネート業務を担う「日赤災害医療コーディネーターチーム」を編成するなど、有事即応の体制を整えている。

医療救護班等の編成状況は、次のとおりである。

#### ① 医療救護班の編成

(人)

施設名	職種	医師 (班長)	臨床研修 医師	看護 師長	看護 師	薬剤師	主事 (自動車操作員 を兼ねる)	福祉 専門職	計
徳島赤十字病院 (5 個班)		5	10	5	20	5	5	—	50
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター (1 個班)		1	—	1	4	1	1	1	9
徳島県赤十字血液センター (1 個班)		1	—	1	4	1	1	—	8
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター 附属乳児院		—	—	—	1	—	—	1	2
計 (7 個班)		7	10	7	29	7	7	2	69

(注) 1 個班の編成基準

医師 1 人                      看護師長 1 人                      看護師 4 人  
 薬剤師 1 人                      主事 (自動車操作員を兼ねる) 1 人                      計 8 人

※徳島赤十字病院は、1 個班あたり 2 名～ 3 名の臨床研修医師を加えて編成

※徳島赤十字ひのみね医療療育センター及び同センター附属乳児院の福祉専門職等は、被災地のニーズにあわせ、臨機的に救護班に加わり活動する。

② 日赤徳島 DMAT [災害派遣医療チーム] (3チーム) (人)

施設名 \ 職種	医 師	看 護 師	業務調整員
日本赤十字社徳島県支部	－	－	1
徳島赤十字病院	4	10	15

(注) 1チームの編成基準 (基本)

医師1人 看護師2人 業務調整員1人 計4人

③ 日赤災害医療コーディネーターチーム (3チーム) (人)

名称 \ 職種	医 師	看護師	事務職員	計
災害医療 コーディネーター	3	－	－	3
災害医療コーディネーター スタッフ	－	2	7	9

(注) 1チームの編成基準 (基本)

医師1人 看護師・事務職員等3人 計4人

④ こころのケア指導者 (人)

施設名 \ 職種	看 護 師	公認心理師 臨床心理士	計
徳島赤十字病院	15	－	15
徳島赤十字ひのみね 医療療育センター	5	1	6

(2) 各種災害救護訓練・研修等の実施及び参加

救護活動に必要な知識と技術を習得するため、全救護班要員を対象とした救護班要員研修や救護班主事を対象とした実働研修等を実施した。

また、日本赤十字社中国・四国ブロック災害救護訓練に参加し、各県支部相互の連携体制を強化するとともに、自治体等が主催する訓練等に積極的に参加し、災害対応力の向上に努めた。



中国・四国ブロック災害救護訓練で、患者の手当を行う徳島県支部救護員

① 支部が主催する救護員に対する研修の実施

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)
令和7年 4月12日	日本赤十字社徳島県支部救護班要員研修	徳島赤十字 病院	117
7月11日	日本赤十字社徳島県支部救護班要員 主事研修	日本赤十字社 徳島県支部	11

② 日本赤十字社本社並びに中国・四国ブロックが実施する訓練及び研修会

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部	施設
令和7年 8月30日 ～31日	日赤災害医療コーディネート研修会	本社	-	3
10月22日 ～23日	こころのケア指導者養成講習会	本社	-	1
11月8日 ～9日	日本赤十字社中国・四国ブロック(第5 ブロック)各県支部合同災害救護訓練	高知県	4	10
令和8年 3月1日	日赤災害医療コーディネートフォロー アップ研修会	WEB形式	-	14

③ 他機関が実施する災害救護訓練等

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部等	施設・Vo
令和7年 10月24日	徳島県総合防災訓練	三好市	2	5
令和8年 1月20日	徳島県災害対策本部訓練	徳島県庁	1	-
2月5日	徳島県国民保護共同訓練	徳島県庁	1	-

④ DMAT 関係訓練・研修への参加

開催年月日	名 称	実施場所	参加者(人)	
			支部	施設
令和7年 6月26日 ～27日	徳島ローカルDMAT 隊員養成研修	徳島市	-	2
9月5日 ～6日	大規模地震時医療訓練	北海道・ 東北	-	6
9月13日 ～16日	日本DMAT 隊員養成研修	大阪府	-	1
12月2日 ～4日	日本DMAT 隊員養成研修	愛知県	-	2

### (3) 救護物資及び救護資材

南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、救護所及び後方支援の拠点として設置する天候万能型フレーム一体式テントをはじめ、赤十字の救護活動を自己完結するための車両として救護員輸送車等を整備している。



牟岐町に設置している南部救護倉庫

また、道路が寸断された災害時にも迅速に活動が展開できるよう、県南部及び西部に設置している救護倉庫に救護資機材等を備蓄している。

さらには、原子力災害の発生やその恐れがある場合に対応するためのデジタル個人線量計や防護服セット等、災害対応能力強化を図るための資器材も整備し、災害に備えている。

#### ① 救護装備一覧

(令和8年3月31日現在)

品名	数量	品名	数量
災害救援車（普通自動車）	4台	防護マスク	12個
災害救援車（トラック）	1台	防護服	12着
フレーム一体式テント	2張	デジタル個人線量計	7台
エアertent	3張	防護服セット	7セット
除染テント	1張	寝袋	49枚
簡単テント	2張	敷きマット	28枚
パイプテント	1張	エア枕	500個
救護所用冷暖房器	3台	救命胴衣	10着
発電機	5台	災害用移動炊飯器	4台
投光器	19台	衛星携帯電話（モバイル）	1台
医療セット	2セット	衛星携帯電話（設置型）	1台
初動用医療セット	1セット	簡易無線機	7台
折り畳み寝台	21台	業務用無線局（150MHz）基地局	4台
担架	12本	〃 移動局	10台
担架台	4組	業務用無線局（400MHz）基地局	1台
バックボード	4台	〃 移動局	22台
ラップ式簡易トイレ	12台	アマチュア無線機	14台
簡易型トイレ	53個	充電式LEDライト	19台
災害救護用自転車	1台	折り畳みテーブル	10台
カセットガスストーブ	5台	ハイブリッド発電機	7台
スポットクーラー	2台	弾性ストッキング	1,000足
折り畳みチェア	30脚	段ボールベッド（要配慮者用）	50セット
災害用アルミボート（船外機付）	1艇	段ボールベッド（乳児用）	50セット
蓄電池（大）	2セット	災害用段ボールトイレ	40個
蓄電池（小）	3セット	非常用トイレセット（袋・凝固剤）	10個

② 南部救護倉庫収納資機材一覧

(令和8年3月31日現在)

品名	数量	品名	数量
災害対策用ワンタッチ多目的テント	1式	ラップ式トイレ専用折り畳み個室	2個
全方位型LED投光器	2台	簡易型トイレ	10個
発動発電機	2台	個室型ワンタッチテント	10張
コードリール	2本	備蓄用長尺トイレトーパー	10ロール
担架	2本	災害用段ボールトイレ	30個
折り畳み寝台	10台	非常用トイレセット(袋・凝固剤)	10個
テーブル・椅子セット	3セット	ガソリン携行缶	1個
折り畳みリヤカー	1台	災害用移動炊飯器	2台
台車	1台	カセットコンロ・カセットガス	1セット
ノーパンク折り畳み自転車	1台	大型やかん	1個
折り畳み式ホワイトボード	2台	大型なべ	1個
トリアージタグ	200枚	毛布	240枚
防水型メガホン	2台	緊急セット	30セット
防水シート	3箱	安眠セット	60セット
シャベル	3本	大判バスタオル	120枚
救助用レンジャーロープ	1本	タオルケット	120枚
遠赤石油ストーブ	2台	タオル・石けん	1箱
保存用飲料水	108ℓ	段ボールベッド	10個
ラップ式移動型トイレ	2台	間仕切り	10個
段ボールベッド(要配慮者用)	7セット	段ボールベッド(乳児用)	7セット

③ 西部救護倉庫収納資機材一覧

(令和8年3月31日現在)

品名	数量	品名	数量
災害時活動用テント(付属品含)	2張	ラップ式移動型トイレ(付属品含)	1セット
災害用移動炊飯器(付属品含)	2台	災害用段ボールトイレ	30個
折りたたみ机	4台	非常用トイレセット(袋・凝固剤)	10個
折りたたみ椅子	16脚	備蓄用トイレトーパー	1箱
防水シート	10枚	ライティングシート	2本
段ボールベッド(要配慮者用)	3セット	投光器	4台
段ボールベッド(乳児用)	3セット		

④ 救援物資備蓄状況

(令和8年3月31日現在)

区分	前年度繰越数	県外からの受入数	本年度購入数	計①	本年度払出数	その他払出数	計②	残数①-②
毛布	2,736	0	0	2,736	47	0	0	2,689
緊急セット	1,008	0	0	1,008	30	12	0	966
安眠セット	370	0	0	370	0	9	0	361
大判バスタオル	972	0	0	972	0	0	0	972
タオルケット	1,249	0	0	1,249	0	0	0	1,249



毛布



緊急セット



大判バスタオル



安眠セット



タオルケット

#### (4) 災害用移動炊飯器を活用した炊き出し訓練の実施

県下217カ所の学校や公民館等に配備している災害用移動炊飯器を活用し、赤十字奉仕団等が各地域で炊き出し訓練等を実施し、災害に強い地域づくりや災害への備えを進めるとともに、災害時の食に対する支援体制の充実・強化を図った。



地域で災害用移動炊飯器を活用して、炊出訓練を行う地域赤十字奉仕団

##### ① 災害用移動炊飯器設置状況

(令和8年3月31日現在)

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所
1	徳島市	内町コミュニティセンター	10	徳島市	渭東コミュニティセンター
2		内町小学校	11		住吉・城東コミュニティセンター
3		出来島公園防災倉庫	12		徳島商業高等学校
4		新町公民館	13		徳島中学校
5		西富田コミュニティセンター	14		渭北コミュニティセンター
6		東富田コミュニティセンター	15		佐古コミュニティセンター
7		昭和コミュニティセンター	16		佐古コミュニティセンター
8		徳島市昭和地区猪之津株式会社 昭和倉庫	17		沖洲コミュニティセンター
9		渭東コミュニティセンター	18		沖洲小学校

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所	
19	徳島市	津田コミュニティセンター	61	鳴門市	鳴門市福祉事務所	
20		津田中学校	62		鳴門市福祉事務所	
21		津田小学校	63		鳴門市婦人会館	
22		加茂名コミュニティセンター	64		木津地区ふれあい公園防災倉庫	
23		ショッピングプラザタクト	65		里浦公民館	
24		神明神社防災倉庫	66		里浦小学校	
25		若宮神社防災倉庫	67		鳴門西地区防災倉庫	
26		喜多機械産業株式会社	68		北灘公民館	
27		加茂コミュニティセンター	69		堀江公民館	
28		千松小学校	70		堀江公民館	
29		城西中学校	71		鳴門東地区コミュニティセンター	
30		八万中央コミュニティセンター	72		黒崎集会所	
31		八万中央コミュニティセンター	73		黒崎集会所	
32		夷山緑地	74		矢倉集会所	
33		八万小学校	75		渦潮ふれあい館	
34		八万南小学校	76		瀬戸公民館	
35		城南高等学校	77		瀬戸公民館	
36		ふれあい健康館	78		島田小学校	
37		勝占中部コミュニティセンター	79		北泊公民館	
38		勝占東部コミュニティセンター	80		明神北集会所	
39		方上公民館	81		日出集会所	
40		論田小学校	82		徳島県赤十字有功会 鳴門シーガル病院	
41		多家良中央コミュニティセンター	83		徳島県赤十字有功会 鳴門シーガル病院	
42		丈六コミュニティセンター	84		鳴門公民館	
43		上八万地区ボランティアセンター	85		川東公民館	
44		上八万小学校	86		斎田集会所	
45		一宮小学校	87		折野北条集会所	
46		入田コミュニティセンター	88		板東南ふれあいセンター	
47		入田中学校	89		岡田石油有限会社	
48		不動コミュニティセンター	90		小松島市	小松島市役所
49		川内町民会館	91			サウンドハウスホール
50		川内町民会館	92			徳島赤十字病院
51		川内南小学校	93			徳島赤十字ひのみね医療療育センター
52		徳島県赤十字有功会 株式会社キョーエイ本部	94			みなと高等学園
53		徳島県赤十字有功会 株式会社キョーエイ本部	95			立江小学校
54		応神コミュニティセンター	96			新開公民館
55		応神コミュニティセンター	97	櫛淵公民館		
56		国府コミュニティセンター	98	JA 東とくしま旧和田島支所倉庫		
57		南井上コミュニティセンター	99	阿南市		阿南市役所
58		南井上コミュニティセンター	100		橘地区防災公園	
59		北井上コミュニティセンター	101		ショッピングプラザアピカ	
60		北井上コミュニティセンター	102		大野公民館	

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所	
103	阿南市	宝田公民館	145	佐那河内村	佐那河内村役場	
104		新野公民館	146		佐那河内村社会福祉協議会	
105		福井公民館	147		佐那河内村社会福祉協議会	
106		那賀川公民館	148		佐那河内小・中学校	
107		徳島県建設業協会阿南支所	149	石井町	石井中学校	
108		中野島総合センター	150		高浦中学校	
109		長生公民館	151		石井町社会福祉協議会	
110		富岡公民館	152		石井町地域防災交流センター	
111		阿南市勤労女性センター	153		平島水防倉庫	
112		桑野公民館	154		神山町	神山町社会福祉協議会
113		加茂谷公民館	155			神山町社会福祉協議会
114	吉野川市	鴨島公民館	156	松茂町	下分公民館	
115		上浦公民館	157		松茂町役場	
116		西麻植会館	158		松茂町役場	
117		牛島公民館	159		松茂町津波防災センター	
118		川島公民館	160		松茂町社会福祉協議会	
119		山川地域総合センター	161		喜来小学校	
120	阿波市	阿波市役所	162		北島町	徳島阿波おどり空港
121		阿波市役所 阿波支所	163			松茂小学校
122		阿波市役所 土成支所	164	北島町	北島町社会福祉協議会	
123		阿波市役所 吉野支所	165		北島町社会福祉協議会	
124		大保公民館	166		北島町社会福祉協議会	
125		大保公民館	167		北島小学校	
126	美馬市	美馬市総合防災倉庫	168	藍住町	藍住町社会福祉協議会	
127		三島会館	169		藍住町社会福祉協議会	
128		有限会社藤田計夫商店	170		藍住東小学校	
129		美馬市消防本部	171		藍住西小学校	
130	三好市	三好市防災倉庫	172		藍住南小学校	
131		池田町中央公民館	173		藍住北小学校	
132		三好市社会福祉協議会	174	板野町	板野町災害対策用備蓄倉庫	
133		三好市社会福祉協議会 三野支所	175		板野町社会福祉協議会	
134		三好市社会福祉協議会 山城支所	176		板野南小学校	
135		三好市社会福祉協議会 西祖谷支所	177		板野西小学校	
136		三好市社会福祉協議会 東祖谷支所	178		板野町南公会堂	
137		勝浦町役場	179		板野町民ふれあいプラザ	
138	勝浦町	勝浦町農村環境改善センター	180	上板町	上板町社会福祉協議会	
139		勝浦町福祉センター	181		高志消防コミュニティセンター	
140		勝浦町民体育館	182		大山消防コミュニティセンター	
141	上勝町	旭基幹集落センター	183		松島消防コミュニティセンター	
142		上勝町社会福祉協議会	184	那賀町	那賀町役場	
143		高鋒公民館	185		那賀町役場 木沢支所	
144		福原ふれあいセンター	186		那賀町役場 木頭支所	

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所
187	那賀町	那賀町平谷出張所	203	海陽町	海陽町役場 海部庁舎
188		平谷小学校	204		株式会社丸本（災害避難場所）
189		桜谷小学校	205		株式会社丸本（災害避難場所）
190		鷺敷中央公民館	206	つるぎ町	つるぎ町役場
191	美波町	南部総合県民局 美波庁舎	207		つるぎ町役場
192		美波町ストックヤード	208		つるぎ町役場
193		美波町ストックヤード	209		つるぎ町役場 半田支所
194		美波病院	210		つるぎ町役場 一字支所
195		木岐聖ヶ丘農林漁業体験施設	211		つるぎ町役場 一字支所
196	牟岐町	牟岐町役場 高倉倉庫	212	東みよし町	東みよし町社会福祉協議会
197		牟岐町役場 西山倉庫	213		東みよし町社会福祉協議会
198		牟岐町役場 西山倉庫	214		東みよし町デイサービスさざんか荘
199		牟岐町役場 西山倉庫	215		東みよし町デイサービスさざんか荘
200	海陽町	海陽町役場 海部庁舎	216		東みよし町デイサービスさざんか荘
201		海陽町役場 海部庁舎	217		東みよし町デイサービスさざんか荘
202		海陽町役場 海部庁舎			

### (5) 赤十字災害用移動炊飯器「専用鉄板」の配備

南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、非常食のメニューの幅を広げるとともに長期の避難生活を見据えた地域での「食」の支援体制の充実・強化を図るため、地域へ配備している「赤十字災害用移動炊飯器」で調理可能な「専用鉄板」を全地区・分区へ配備している。



災害用移動炊飯器「専用鉄板」を活用して炊き出しを行う地域赤十字奉仕団等

本年度は、中央構造線・活断層地震等における被災者支援体制の更なる強化を図るため、吉野川流域の10地区・分区に「専用鉄板」の追加配備を行った。

#### ① 災害用移動炊飯器「専用鉄板」配備状況

(令和8年3月31日現在)

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所
1	徳島市	内町	7	徳島市	渭北
2		新町	8		佐古
3		西富田	9		沖洲
4		東富田	10		津田
5		昭和	11		加茂名
6		渭東	12		加茂

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所		
13	徳島市	八万	八万中央コミュニティセンター	42	東部	佐那河内村	佐那河内村社会福祉協議会
14		勝占	勝占中部コミュニティセンター	43		佐那河内村	佐那河内村災害備蓄倉庫
15		多家良	多家良中央コミュニティセンター	44		石井町	石井町社会福祉協議会
16		上八万	上八万地区ボランティアセンター	45			石井町社会福祉協議会
17		入田	入田コミュニティセンター	46		神山町	神山町社会福祉協議会
18		不動	不動コミュニティセンター	47			神山町社会福祉協議会
19		川内	川内町民会館	48		松茂町	松茂町社会福祉協議会
20		応神	応神コミュニティセンター	49			松茂町役場
21		国府	国府コミュニティセンター	50		北島町	北島町社会福祉協議会
22		南井上	南井上コミュニティセンター	51			北島町社会福祉協議会
23		北井上	北井上コミュニティセンター	52		藍住町	藍住町社会福祉協議会
24	鳴門市地区	鳴門市役所	53	藍住町社会福祉協議会			
25		鳴門市役所	54	板野町	板野町社会福祉協議会		
26	小松島市地区	サウンドハウスホール	55		板野町社会福祉協議会		
27		サウンドハウスホール	56	上板町	上板町社会福祉協議会		
28	阿南市地区	阿南市役所	57		上板町社会福祉協議会		
29		阿南市役所	58	那賀町	那賀町役場相生支所		
30	吉野川市地区	鴨島公民館	59		那賀町役場相生支所		
31		鴨島公民館	60	美波町	美波町医療保健センター		
32	阿波市地区	阿波市役所	61		美波病院		
33		阿波市役所	62	牟岐町	牟岐町役場		
34	美馬市地区	美馬市福祉事務所	63		牟岐町役場西山倉庫		
35		美馬市福祉事務所	64	海陽町	海陽町役場海部庁舎		
36	三好市地区	三好市役所井川支所	65		海陽町役場海部庁舎		
37		三好市役所井川支所	66	つるぎ町	つるぎ町役場		
38	東部	勝浦町役場	67		つるぎ町役場		
39		勝浦町	68	東みよし町	東みよし町社会福祉協議会		
40		上勝町	上勝町社会福祉協議会		69	東みよし町社会福祉協議会	
41			上勝町社会福祉協議会				

※ゴシック体は、令和7年度に配備した地区・分区

## (6) 赤十字災害時活動用テントの配備

地域における災害時の炊き出し支援活動や平時の防災訓練等において、簡単に設営が可能な折りたたみ式テントを地区・分区に83張配備している。

赤十字奉仕団や自主防災組織等が、地域の防災訓練等で活用することにより、地域の災害対応力の向上を図った。



地域でテントの組み立て訓練を行う地域赤十字奉仕団等

## ① 赤十字災害時活動用テント配備状況

(令和8年3月31日現在)

No.	地区・分区	設置場所	No.	地区・分区	設置場所
1	徳島市	内町コミュニティセンター	43	阿波市	阿波市役所
2		新町コミュニティセンター	44		吉野地域福祉センターこすもす
3		西富田コミュニティセンター	45	美馬市	美馬市福祉事務所
4		東富田コミュニティセンター	46		美馬市福祉事務所
5		昭和コミュニティセンター	47		美馬市社会福祉協議会
6		渭東コミュニティセンター	48	三好市	三好市中央公民館
7		渭北コミュニティセンター	49		三好市社会福祉協議会
8		佐古コミュニティセンター	50	勝浦町	勝浦町民体育館
9		沖洲コミュニティセンター	51		勝浦町農村改善環境センター
10		津田コミュニティセンター	52	上勝町	上勝町旭基幹集落センター
11		加茂名地区名東3丁目自主防災会防災倉庫	53		上勝町高鋒公民館
12		加茂コミュニティセンター	54	佐那河内村	佐那河内村 防災倉庫
13		八万中央コミュニティセンター	55		佐那河内村災害備蓄倉庫
14		勝占中部コミュニティセンター	56	石井町	石井町社会福祉協議会
15		多家良中央コミュニティセンター	57		石井町社会福祉協議会
16		上八万小学校	58	神山町	神山町社会福祉協議会
17		入田コミュニティセンター	59		神山町社会福祉協議会
18		不動コミュニティセンター	60	松茂町	松茂町老人福祉センター
19		川内町民会館	61		松茂町老人福祉センター
20		応神コミュニティセンター	62	北島町	北島町社会福祉協議会
21		徳島市立考古資料館敷地内防災倉庫	63		北島町社会福祉協議会
22		南井上コミュニティセンター	64	藍住町	藍住町福祉センター
23		北井上コミュニティセンター	65		藍住町社会福祉協議会
24	鳴門市	鳴門市役所	66	板野町	板野町町民センター
25		鳴門公民館	67		板野町社会福祉協議会
26		林崎防災倉庫	68	上板町	上板町社会福祉協議会
27		矢倉消防団詰所	69		上板町社会福祉協議会
28		堀江公民館	70	那賀町	那賀町役場 相生庁舎
29	サウンドハウスホール	71	那賀町役場 相生庁舎		
30	小松島市	JA とくしま旧和田島支所倉庫	72	美波町	日和佐公民館
31		和田島緑地公園倉庫	73		美波町医療保健センター
32	阿南市	富岡公民館	74	牟岐町	牟岐町役場 西山倉庫
33		羽ノ浦公民館	75		牟岐町役場 西山倉庫
34		大野公民館	76	海陽町	海陽町役場 海部庁舎
35		長生公民館	77		海陽町役場 海部庁舎
36		見能林公民館	78	つるぎ町	つるぎ町役場
37		新野公民館	79		つるぎ町役場
38		吉野川市	吉野川市役所	80	東みよし町
39	ふるさとセンター		81	東みよし町デイサービスさざんか荘	
40	川島公民館		82	その他	日本赤十字社徳島県支部
41	山川地域総合センター倉庫		83		日本赤十字社徳島県支部
42	阿波市	阿波市大俣公民館			

## (7) 大規模災害時における要支援者支援体制の強化

これまでの東日本大震災や熊本地震等における救護活動の経験を踏まえ、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害時に、長期にわたる避難所生活において特に支援が必要な要配慮者や乳児を対象とした「赤十字要支援者用段ボールベッド」を当支部で独自開発し、全地区・分区へ配備している。

本年度は、当支部が県南部及び西部へ設置している赤十字救護倉庫へ配備し、災害時における地域の要支援者支援体制の充実・強化を図った。



要配慮者用



乳児用

### ① 災害時要支援者用段ボールベッドの整備数 (令和8年3月31日現在)

地区・分区	設置場所	配備年度	配備数	
			要配慮者用	乳児用
赤十字	日本赤十字社徳島県支部	令和2年度	50	50
	赤十字南部救護倉庫	令和7年度	7	7
	赤十字西部救護倉庫	令和7年度	3	3
徳島市	旧徳島市社会福祉センター分館	令和4年度	10	10
		令和6年度	5	5
鳴門市	トリーデなると	令和3年度	10	10
	鳴門市人権福祉センター	令和5年度	5	5
小松島市	サウンドハウスホール	令和3年度	10	10
		令和5年度	5	5
阿南市	阿南市役所(防災倉庫)	令和3年度	10	10
	阿南ひまわり会館	令和5年度	5	5
吉野川市	川島かもめこども園3F	令和4年度	10	10
	日本フネン市民プラザ	令和6年度	5	5
阿波市	大俣公民館	令和4年度	10	10
		令和6年度	5	5
美馬市	美馬市総合防災倉庫	令和4年度	10	10
	美馬市総合防災倉庫	令和6年度	5	5
三好市	三好市社会福祉協議会 本所	令和4年度	1	1
	旧池田第一中学校	令和4年度	3	7

地区・分区	設 置 場 所	配備年度	配 備 数	
			要配慮者用	乳児用
三 好 市	旧 池田第一中学校	令和 6 年度	5	5
	三好市社会福祉協議会 西祖谷支所	令和 4 年度	3	1
	三好市社会福祉協議会 東祖谷支所	令和 4 年度	3	1
勝 浦 町	生名希望の広場 防災倉庫	令和 3 年度	5	5
上 勝 町	上勝町コミュニティセンター	令和 3 年度	5	5
佐 那 河 内 村	佐那河内村防災倉庫	令和 3 年度	5	3
	佐那河内村多目的地域交流施設	令和 5 年度	5	3
石 井 町	石井町備蓄倉庫	令和 4 年度	5	5
		令和 6 年度	5	5
神 山 町	神山町社会福祉協議会	令和 3 年度	5	5
	神山町役場防災倉庫	令和 5 年度	5	5
松 茂 町	松茂町老人福祉センター松鶴苑	令和 3 年度	5	5
		令和 5 年度	5	5
北 島 町	北島町社会福祉協議会	令和 3 年度	2	0
	北島東児童館	令和 3 年度	1	1
	北島西児童館	令和 3 年度	1	1
	北島町 中央地区学習等供用施設	令和 5 年度	2	3
	北島町 南部地区学習等供用施設	令和 5 年度	2	2
	北島町 北部地区学習等供用施設	令和 5 年度	2	3
藍 住 町	藍住町総合文化ホール	令和 4 年度	5	5
	藍住町防災備蓄倉庫	令和 6 年度	5	5
板 野 町	板野町防災ステーション	令和 4 年度	5	5
	板野町災害備蓄倉庫	令和 6 年度	5	5
上 板 町	上板町社会福祉協議会	令和 4 年度	5	5
那 賀 町	延野体育館	令和 4 年度	3	3
		令和 5 年度	2	2
美 波 町	美波町防災備蓄倉庫	令和 3 年度	5	5
	美波町北河内水防倉庫	令和 5 年度	5	0
牟 岐 町	中村地域活性化センター 3階	令和 3 年度	5	5
		令和 5 年度	5	5
海 陽 町	海陽町役場海部庁舎	令和 3 年度	3	5
		令和 5 年度	2	2
	海陽町役場穴喰庁舎	令和 5 年度	3	3
つ る ぎ 町	貞光中学校 (体育館)	令和 4 年度	5	5
		令和 6 年度	5	5
東 み よ し 町	旧三好学校給食センター	令和 4 年度	5	5
		令和 6 年度	5	5
合 計			318	311

※ゴシック体は、令和 7 年度に配備した地区・分区

② 赤十字要支援者用段ボールベッド設営訓練実施状況

(人)

対象・主催等	受講者数	対象・主催等	受講者数
ひのみね医療療育センター	50	吉野川市地区赤十字奉仕団 川島分団	29
住吉城東コミュニティセンター	42	計 3 回	121

(8) 地域における防災・減災事業の推進

過去の災害の教訓や当支部の救護活動の経験を通して、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震等の大規模災害から、いのちを守り被害を最小限に抑えるために、災害や防災についての考え方、平時の備えについて啓発を図る「防災セミナー」を学校や地域において実施した。



地域住民を対象とした「防災セミナー」

なお、実施状況は、次のとおりである。

① 講習実施状況

(人)

対象・主催等	受講者数	対象・主催等	受講者数
藤田商事株式会社	42	ふらっと KOKUFU	48
吉野川市社会福祉協議会	58	徳島県シルバー大学校	18
佐那河内中学校	19	三好市社会福祉協議会西祖谷支所	16
三好市社会福祉協議会 三好市板野地区自主防災会	23	徳島県シルバー大学校	36
		鳴門教育大学附属中学校	415
海陽町赤十字奉仕団	88	上板町役場	200
佐古コミュニティセンター	33	鴨島東中学校	32
鳴門市教育委員会総合教育人權課	17	吉野川市地区赤十字奉仕団山川分団	36
板野南小学校	33	不動自主防災連合会	34
北灘地区自治振興会	123	鳴門市学校教育課	29
吉野川市社会福祉協議会	57	藍住西幼稚園	128
福井中学校	24	北島町社会福祉協議会	23
徳島市立高等学校	21	藍住町社会福祉協議会	68
とくしまあいランド推進協議会	34	計 26 回	1,655

### (9) 臨時救護の状況

屋外行事やスポーツ競技、各種イベントの救護や小学校での福祉体験学習のサポートを実施した。

回数	派遣人数
16回	32人

### (10) 赤十字小規模災害見舞金等交付状況

県内で発生した災害により死亡または行方不明、もしくは住家が全焼（壊）・半焼（壊）・流失・床上浸水の被害をうけた住民に対し、次の基準により見舞金品を交付した。

#### ① 交付基準

被害別	区分	見舞金 (弔慰金)	毛 布	緊急セット
死亡 行方不明		30,000円		
全焼 全壊 流失		20,000円	1人に1枚	1世帯に1個 (3人まで) 1世帯に2個 (4人以上)
半焼・半壊		10,000円		1世帯に1個
床上浸水				

(注) 小規模災害に対する赤十字見舞金品交付要領に基づく。(災害救助法が適用される場合及び自己放火の火災については除く。)

#### ② 市町村別交付状況

区 分	死 亡 行方不明 (件)	全焼・全壊 世帯件数 (件)	半焼・半壊 世帯件数 (件)	床上浸水 世帯件数 (件)	見舞金等交付状況			
					見舞金 (円)	毛 布 (枚)	緊急セット (個)	
市 地 区	徳島市地区	3	3	2	0	150,000	9	4
	鳴門市地区	0	11	0	0	220,000	11	11
	小松島市地区	0	0	0	0	0	0	0
	阿南市地区	0	2	0	0	40,000	3	2
	吉野川市地区	0	3	0	0	60,000	4	3
	阿波市地区	1	2	0	0	70,000	6	2
	美馬市地区	1	3	0	0	70,000	7	3
	三好市地区	0	0	0	0	0	0	0
	市地区計	5	24	2	0	610,000	40	25

区 分	死 亡 行方不明 (件)	全焼・全壊 世帯件数 (件)	半焼・半壊 世帯件数 (件)	床上浸水 世帯件数 (件)	見舞金等交付状況			
					見舞金 (円)	毛 布 (枚)	緊急セット (個)	
東 部 地 区	勝 浦 町 分 区	1	1	0	0	30,000	0	0
	上 勝 町 分 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	佐那河内村分区	0	0	0	0	0	0	0
	石 井 町 分 区	0	1	0	0	20,000	3	1
	神 山 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	松 茂 町 分 区	0	1	0	0	20,000	1	1
	北 島 町 分 区	0	3	0	0	60,000	0	0
	藍 住 町 分 区	0	2	0	0	40,000	2	2
	板 野 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	上 板 町 分 区	0	2	0	0	40,000	0	0
	計	1	11	0	0	230,000	7	5
南 部 地 区	那 賀 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	美 波 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	牟 岐 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	海 陽 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0
西 部 地 区	つ る ぎ 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	東 み よ し 町 分 区	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0
町 村 分 区 計	1	11	0	0	230,000	7	5	
合 計	6	35	2	0	840,000	47	30	

(11) 国内の災害義援金の受付状況

(令和8年3月31日現在)

区 分	件 数 (件)	受 付 額 (円)
令和6年能登半島地震災害義援金	68	2,132,515
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	36	286,074
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	9	694,491
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	3	37,476
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	1	7,476
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	6	40,825
令和7年台風第12号災害義援金	2	17,477
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	2	17,476
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	1	10,000
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	8	558,017
計	136	3,801,827

### 3 赤十字の救急法等の普及活動

「いのちと健康」を守るという赤十字の基本理念「人道」を、具体的な知識と技術として県民に普及するため、対面での講習に加え、リモート講習も併用しつつ、工夫を凝らした赤十字講習を県内各地で実施した。これにより、県民が日常生活の中で安全に過ごせるよう支援するとともに、不測の事態に直面した際には迅速かつ適切な手当が行えるよう、技術の普及に努めた。

また、気候変動に伴う気温上昇の影響で熱中症が増加傾向にあることを踏まえ、熱中症予防に関する内容を盛り込んだ講習を積極的に展開し、予防啓発の強化に取り組んだ。

#### (1) 救 急 法

地域や学校、職域等において、心肺蘇生や AED の使用方法を中心とした一次救命処置の普及に取り組んだ。普及にあたっては、従来の集合形式による講習に加え、学校におけるプール時期など講習ニーズが重なる時期にも柔軟に対応できるよう、リモートによる講習も併用し、多くの人々に効果的に一次救命処置の知識と技術を伝えるよう努めた。



地域での熱中症に関する講習

また、気温上昇に伴い熱中症が増加傾向にあることから、熱中症予防に関する啓発チラシを作成し、講習時には一次救命処置と併せて「予防の重要性」を周知するとともに、熱中症に特化した救急法講習も実施し、熱中症予防啓発の一層の強化を図った。

#### ① 講習実施状況

##### ア. 基礎講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象①	16	16
日本赤十字社徳島県支部 一般対象②	6	6
日本赤十字社徳島県支部 一般対象③	17	17
日本赤十字社徳島県支部 一般対象④	23	23
徳島赤十字病院 職員対象①	19	19
徳島赤十字病院 職員対象②	29	29
徳島赤十字病院 職員対象③	10	10
徳島県警察学校 学生対象①	22	22
徳島県警察学校 学生対象②	26	26

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本スイミングクラブ協会四国支部	15	15
徳島文理大学 学生対象	26	26
鳴門教育大学 学生対象①	8	8
鳴門教育大学 学生対象②	5	5
計13回	222	222

イ. 救急員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象①	13	13
日本赤十字社徳島県支部 一般対象②	14	14
日本赤十字社徳島県支部 一般対象③	24	24
徳島赤十字病院 職員対象①	19	19
徳島赤十字病院 職員対象②	29	29
徳島赤十字病院 職員対象③	10	10
徳島県警察学校 学生対象①	22	22
徳島県警察学校 学生対象②	26	26
徳島文理大学 学生対象	25	25
鳴門教育大学 学生対象①	8	8
鳴門教育大学 学生対象②	5	5
計11回	195	195

ウ. 短期講習 (集合型)

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
北 島 中 学 校	50	三 好 市 危 機 管 理 課	165
デイサービスセンターわかば	26	富 田 小 学 校	21
浦 庄 女 性 の 会	27	北 島 町 社 会 福 祉 協 議 会	36
徳島視覚聴覚支援学校	63	あいずみスポーツクラブ	30
鳴門教育大学附属支援学校	21	池 谷 自 主 防 災 会	11
徳 島 文 理 大 学	66	日本青年会議所四国地区徳島ブロック協議会	53
川 島 高 等 学 校	31	鳴門市地区赤十字奉仕団川東分団	120
南 井 上 小 学 校	23	日本スイミング協会四国支部	15
宮 井 小 学 校	12	社会福祉法人青陽会光の園	25
鴨 島 児 童 館	20	徳 島 県 バ レ ー ボ ー ル 協 会	43
徳 島 文 理 大 学 薬 学 部	44	徳 島 市 立 高 等 学 校	46
八 万 小 学 校	45	松 茂 中 学 校	124

対象・主催等	受講者数	対象・主催等	受講者数
美馬市地区連合婦人会	48	三好市社会福祉協議会井川支所	85
林崎小学校	21	徳島県理学療法士会	20
和田島小学校	15	松茂町社会福祉協議会	22
富岡小学校	24	渭北自主防災会	43
藍住南小学校	38	徳島市勤労者山の会	8
日本青年会議所四国地区徳島ブロック協議会	64	徳島県立川島中学校	37
ひのみね支援学校	43	庄町2丁目町内会	32
上勝小学校	55	北小松島小学校	73
北島町社会福祉協議会	23	徳島県歯科医師会	28
芝田小学校	36	飯尾敷地自主防災会	110
板野東小学校	96	牟岐町赤十字奉仕団	78
鳴門高等学校	60	阿南第二中学校	14
南小松島小学校	70	羽ノ浦第一・第二児童クラブ	58
鴨島東中学校	28	徳島経済産業会館管理組合	42
上勝中学校	23	神領小学校	16
吉野中学校	30	阿波市地区赤十字奉仕団	58
平島小学校	16	西郷自主防災会	100
城南高等学校	77	板野郡養護部会	25
佐那河内小中学校	58	板野町子ども家庭総合支援センター	18
徳島大学人と地域共創センター	15	勝浦町赤十字奉仕団	166
富岡西高等学校JRC部	47	テニスアリーナガーデン住吉	22
阿南市地区赤十字奉仕団羽ノ浦分団	29	上勝里山クラブ	13
長生小学校	14	ひのみね医療療育センター	105
藍畑小学校	13	小松島西高等学校	162
徳島ヴォルティスアカデミー	15	鳴門西地区社会福祉協議会	85
株式会社ニシテック	76	四国大学健康栄養学科	9
徳島県教育委員会体育健康安全課	6	入田学童保育クラブ	10
徳島県中学校教育研究会養護部会	74	小松島西高等学校	25
藍住東中学校	25	板野町社会福祉協議会	16
徳島山と友の会	21	徳島県シルバー大学校東みよし校	20
鳴門教育大学附属中学校	35	中央地区自主防災会	18
伊座利小学校	22	株式会社ネオビエント	19
池田法人会	12	藍住町社会福祉協議会	38
徳島市卓球協会	43	児安小学校	48
徳島県柔道連盟	8	株式会社ファルコン	42
鳴門渦潮高等学校	45	徳島県シルバー大学校	23
		計96回	4,130

エ. 短期講習（オンライン講習）

(人)

開催日	対象・主催等	受講者数	開催日	対象・主催等	受講者数
6月5日	橘小学校	11	6月19日	方上小学校	14
	新野東小学校	5		横見小学校	14
	大俣小学校	11		川内北小学校	1
	徳島県東部保健福祉局	2		昼間小学校	20
6月12日	王地小学校	9		松茂町社会福祉協議会	17
	津乃峰小学校	10	計3回（9校・2地区・分区）		114

② 救急法指導員数

職員	46名	計 110名
ボランティア指導員	64名	

③ 赤十字 AED の設置状況

(令和8年3月31日現在)

No.	地区・分区名	設置施設名	No.	地区・分区名	設置施設名	
1	徳島市	日本赤十字社徳島県支部事務局	24	阿南市	阿南市役所	
2		徳島市役所	25		つばき会館	
3		阿波おどり会館	26		阿南市文化会館	
4		内町コミュニティセンター	27		阿南市情報文化センター	
5		西富田コミュニティセンター	28		長生隣保館	
6		東富田コミュニティセンター	29		福井総合センター	
7		昭和コミュニティセンター	30		伊島診療所	
8		渭東コミュニティセンター	31		阿南ひまわり会館	
9		渭北コミュニティセンター	32		加茂谷総合センター	
10		佐古コミュニティセンター	33		本庄公会堂	
11		沖洲コミュニティセンター	34		南部総合県民局阿南庁舎	
12		加茂コミュニティセンター	35		南部総合県民局阿南保健所庁舎	
13		八万中央コミュニティセンター	36		吉野川市	吉野川市役所
14		勝占中部コミュニティセンター	37			吉野川市役所
15		勝占東部コミュニティセンター	38	美馬市		美馬市地域交流センターミライズ
16		方上公民館	39		美馬市社会福祉協議会	
17		多家良中央コミュニティセンター	40	阿波市	西部総合県民局美馬庁舎	
18		応神コミュニティセンター	41		阿波市役所	
19		南井上コミュニティセンター	42		阿波市役所阿波支所	
20		東部保健福祉局	43		阿波市交流防災拠点施設「アエルワ」	
21	鳴門市	鳴門市役所	44		吉野保健センター	
22		鳴門市健康福祉交流センター	45		土成保健センター	
23	小松島市	小松島市役所	46		阿波市土成支所	

No.	地区・分区名	設置施設名	No.	地区・分区名	設置施設名
47	三好市	三好市総合体育館	62	上板町	上板町老人福祉センター
48		山城公民館	63	那賀町	南部総合県民局那賀庁舎
49		井川町ふるさと交流センター	64	美波町	美波町役場
50		三好市西祖谷総合支所	65		道の駅ひわさ
51		三好市三野老人福祉センター	66		南部総合県民局美波庁舎
52		西部総合県民局三好庁舎	67	牟岐町	牟岐町役場
53	勝浦町	勝浦町役場	68	海陽町	海陽町デイサービスセンターさつき荘
54	上勝町	上勝町役場	69		海陽町役場 海部庁舎
55	佐那河内村	佐那河内村社会福祉協議会	70		海陽町役場 宍喰庁舎
56	石井町	石井町中央公民館	71	つるぎ町	つるぎ町役場 一字支所
57		石井町社会福祉協議会	72		つるぎ町就業改善センター
58	松茂町	松茂町役場	73	東みよし町	東みよし町役場
59	藍住町	藍住町役場	74		東みよし町老人福祉センター
60		藍住町保健センター	75		東みよし町役場三好庁舎
61	板野町	板野町民センター			

## (2) 水上安全法

水の事故から命を守るため、泳ぎの基本や自己保全、事故防止に関する知識に加え、万一事故が発生した際の救助方法や応急手当の技術について普及した。

また、県内で水難事故が多発したことを踏まえ、水の事故防止と緊急時の対応方法について、報道機関を通じて広く呼びかけ、啓発の強化に努めた。

### ア. 救助員養成講習

(人)

対象・主催等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象	5	5

### イ. 短期講習

(人)

対象・主催等	受講者数	対象・主催等	受講者数
富田小学校	67	芝田小学校	40
日本赤十字社徳島県支部	2	徳島市B&Gプール	2
藍住東小学校	71	那賀川公民館平島分館	14
板野高等学校	124	高原小学校	38
北島北小学校	68	徳島県警察学校	28
		計10回	454



小学校での水上安全法講習

① 水上安全法指導員数

職 員	1名	計 19名
ボランティア指導員	18名	

(3) 健康生活支援講習

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、家庭での自立に向けた介護の方法や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の普及を図った。



健康生活支援講習支援員養成講習

また、災害時における高齢者の支援方法を中心とした防災講話や座ってできる健康体操等、実技を交えた健康生活支援講習を実施した。

健康生活支援講習指導員を新たに養成し、講習普及体制の強化を図った。

① 講習実施状況

ア. 指導員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催	受講者数	修了者数
日 本 赤 十 字 社 徳 島 県 支 部	14	14

イ. 支援員養成講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	修了者数
徳 島 赤 十 字 病 院	37	37
日 本 赤 十 字 社 徳 島 県 支 部	12	12
計 2 回	49	49

ウ. 短期講習

(人)

対 象 ・ 主 催 等	受講者数	対 象 ・ 主 催 等	受講者数
石 原 婦 人 会	47	松 茂 町 社 会 福 祉 協 議 会	21
東 富 田 コ ミ ュ ニ テ ィ ー セ ン タ ー	29	西 富 田 コ ミ ュ ニ テ ィ 協 議 会	47
吉 野 川 市 社 会 福 祉 協 議 会	18	三 好 市 社 会 福 祉 協 議 会	34
箸 蔵 小 学 校	9	北 灘 地 区	42
		計 8 回	247

② 健康生活支援講習指導員数

職 員	35名	計 47名
ボランティア指導員	12名	

#### (4) 幼児安全法

乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、また、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術の普及を図るのが幼児安全法講習である。



乳児の一次救命処置を学ぶ受講者

乳幼児の胸骨圧迫や AED の使用方法を中心とした一次救命処置の実技講習を保育所や幼稚園を中心に行い、幼児安全法の普及に努めた。

##### ① 講習実施状況

###### ア. 支援員養成講習

(人)

対象・主催等	受講者数	修了者数
日本赤十字社徳島県支部 一般対象	8	8
徳島赤十字ひのみね医療療育センター 職員対象	6	6
徳島赤十字病院 職員対象	29	29
計3回	43	43

###### イ. 短期講習

(人)

対象・主催等	受講者数	対象・主催等	受講者数
エクセレント羽ノ浦こども園	33	みのり認定こども園	30
育英認定こども園	30	おおぎ認定こども園	17
みどり保育園	19	徳島県教育委員会	36
徳島市地区赤十字奉仕団内町分団	23	鳴門教育大学附属幼稚園	8
津田保育所在宅育児家庭相談室『あっぷ』	14	わかば認定こども園	18
もとしろ認定こども園	15	勝占認定こども園	15
エクセレント南部こども園	21	田宮シーズ認定こども園	10
県前保育所	10	沖洲こども園	24
横須保育所	39	徳島ファミリーサポートセンター	84
みつぼしこども園	14	子育て応援ひろばつるぎっこ	16
沖浜シーズ認定こども園	9	こまつしま健祥会認定こども園	12
子ども家庭支援センターひかり	10	吉野川市子育て支援センターちびっこプラザ	28
神崎幼稚園	9	計 25 回	544

##### ② 幼児安全法指導員数

職員	30名	計 57名
ボランティア指導員	27名	

## 4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町村ごとに組織され、地域に根ざした活動を行う「地域赤十字奉仕団」と社会人や学生により組織されている「青年赤十字奉仕団」、また特定の資格や技能、知識等を活かした活動を行う「特殊赤十字奉仕団」で組織されている。

地域や社会のニーズに対応した奉仕団活動を展開し、活動の見える化を図るとともに、若い世代への活動参画を促進し、奉仕団活動の充実・強化を図った。

種別	区分	団 数 (団)	団 員 数 (人)		
			男	女	計
地 域 赤 十 字 奉 仕 団		23	1,420	25,963	27,383
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	青 年 赤 十 字 奉 仕 団	1	19	14	33
	学 生 赤 十 字 奉 仕 団	2	19	28	47
	計	3	38	42	80
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	赤十字救護救援奉仕団	1	36	18	54
	赤十字救急法奉仕団	1	34	76	110
	赤十字水上安全法奉仕団	1	16	3	19
	青少年赤十字賛助奉仕団	1	25	8	33
	赤十字看護奉仕団	1	2	82	84
	赤十字アマチュア無線奉仕団	1	63	4	67
	赤十字船舶奉仕団	1	33	1	34
	赤十字バイク奉仕団	1	68	4	72
	計	8	277	196	473
合 計		34	1,735	26,201	27,936

### (1) 地域赤十字奉仕団

各市町村の地域赤十字奉仕団活動の充実・強化を図るために、「モデル奉仕団の指定」等を行い、地域に根ざした奉仕活動を行うとともに、美化活動等を通して心豊かな地域づくりや地域福祉に貢献した。

また、奉仕団組織の強化を図るために、奉仕団活動の紹介と団員募集のチラシ等を作成し、各地域で積極的な広報活動を行い、奉仕団員の増強と活動の活性化に努めた。

#### ① 主な奉仕活動

- ア 会員増強に関する活動
- イ 災害救護に関する活動

- ウ 青少年赤十字の普及・育成に関する活動
- エ 献血推進に関する活動
- オ 赤十字の講習等の普及活動
- カ 赤十字病院や施設における奉仕活動
- キ 老人や障がい者の援助活動
- ク 地域の環境美化活動
- ケ 子育て支援活動



奉仕団ごとに作成したオリジナルの募集チラシ

## ② 会 議

開催年月日	名 称	備 考
令和7年 7月3日～7月4日	赤十字奉仕団中央委員会	本 社

## ③ 研 修 会

開催年月日	名 称	備 考
令和7年 10月6日～10月7日	中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	大 阪 府
令和8年1月27日	地域赤十字奉仕団研修会	徳 島 市

## ④ モデル奉仕団の指定

奉仕団活動の充実と活性化を図るため、令和7年度の新規5団と2年目の5団は、地域に根ざした様々な活動を行った。

### ア 令和6年度～令和7年度指定（2年目5団）

地 区 名	奉 仕 団 名
徳 島 市	徳島市地区赤十字奉仕団応神分団
鳴 門 市	鳴門市地区赤十字奉仕団川東分団
阿 南 市	阿南市地区赤十字奉仕団羽ノ浦分団
三 好 市	三好市地区赤十字奉仕団三野分団
東 部 地 区	東部地区北島町赤十字奉仕団

### イ 令和7年度～令和8年度指定（1年目5団）

地 区 名	奉 仕 団 名
徳 島 市	徳島市地区赤十字奉仕団佐古分団
小 松 島 市	小松島市地区赤十字奉仕団櫛淵分団

地 区 名	奉 仕 団 名
東 部 地 区	東 部 地 区 上 板 町 赤 十 字 奉 仕 団
南 部 地 区	南 部 地 区 海 陽 町 赤 十 字 奉 仕 団
西 部 地 区	西 部 地 区 つ る ぎ 町 赤 十 字 奉 仕 団



救急法講習



献血の推進



炊き出し訓練



地域の美化活動



子どもたちとの交流

⑤ 未来を担う青少年等への「人道のこころ」の普及

第一次世界大戦時に板東俘虜収容所で展開された人道的な史実を描いた赤十字人道紙芝居「ばんどうのコスモス」を活用した人道学習を、青少年赤十字を中心に実施し、未来を担う青少年の心の醸成と「人道のこころ」の普及を図った。



ドイツ館を訪れた青少年赤十字メンバーに紙芝居を披露する地域赤十字奉仕団

⑥ 学校等での体験学習のサポート活動

小学校や幼稚園等で実施される福祉体験学習や防災学習において、地域赤十字奉仕団が車いす体験の補助や、災害用炊飯袋（ハイゼックス）を用いた炊き出し支援を行い、児童・園児等の体験学習を支援した。



幼稚園での炊き出し訓練で、園児のサポートを行う赤十字奉仕団員

## (2) 青年赤十字奉仕団

若い力を集結して各種奉仕活動を展開するために、当支部や中国四国ブロック主催の協議会・研修会に参加するとともに、献血キャンペーンや学内献血、「海外たすけあい」街頭募金活動等を実施した。



炊き出し訓練を行う青年赤十字奉仕団

### ① 会議及び研修会等

開催年月日	行事名	場所等
令和7年5月10日	徳島県青年赤十字奉仕団総会及び青年・学生赤十字奉仕団合同研修会	支部事務局
	第1回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	WEB開催
5月17日	青年赤十字奉仕団全国協議会（第1回）	WEB開催
6月21日	学生ボランティア定例会	血液センター
6月14日～15日	第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	島根県
7月13日	第2回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	WEB開催
9月27日～28日	第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会	山口県
10月18日～19日	中国四国学生献血推進協議会研修会	広島県
令和8年1月17日	青年赤十字奉仕団全国協議会（第2回）	WEB開催
2月26日	徳島県学生赤十字奉仕団総会	血液センター
2月28日	第3回中国四国学生献血推進協議会代表委員会	WEB開催
3月12日	徳島県献血推進協議会	徳島県庁

### ② 主要奉仕活動

開催年月日	行事名	備考
令和7年5月11日	シャレンで！献血キャンペーン	ポカリスエットスタジアム
7月13日	中国四国学生献血統一キャンペーン	ゆめタウン徳島
7月19日～21日	親子で楽しくけんけつ教室2025	血液センター
9月27日	徳島ガンバロウズコラボ献血	アスティとくしま
10月18日～19日	マチ★アソビ献血	藍場浜公園御成婚広場
12月6日	NHK海外たすけあい街頭募金活動	徳島駅周辺
12月20日～21日	全国学生クリスマス献血キャンペーン2025	献血ルーム アミコ
令和8年2月8日	はたちの献血キャンペーン (バレンタイン献血キャンペーン)	献血ルーム アミコ
通年	学内献血	四国大学、徳島大学常三島キャンパス、徳島文理大学

### (3) 特殊赤十字奉仕団

各特殊赤十字奉仕団が、それぞれの専門的な技術と能力を活かした活動を展開した。



車いす体験のサポートを行う  
赤十字看護奉仕団員

#### ① 会議及び研修等

開催年月日	行 事 名	備 考
令和7年4月19日	救急法奉仕団総会及び研修会	中央テクノスクール
5月19日	青少年赤十字賛助奉仕団総会	支部事務局
6月13日	水上安全法奉仕団総会及び研修会	支部事務局
11月14日	看護奉仕団総会及び研修会	支部事務局

## 5 青少年赤十字

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、「いのちと健康を大切にすること」を学ぶとともに、地域社会や国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としている。

本年度は、未来を担う青少年赤十字リーダーの養成を目的とした「リーダーシップ・トレーニング・センター」を開催するとともに、青少年赤十字国際交流事業を通じて海外メンバーとの交流を促進し、実践目標の一つである「国際理解・親善」の深化を図った。

さらに、将来を見据え、幼児期から赤十字精神を育む取り組みとして、幼稚園・こども園における青少年赤十字加盟を推進し、赤十字の防災教材等を活用しながら赤十字活動への理解促進に努めた。

### (1) 青少年赤十字の加盟促進等

「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標掲げる青少年赤十字の更なる普及を図るため、青少年赤十字未加盟校への加盟を促進した。

① 徳島県の加盟校数、加盟メンバー数

校種別	加盟校数(校)		加盟メンバー数(名)					
	令和7年度	令和6年度	男		女		計	
			令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
幼稚園	52	28	1,942	782	1,844	758	3,786	1,540
小学校	161	162	15,314	15,866	14,346	14,813	29,660	30,679
中学校	81	82	8,475	8,552	7,987	8,126	16,462	16,678
高等学校	35	35	2,226	2,043	2,436	2,218	4,662	4,261
特別支援学校	12	12	525	377	226	171	751	548
計	341	319	28,482	27,620	26,839	26,086	55,321	53,706

② 令和7年度青少年赤十字加盟校一覧表

令和7年度新規加盟校

(令和8年3月31日現在)

区分 郡市	幼稚園	小学校	中学校
徳島市	鳴教大附属・八万・上八万・助任・千松・沖浜シーズ認定・国府・入田・福島・ <span style="border: 1px solid black;">加茂名</span> ・津田・川内北・ <span style="border: 1px solid black;">応神</span> ・みのり認定・西富田・ <span style="border: 1px solid black;">富田認定</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">わかくさ</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">白うめ</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">とくしま健祥会認定</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">育英認定</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">青嵐認定</span>	内町・新町・佐古・富田・福島・城東・助任・津田・昭和・沖州・加茂名・加茂名南・八万・八万南・千松・大松・論田・方上・宮井・渋野・不動・上八万・一宮・入田・川内北・川内南・ <span style="border: 1px solid black;">応神</span> ・国府・南井上・北井上・鳴教大附属・徳島文理	徳島・城西・富田・城東・津田・加茂名・八万・南部・不動・上八万・入田・川内・ <span style="border: 1px solid black;">応神</span> ・国府・北井上・鳴教大附属・徳島文理・城ノ内中等教育・しらさぎ
鳴門市	<span style="border: 1px solid black;">成稔</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">IZUMI</span>	撫養・林崎・桑島・鳴門市第一・里浦・鳴門西・明神・大津西・堀江北・堀江南・板東・黒崎	鳴門市第一・鳴門市第二・鳴門・瀬戸・大麻・大麻広塚分校
小松島市	<span style="border: 1px solid black;">こまつしま健祥会認定</span>	小松島・南小松島・北小松島・千代・児安・芝田・立江・櫛淵・坂野・和田島・新開	小松島・小松島南
阿南市	大野・富岡・加茂谷・見能林・ <span style="border: 1px solid black;">神崎</span>	中野島・横見・富岡・宝田・大野・長生・見能林・津乃峰・桑野・山口・吉井・橘・福井・椿・新野・新野東・今津・平島・羽ノ浦・岩脇・椿泊	阿南・阿南第一・阿南第二・加茂谷・福井・那賀川・羽ノ浦・富岡東・新野
吉野川市		牛島・森山・飯尾敷地・知恵島・川島・学島・山瀬・鴨島・高越・西麻植	鴨島東・鴨島第一・川島・県立川島・山川
阿波市		御所・土成・久勝・伊沢・林・一条・市場・八幡・大俣・柿原	吉野・土成・市場・阿波
美馬市	木屋平	江原南・江原北・脇町・岩倉・美馬・三島・穴吹・木屋平	江原・脇町・美馬・三島・穴吹・岩倉
三好市		王地・芝生・箸蔵・池田・白地・馬路・三縄・山城・下名・辻・西井川・櫛生・東祖谷	三野・池田・山城・井川・東祖谷
勝浦郡		生比奈・横瀬・上勝	勝浦・上勝

区分 郡市	幼稚園	小学校	中学校
名東郡		佐那河内	佐那河内
名西郡	高原・浦庄・藍畑・高川原・石井	石井・浦庄・藍畑・広野・神領・高川原・高原	石井・高浦・神山
那賀郡		鷺敷・相生・木頭	鷺敷・相生・木頭
海部郡		牟岐・日和佐・伊座利・海部・由岐・海南・穴喰	牟岐・日和佐・由岐・海陽・穴喰・由岐伊座利分校
板野郡	北島・神宅・高志・板野東・板野西・板野南・東光・松島・藍住北・藍住南・藍住西・藍住東・藍住中央保育所・板野保育園・北島南・北島北・北島保育所	長原・松茂・喜来・北島北・北島・北島南・藍住北・藍住南・藍住西・藍住東・板野東・板野西・板野南・神宅・東光・松島・高志	松茂・北島・藍住東・藍住・板野・上板
美馬郡		半田・貞光	半田・貞光
三好郡		足代・昼間・加茂・三庄	三加茂・三好

幼稚園52園

小学校計161校

中学校81校

高等学校	城東・城南・城北・城ノ内中等教育・徳島北・徳島市立・城西・城西神山分校・科学技術・徳島商業・徳島文理・徳島中央・小松島・小松島西・小松島西勝浦校・富岡東・富岡東羽ノ浦校・富岡西・阿南光・那賀・海部・鳴門・鳴門渦潮・板野・名西・川島・阿波・阿波西・穴吹・脇町・つるぎ・池田・池田三好校・池田辻校・吉野川	35校
特別支援校	聴覚支援・視覚支援・国府支援・池田支援・池田支援美馬分校・鴨島支援・ひのみね・阿南支援・鳴教大附属特別支援学校・板野支援・みなど・阿南支援学校ひわさ分校	12校

合計 341校

## (2) 会議及び研修会

### ① 本社主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和7年5月30日 ～6月1日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	国立オリンピック記念 青少年総合センター
7月4日	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	日本赤十字社本社
8月6日	指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社本社
10月30日～11月3日	青少年赤十字国際交流集会 JRC/RCY International Meeting, "Tokyo 2025"	国立オリンピック記念 青少年総合センター
令和8年 3月22日～26日	青少年赤十字スタディー・センター	山 梨 県

② 中・四国ブロック主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和7年 11月20日～21日	第5ブロック青少年赤十字指導者協議会長 並びに青少年赤十字事務担当者会議	岡 山 県

③ 支部及び指導者協議会主催

開催年月日	行 事 名	場 所
令和7年5月19日	青少年赤十字指導者協議会総会	支部事務局
7月1日	リーダーシップ・トレーニング・ センター事前打合会（高等学校の部）	支部事務局
7月7日	リーダーシップ・トレーニング・ センター事前打合会（中学校の部）	支部事務局
7月9日	リーダーシップ・トレーニング・ センター事前打合会（小学校の部）	板野東小学校
令和8年3月16日	青少年赤十字徳島県指導者協議会役員・常任幹事会	支部事務局

④ 高等学校 JRC 協議会主催行事

開催年月日	行 事 名	場 所 等
令和7年6月22日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会総会	とくぎんトモニプラザ
10月26日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会秋期学習会	支部事務局
令和8年2月11日	徳島県高等学校青少年赤十字協議会冬期学習会	支部事務局



青少年赤十字シンガポールメンバーとの学習会



東日本大震災の炊き出しメニューを再現する高校生

⑤ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

赤十字や青少年赤十字に関する知識や技術を学ぶことにより、自主・自立の精神を身につけたリーダーを養成することを目的として実施した。

## ア 月日・参加状況

校 種	月 日	参加校数 (校)	参加メンバー (名)	指導者 (名)	特別参加指導者 (名)
小 学 校	令和7年 8月7日～8日	18	38	10	25
中 学 校	7月24日～25日	5	16	6	7
高 等 学 校	7月31日～8月1日	7	19	3	10



青少年赤十字についての講義（小学校の部）



段ボールベッド設営訓練（中学校の部）



避難所体験ゲームの様子（高等学校の部）

### (3) 「こども赤十字」の普及

将来を見据え、幼児期から赤十字精神を育む取り組みとして、幼稚園・こども園における青少年赤十字加盟を青少年赤十字賛助奉仕団や地域赤十字奉仕団等の協力を得て推進し、新たに25園が青少年赤十字へ加盟した。

### (4) 幼稚園等を対象とした防災教育事業の推進

災害時に子どもたちが考え、判断し、危険から身を守る行動を身に付けられるよう、幼児向け赤十字防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を青少年赤十字加盟園に配布するとともに、同教材を活用した赤十字防災セミナーを幼稚園で実施した。



幼児向け防災教材を活用した赤十字防災セミナー

## (5) 国際交流事業の実施

青少年赤十字海外メンバーとの交流を通して、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進するとともに、「Think globally, Act locally」というテーマのもと、特に気候変動や平和教育について学びを深めた。

### ① 開催期間

令和7年10月25日(土)～29日(水)

### ② 受入メンバー

シンガポール赤十字社 青少年赤十字メンバー 2名

### ③ 内容

10月25日(土)	・赤十字施設訪問（日本赤十字社徳島県支部）
10月26日(日)	・徳島県高等学校青少年赤十字協議会秋期学習会「海外青少年赤十字メンバー Welcome Party」 ・赤十字施設訪問（徳島県赤十字血液センター） ・JRC 高校生メンバー宅でのホームステイ
10月27日(月)	・地域の災害時ロープワーク講習参加（阿波市） ・農業体験、そば作り体験（阿波市） ・文化体験（藍染め）
10月28日(火)	・JRC 加盟校訪問（小松島市芝田小学校） ・赤十字施設訪問（徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院、徳島赤十字病院） ・文化体験（阿波おどり）
10月29日(水)	・JRC 加盟校訪問（鳴門教育大学附属中学校） ・平和学習（鳴門市ドイツ館、鳴門市ドイツ村公園）
10月30日(木) ～11月3日(月)	・JRC/RCY International Meeting（場所：国立オリンピック記念青少年総合センター）へ徳島県高校生メンバー（1名）とともに参加



輸血用血液の説明を聞く JRC メンバー  
（徳島県赤十字血液センター）



交流会でレクリエーションを楽しむ  
JRC メンバー（芝田小学校）



救急救命士からドクターカーの説明を受ける JRC メンバー（徳島赤十字病院）



乳児院の子供たちと触れ合う様子（ひのみね医療療育センター附属乳児院）



気候変動の授業でグループワークを行う様子（鳴門教育大学附属中学校）



板東俘虜収容所の人道的な史実を学ぶ様子（鳴門市 赤十字ゆかりの地）

## (6) 福祉体験学習の実施

車いす操作や高齢者疑似体験装具の着用、アイマスクを着用しての歩行者体験を通じて、高齢者や障がい者の方々の身体状態を体験し、その人の気持ちを考えることにより「思いやり」や「たすけ合い」の心を育むことを目的とした福祉体験学習を青少年赤十字加盟校で実施した。



車いす体験を行う青少年赤十字メンバー

### ① 福祉体験学習実施状況

No.	実施日	学校名	参加者数	学習内容
1	5月12日	入田小学校	13	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
2	5月23日	加茂名小学校	69	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
3	10月15日	内町小学校	49	車いす
4	10月16日	論田小学校	139	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
5	10月31日	八万小学校	134	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
6	1月19日	新開小学校	23	高齢者疑似体験・アイマスク・車いす
合計			427	

(7) 書き損じはがき収集活動実施状況

第31回受付分	受付枚数	946枚
	換金額	45,406円
	協力校	知恵島小学校、江原北小学校、北井上中学校、石井中学校、ひのみね支援学校、鴨島支援学校、池田支援学校美馬分校

※参考 第1回から第30回までの累計  
受付枚数 52,401枚 換金額 2,404,418円

(8) 青少年赤十字活動資金（1円玉募金）

受付件数	16件
募金額	7,818円
協力校	西富田こども園、加茂名小学校、応神小学校、芝田小学校、徳島中学校、城西中学校、しらさぎ中学校、鳴門教育大学附属中学校、福井中学校、高浦中学校、三好中学校、城北高等学校、城西高等学校、徳島商業高等学校、板野高等学校、鳴門教育大学附属特別支援学校

※ エコキャップ等換金分を含む

(9) 中古本等買い取りプログラム「キモチと」

換金物品数	59点
換金額	2,981円
協力校	江原北小学校

(10) 青少年赤十字優良児童・生徒表彰状況

校種別	学校数(校)	メンバー数(名)
小学校	2	3
中学校	2	5
高等学校	15	21
特別支援学校	1	1
計	20	30

## 6 国際活動

世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者・被災者等を支援するために、日本赤十字社本社や中国・四国各県支部等と連携した国際活動を展開し、国境や民族、宗教を越えた人道的活動を推進した。

### (1) 各種災害救援金及び人道危機救援金の募集

ミャンマーで発生した地震災害をはじめ、ウクライナ等で続いている人道危機に対して、被災者や避難者の支援を行うことを目的として、救援金の募集を行った。

なお、救援金の受付状況は、次のとおりである。

#### ① 海外救援金の受付状況

区分	件数(件)	受付額(円)
中東人道危機救援金	1	50,000
ウクライナ人道危機救援金	19	251,530
2025年ミャンマー地震救援金	20	996,325
計	40	1,297,855

### (2) アジア・大洋州地域に対する給水・衛生活動の支援

アジア・大洋州地域では、洪水やサイクロン災害による被害が多く、災害時の給水・衛生活動のニーズが継続している状況にある。

当支部では、本社や中国・四国各県支部と連携して、浄水器やタンク、水質検査キット、簡易トイレ用資材等をセットにした「給水・衛生キット」をアジア・大洋州地域に配備する事業の支援を行った。

また、同キットを効果的に活用した救援活動が現地で継続的に実施できるよう、現地スタッフやボランティアを対象とした研修など、人材育成の支援も行った。



給水ユニットについて学ぶバングラデシュ赤新月社ユースボランティアと職員

### (3) 「海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で多発する自然災害や地域紛争等による犠牲者の緊急救援、及び開発途上国赤十字社の行う保健衛生、災害対策事業等の開発協力を行うために、12月1日から25日までの間、NHKとの共催により海外たすけあい募金キャンペーンを実施した。

令和7年度「NHK海外たすけあい」の実績表

区分	件数(件)	金額(円)	(前年度)(円)	伸び率(%)	区分	件数(件)	金額(円)	(前年度)(円)	伸び率(%)
本 社	13,323	231,149,304	225,290,406	102.6	滋 賀 県	1,615	6,461,739	5,561,486	116.2
北 海 道	2,514	17,804,719	15,021,015	118.5	京 都 府	1,868	13,669,615	9,905,038	138.0
青 森 県	323	3,151,776	3,015,530	104.5	大 阪 府	3,361	44,353,498	26,609,518	166.7
岩 手 県	996	5,233,659	5,780,896	90.5	兵 庫 県	2,214	24,847,002	18,565,152	133.8
宮 城 県	984	10,657,510	8,136,667	131.0	奈 良 県	772	7,496,235	5,454,529	137.4
秋 田 県	445	3,705,106	2,959,621	125.2	和 歌 山 県	449	5,613,484	5,154,012	108.9
山 形 県	499	3,527,002	3,375,862	104.5	鳥 取 県	208	2,727,322	2,301,270	118.5
福 島 県	976	11,782,752	10,769,608	109.4	島 根 県	901	4,010,302	3,212,747	124.8
茨 城 県	1,445	12,121,975	8,763,639	138.3	岡 山 県	722	7,569,055	7,836,325	96.6
栃 木 県	3,098	9,158,311	6,353,507	144.1	広 島 県	2,348	16,994,977	15,938,517	106.6
群 馬 県	529	6,875,949	5,644,202	121.8	山 口 県	1,192	8,162,440	6,112,631	133.5
埼 玉 県	2,059	22,914,249	15,976,254	143.4	徳 島 県	334	4,207,320	3,336,575	126.1
千 葉 県	2,381	25,297,397	19,888,193	127.2	香 川 県	704	6,876,985	4,458,321	154.3
東 京 都	4,469	77,186,807	55,066,184	140.2	愛 媛 県	1,507	7,303,149	12,517,969	58.3
神 奈 川 県	3,139	45,665,161	30,707,959	148.7	高 知 県	650	3,199,976	2,890,231	110.7
新 潟 県	1,814	8,215,705	7,750,051	106.0	福 岡 県	2,897	21,771,284	15,455,653	140.9
富 山 県	810	11,430,304	11,461,828	99.7	佐 賀 県	363	5,530,952	4,739,130	116.7
石 川 県	778	7,749,021	4,570,926	169.5	長 崎 県	649	5,564,403	4,867,800	114.3
福 井 県	713	7,839,455	6,771,305	115.8	熊 本 県	2,294	7,653,096	6,295,862	121.6
山 梨 県	631	6,089,934	5,124,318	118.8	大 分 県	1,190	5,489,641	6,004,974	91.4
長 野 県	2,586	17,306,315	12,068,976	143.4	宮 崎 県	336	3,487,112	2,503,677	139.3
岐 阜 県	1,065	17,018,055	14,095,859	120.7	鹿 児 島 県	791	15,576,631	4,456,948	349.5
静 岡 県	1,225	16,676,734	18,284,745	91.2	沖 縄 県	305	5,721,318	4,058,709	141.0
愛 知 県	5,448	46,513,541	41,291,171	112.6	合 計	81,828	872,323,696	725,941,418	120.2
三 重 県	1,908	12,965,419	9,535,622	136.0					

(参 考)

最近における「NHK海外たすけあい」の最終実績

平成29年度（第35回）704,476,254円

平成30年度（第36回）756,095,488円

令和元年度（第37回）656,561,824円

令和2年度（第38回）750,388,183円

令和3年度（第39回）720,882,194円

令和4年度（第40回）787,088,711円

令和5年度（第41回）863,841,244円

令和6年度（第42回）725,941,418円

## IV 一般会計決算状況

### 1 総括

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	予算額に比し増減
歳入	202,186,000 <sup>円</sup>	35,203,000 <sup>円</sup>	237,389,000 <sup>円</sup>	257,251,341 <sup>円</sup>	19,862,341 <sup>円</sup>
歳出	202,186,000	35,203,000	237,389,000	204,691,436	△ 32,697,564
歳入歳出差引繰越額			52,559,905円		

#### (1) 歳入

科目	令和7年度 決算額	令和6年度 決算額	増減	対前年度比
1 支部収入	257,251,341 <sup>円</sup>	290,311,397 <sup>円</sup>	△ 33,060,056 <sup>円</sup>	88.6%
(1) 社資収入	200,880,085	221,906,579	△ 21,026,494	90.5
(2) 委託金等収入	0	2,747,633	△ 2,747,633	-
(3) 補助金及び交付金収入	11,226,295	11,002,862	223,433	102.0
(4) 繰入金収入	1,063,500	187,500	876,000	567.2
(5) 資産収入	0	380,000	△ 380,000	-
(6) 雑収入	1,397,178	1,081,684	315,494	129.2
(7) 前年度繰越金	42,684,283	53,005,139	△ 10,320,856	80.5

(小数第2位四捨五入)

#### (2) 歳出

科目	令和7年度 決算額	令和6年度 決算額	増減	対前年度比
1 支部費	204,691,436 <sup>円</sup>	247,627,114 <sup>円</sup>	△ 42,935,678 <sup>円</sup>	82.7%
(1) 災害救護事業費	14,238,222	13,228,058	1,010,164	107.6
(2) 社会活動費	34,191,046	25,651,782	8,539,264	133.3
(3) 国際活動費	1,669,679	757,882	911,797	220.3
(4) 指定事業地方振興費	876,000	0	876,000	-
(5) 地区分区交付金支出	8,857,550	9,910,022	△ 1,052,472	89.4
(6) 社業振興費	39,561,036	30,283,641	9,277,395	130.6
(7) 基盤整備交付金・補助金支出	7,050,000	1,250,000	5,800,000	564.0
(8) 積立金支出	33,420,308	103,032,870	△ 69,612,562	32.4
(9) 総務管理費	32,997,882	26,745,548	6,252,334	123.4
(10) 資産取得及び資産管理費	2,129,101	3,781,325	△ 1,652,224	56.3
(11) 本社送納金支出	29,700,612	32,985,986	△ 3,285,374	90.0

(小数第2位四捨五入)

## 2 社会福祉施設特別会計（本部会計拠点区分）決算状況

### (1) 総括

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	予算額に比し増減
収入	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	不用額
支出	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>

収入支出差引額                      0円

### (2) 前期末支払資金残高

前期末支払資金残高	0 <sup>円</sup>
-----------	----------------



Ⅱ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター  
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

## 基本理念

私たちは、利用される皆様と心を通わせ、

質の高い医療・福祉サービスを提供し、

豊かな生活に向けての支援を行います。

徳島赤十字ひのみね医療療育センター  
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

## II 徳島赤十字ひのみね医療療育センター

### 1 ひのみね医療療育センターの概要

#### (1) 沿革

年 月 日	事 項
昭和34. 5. 1	肢体不自由児施設として、徳島県立ひのみね学園（定員40名）を開設（児童福祉法第43条の3）
5. 29	病院開設許可（医療法第7条第1項）（許可病床40床）
6. 1	患者収容施設及びその他の設備の使用許可（医療法第27条） 運営事務を日本赤十字社徳島県支部に委託され、小松島赤十字病院 武田七郎院長が兼務で初代園長に就任
37. 9. 17	定員60名（許可病床60床）
38. 3. 10	定員100名（許可病床100床）
40. 3. 31	運営事務を小松島赤十字病院から分離、日本赤十字社徳島県支部が直接管理
4. 1	加藤直則診療部長が2代目園長に就任
41. 9. 8	定員105名（許可病床105床）
42. 6. 6	名誉副総裁常陸宮、同妃殿下ご視察
44. 6. 21	重度棟（30床）母子棟（10床）を増築、定員145名（許可病床145床）
46. 3. 29	診療棟完成
8. 3	名誉副総裁皇太子、同妃殿下ご視察
52. 4. 1	在宅重度心身障害児（者）緊急保護事業（その後、事業名が短期入所事業（ショートステイ）に変更）を開始
53. 4. 1	徳島県立ひのみね整肢医療センターと改称（県条例）
54. 6. 2	創立20周年記念式典を挙行政
57. 1. 20	厚生大臣視察
58. 3. 30	総合援護施設第1期工事（居住棟）完成
3. 31	病院の開設許可事項の変更許可（医療法第7条第2項）（一般病床145床） 構造設備の使用許可（医療法第27条）
4. 1	診療所（ひのみね療護園）の開設許可（医療法第7条第1項） 徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね学園と改称（県条例） 徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね療護園（定員50名）を開設（県条例）
59. 3. 31	総合援護施設第2期工事（診療管理棟・外構工事）完成
4. 7	落成式を挙行政
4. 12	小児科、歯科の診療を開始
62. 11. 24	名誉副総裁三笠宮妃殿下ご視察
平成元. 6. 15	創立30周年記念式典を挙行政
4. 4. 1	徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね療育園を開設（県条例） ひのみね学園 定員105名 ひのみね療育園 定員40名（許可病床は併せて145床） ひのみね療育園において在宅重度心身障害児（者）緊急保護事業を開始（その後、事業名が短期入所事業（ショートステイ）に変更）

年 月 日	事 項
平成5. 9. 7	名誉副総裁秋篠宮、同妃殿下ご視察
6. 4. 1	ひのみね学園 定員65名 ひのみね療育園 定員80名（許可病床は併せて145床） ひのみね療育園において重症心身障害児（者）通園事業を開始
9. 7. 24	皇太子、同妃殿下ご視察
10. 1	ひのみね療育園において障害児（者）地域療育等支援事業（その後、事業名が障害児等療育支援事業に変更）を開始
11. 3. 31	加藤直則園長退任、4月1日付で名誉園長の称号を授与
4. 1	森 舜次副園長が3代目園長に就任 ひのみね学園 定員40名 ひのみね療育園 定員100名（許可病床は併せて140床）
10. 1	ひのみね療護園において市町村障害者生活支援事業（その後、事業名が障害者相談支援事業に変更）及び重度身体障害者短期入所事業（ショートステイ）を開始
16. 4. 1	ひのみね学園 定員30名 ひのみね療育園 定員110名（許可病床は併せて140床）
18. 4. 1	徳島県から日本赤十字社徳島県支部が経営委譲を受け開設 徳島赤十字ひのみね総合療育センターと改称（ひのみね学園・ひのみね療育園・ひのみね療護園） 障害者自立支援法の施行に伴い、ひのみね学園・ひのみね療育園・ひのみね療護園において短期入所事業を新体系で開始 ひのみね療育園において発達障害児者南部圏域支援体制整備事業を開始（平成20年3月で事業終了）
19. 10. 21	森 舜次園長が逝去により退任
10. 22	阿部秀吉副園長が園長職務代理として園長業務を代行
20. 4. 1	鳴門教育大学教授 橋本俊顕氏が4代目園長に就任 内科を新設
10. 1	ひのみね療育園において発達障害児者東部圏域支援体制整備事業を開始（平成22年3月で事業終了）
21. 4. 10	ひのみね療育園において発達障害早期サポート支援事業を開始（平成24年3月で事業終了）
6. 10	創立50周年記念式典を挙行
23. 11. 15	診療棟竣工
24. 3. 15	居住棟、管理棟改修工事終了
4. 1	ひのみね療護園が障害者自立支援法に基づき障害者支援施設の指定を受ける ひのみね療育園が障害者自立支援法に基づき療養介護の指定を受ける ひのみね学園が児童福祉法に基づき医療型障害児入所施設に移行（みなし規程）
6. 1	ひのみね療育園において児童発達支援センターを開設 児童発達支援、放課後等デイサービスを開始
10. 1	ひのみね学園が児童福祉法に基づき医療型障害児入所施設の指定を受ける
25. 4. 1	神経小児科、精神科を新設

年 月 日	事 項
平成27. 3. 31	橋本俊顕園長退任。
4. 1	徳島赤十字病院第一小児科部長 中津忠則氏が5代目園長に就任 社会福祉施設の設置内容変更により、ひのみね学園、ひのみね療育園を統合して徳島赤十字ひのみね総合療育センターに、ひのみね療護園を徳島赤十字障がい者支援施設ひのみねに改称
28. 1. 1	重症心身障害児対象の放課後等デイサービス受入開始
1. 6	児童発達支援センターの拡充のための集団活動棟竣工
2. 1	集団活動棟での事業開始
30. 3. 30	大規模災害における利用者の生活空間を2階へと移転するための居住棟改修工事竣工
4. 1	県内の短期入所に対するニーズに対応するため、短期入所（併設型）の受け入れを4床へと増床し、入所定員140名、短期入所定員4名（許可病床は併せて144床）
31. 4. 1	重度の知的、身体障がいがある18歳以上の障がい者対象の生活介護「かがやき」を定員9名から20名へと拡充
令和2. 4. 1	児童発達支援センターの重症心身障がい児対象を分離し、「ほっぷ」として事業変更し、児童発達支援センターを発達障がい児対象のみに事業変更
5. 1	在宅で生活している重症心身障がい児者の嚙下障がいに対応するための「嚙下外来」を新設
3. 3. 31	中津忠則園長退任
4. 1	徳島大学病院副院長 加藤真介氏が6代目園長に就任
5. 1	リハビリテーション科を新設
5. 1. 10	徳島県医療的ケア児等支援センターを開設（徳島県より受託）
4. 1	県内の社会福祉施設の高機能化・多機能化を進めるため、徳島赤十字乳児院および徳島赤十字障がい者支援施設を徳島赤十字ひのみね総合療育センターの附属として再編し施設名称を変更 徳島赤十字ひのみね医療療育センターへと改称 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設へと改称 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院へと改称
6. 3. 31	児童発達支援センター事業を廃止

## (2) 施設の概要

1) 設置運営 日本赤十字社徳島県支部

2) 事業の種類

徳島赤十字ひのみね医療療育センター

令和8年4月1日

施設名・事業所名	定数	開設年月日	現法に基づく事業開始日
医療型障害児入所施設	144床	S34. 5. 1	H24. 4. 1
療養介護		H4. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（空床型）	4床	H4. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（併設型）※R8. 4. 1休止		H4. 4. 1	H24. 4. 1

施設名・事業所名		定数	開設年月日	現法に基づく 事業開始日
生活介護		20名	H 4. 4. 1	H31. 4. 1
児童発達支援 放課後等デイサービス	重症心身障害対象	6名	H24. 6. 1	H24. 6. 1
障害児等療育支援事業			H 9. 10. 1	
徳島県医療的ケア児等支援センター			R 5. 1. 10	
相談支援事業 一般相談支援 特定相談支援 障害児相談支援			H11. 10. 1	H24. 4. 1

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

令和8年4月1日

施設名・事業所名		定数	開設年月日	現法に基づく 事業開始日
障害者支援施設 生活介護 施設入所支援		50名	S58. 4. 1	H24. 4. 1
短期入所（併設型）		3名	H11. 10. 1	H24. 4. 1

### 3) 施設の規模

- ア 敷地の面積 18,177.74㎡
- イ 建物の規模、構造、面積  
鉄筋コンクリート造2階建 延13,753.58㎡  
(内 訳)
- |       |           |
|-------|-----------|
| 居 住 棟 | 5,802.56㎡ |
| 管 理 棟 | 2,340.21㎡ |
| 診 療 棟 | 5,445.19㎡ |
| 集団活動棟 | 165.62㎡   |



航空写真

### 4) 定員、許可病床数

徳島赤十字ひのみね医療療育センター 144床  
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設  
50名



診 療 棟

### 5) 診 療 科

小児科・神経小児科・整形外科・リハビリ  
テーション科・内科・歯科・精神科

## 6) 承認されている主な届出事項

障害者施設等入院基本料（10対1看護基準）  
特殊疾患入院施設管理加算  
強度行動障害入院医療管理加算  
感染対策向上加算3  
連携強化加算  
サーベイランス強化加算  
超重症児（者）入院診療加算・準超重症児（者）入院診療加算  
看護補助加算  
夜間看護体制加算  
診療録管理体制加算3  
データ提出加算1・3  
入院時食事療養/生活療養（I）  
薬剤管理指導料  
無菌薬剤処理料2  
CT撮影及びMRI撮影  
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）  
呼吸器リハビリテーション料（I）  
運動器リハビリテーション料（I）  
障害児（者）リハビリテーション料  
集団コミュニケーション療法  
クラウン・ブリッジ維持管理料（歯科）  
う蝕に罹患している患者の指導管理  
（歯科：保険外併用療養費）  
小児運動器疾患指導管理料  
先天性代謝異常検査  
外来・在宅ベースアップ評価料（I）



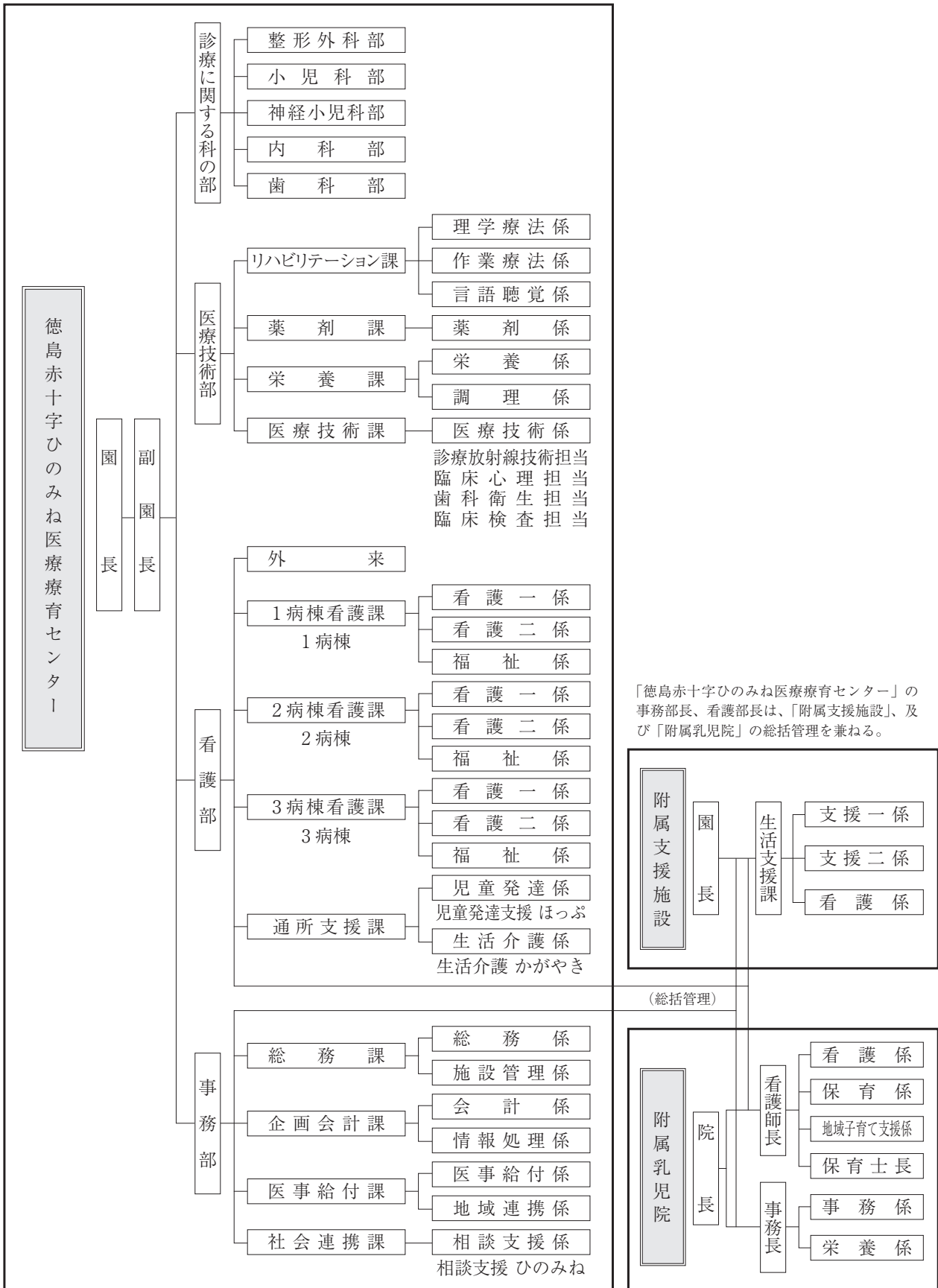
NICU後方支援6床室



集団活動棟

(3) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター 組織図

令和8年4月1日



「徳島赤十字ひのみね医療療育センター」の事務部長、看護部長は、「附属支援施設」、及び「附属乳児院」の総括管理を兼ねる。

## (4) 職 員 数

(令和8年4月1日現在)

職 種	徳島赤十字ひのみね 医療療育センター	徳島赤十字ひのみね医療 療育センター附属支援施設	計	備考
医 師	11 (7)人	人	11 (7)人	
薬 剤 師	3		3	
放 射 線 技 師	1		1	
理 学 療 法 士	15 (2)		15 (2)	
作 業 療 法 士	7		7	
言 語 聴 覚 士	6		6	
歯 科 衛 生 士	2		2	
臨 床 検 査 技 師	1		1	
心 理 判 定 員	2		2	
管 理 栄 養 士	1	1	2	
調 理 師	12 (2)	1	13 (2)	
看 護 師	103 (16)	3 (1)	106 (17)	
准 看 護 師	2 (2)		2 (2)	
介 護 福 祉 士	15 (2)	21 (3)	36 (5)	
保 育 士	19 (4)	5	24 (4)	
社 会 福 祉 士	2		2	
児 童 指 導 員	3		3	
介 助 員	6 (6)		6 (6)	
事 務 職 員	19 (8)		19 (8)	
技 術 員	3 (1)		3 (1)	
業 務 員	2 (2)		2 (2)	
合 計	235 (52)	31 (4)	266 (56)	

※ ( ) 内は臨時職員再掲

## 2 事業の実施状況

施設の基本理念である利用される方の豊かな生活に向けての質の高い医療・福祉サービスの提供を全職員が常に意識し、日々向上を図るとともに地域に融和した施設として各種行事等を通じ、多くの方々との交流に努めた。

令和5年4月1日、県内社会福祉施設の施設統合により、徳島赤十字ひのみね医療療育センターとして名称変更し、支援施設ひのみねと徳島赤十字乳児院を附属施設として再編した。複合施設の利点を生かして人的・物的資源を最大限に有効活用し、健全運営に努める。

各施設の事業概要等は次のとおりである。

### 徳島赤十字ひのみね医療療育センター

#### (1) 外来診療

##### 1) 外来診療

外来においては、発達障害、てんかんなどの小児神経疾患や先天性股関節脱臼、先天性内反足、ペルテス病等の整形外科疾患の治療にあたる専門病院としての機能を発揮し、障がい児者の自立寄与の支援に努めた。



外来診察

		令和7年度	令和6年度
医科	外来患者延数	24,898人	24,720人
	1日平均	103.3	102.1
	新規外来患者数	413	511
歯科	外来患者数	1,048人	1,191人
	1日平均	7.8	9.0
	新規患者数	25	24

#### 2) 乳児先天性股関節脱臼検診

市町村からの要望により医師を派遣し、乳児期の股関節脱臼の早期発見、早期治療に取り組んだ。

	令和7年度	令和6年度
延回数	59回	61回
派遣市町村	15市町村	15市町村
延検診数	1,115人	1,114人

### 3) 心理相談

市町村からの要望により公認心理師を派遣し、幼児期の心理相談に取り組んだ。

	令和7年度	令和6年度
延回数	24回	24回
派遣市町村	2	2
関係機関	1	1
相談人数	130人	126人



外来ホール



小児リハビリの様子

## (2) 入所（入院）施設

### 1) 医療型障害児入所施設

県内唯一の肢体不自由児を対象とする施設として事業を実施してきたが、児童福祉法に基づくサービス体系の移行に伴い、平成24年度より18歳未満の障がい児を対象とした医療型障害児入所施設として再編した。

手足や体幹の機能に障がいのある子ども達や重度の肢体不自由と重度の知的障がいを併せ持つ子ども達のために医療・看護・リハビリテーションの提供と入所生活の支援に努め、また呼吸管理等を必要とする超重症児及び準超重症児に対する医療的ケアの充実を図った。

なお、医療型障害児入所施設と療養介護の定員は、サービス再編に伴って一体的な運営を行っているため、それぞれの定員は定めず、併せて140名となる。

#### ① 医療型障害児入所施設の実績

	令和7年度	令和6年度
入所延数	4,722人	5,367人
1日平均	12.9	14.7
入所児数	0	0
退所児数	0	2

## 2) 療養介護

重度の肢体不自由と重度の知的障がいを含む障がい児（者）のための重症心身障害児施設から、障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）に基づくサービス体系の移行に伴い、平成24年度より18歳以上の重症心身障がい者を対象とした療養介護へと再編した。利用者の状況に応じた治療・看護・入所生活の支援、また、呼吸管理等を必要とする超重症者及び準超重症者に対する医療的ケアの充実に努めた。

### ① 療養介護の実績

	令和7年度	令和6年度
入所延数	44,440人	44,445人
1日平均	121.8	121.8
入所者数	4	1
退所者数	4	4

## 3) 利用児（者）の状況

年齢別、性別調

(各年度末現在)

年齢別	性別		令和7年度	令和6年度
	男	女		
00～05	1人	0人	1人	2人
06～11	2	1	3	4
12～14	2	1	3	2
15～17	3	1	4	7
18～20	2	1	3	3
21～29	11	8	19	23
30～39	15	12	27	28
40～49	22	14	36	44
50～59	16	15	31	20
60～69	6	0	6	5
計	80	53	133	138

## 4) 一般入院

一般入院の受入状況は次のとおりである。

	令和7年度	令和6年度
入院延数	554人	590人
1日平均	1.5	1.6

### (3) 地域を対象とした事業

#### 1) 重症心身障がい児（者）及び障がい児を対象にした短期入所・日中一時支援事業

在宅の重症心身障がい児（者）及び障がい児の保護者が、社会的または私的的理由により、一時的保護を必要とした場合の短期入所事業（宿泊を伴う利用）及び日中一時支援事業（宿泊を伴わない利用）を実施した。

##### ① 医療型短期入所（空床型）の実績

空 床 型		令和7年度	令和6年度
短 期 入 所	実 利 用 数	2人	5人
	延 利 用 数	15	17

##### ② 医療型短期入所（併設型）の実績

併 設 型		令和7年度	令和6年度
短 期 入 所	実 利 用 数	29人	32人
	延 利 用 数	636	842
日 中 一 時	実 利 用 数	14	13
	延 利 用 数	107	87

#### 2) ほっぷ（児童発達支援事業所）

体調により通所が左右されやすい医療的ケア児や重症心身障がいのある児童に対して、児童発達支援（未就学児）及び放課後等デイサービス（就学児）を実施し、通所による訓練や療育を通じ、日常生活における基本的な動作の獲得や、社会生活技能及びコミュニケーション技能の獲得による集団生活への適応ができるよう支援強化を図った。

##### ① ほっぷの実績

		令和7年度	令和6年度
児 童 発 達 支 援	実 利 用 数	110人	97人
	延 利 用 数	574人	629人
	実 施 日 数	241日	242日
	1 日 平 均	2.4人	2.6人
放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	実 利 用 数	219人	211人
	延 利 用 数	1,030人	935人
	実 施 日 数	241日	242日
	1 日 平 均	4.3人	3.9人



ほっぷの療育の様子

### 3) 生活介護 かがやき

医療的ケアを必要とする利用者が安心して過ごせる場を提供し、日常生活動作、運動機能等に係る訓練等により、運動機能の維持・促進を行うとともに、利用者の日中活動の充実と保護者の精神的余裕の確保に努めた。

#### ① 生活介護 かがやきの実績

	令和7年度	令和6年度
実 利 用 数	499人	405人
延 利 用 数	3,497人	3,209人
実 施 日 数	241日	242日
1 日 平 均	14.5人	13.3人



来所時のバイタルチェック



桜満開のマスキングアート

### 4) 障害者相談支援事業（相談支援ひのみね）

南部第Iサブ圏域（小松島市、阿南市、那賀町）にお住まいの障がいのある方々やご家族の地域生活を支援するため、個々のニーズと様々な社会資源の間に立って、福祉サービスの利用援助や地域で安心して自分らしく生きていくための総合的かつ継続的な支援体制を確保し、「できる」ことの応援と「できない」ことへの支援を行い、ライフステージに合わせた社会参加と自立促進を図った。

① 相談支援事業所の実績

	令和7年度	令和6年度
延 相 談 件 数	1,241件	1,149件

5) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（相談支援ひのみね）

自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、心身の状況や環境に応じて、適切な保健、医療、福祉、教育等のサービスが多様な事業所から受けることができるように、市町村、事業所等との連携を図り、個々にサービス等利用計画または、障害児支援利用計画を作成した。作成後も継続的なモニタリングを行い、その達成状況の確認を行い、必要があればサービス利用計画を再度作成した。

① 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実績

	令和7年度	令和6年度
特 定 相 談 支 援	693件	442件
障 害 児 相 談 支 援	110	102
合 計	803	544

6) 障害児等療育支援事業（県受託事業）

在宅の重症心身障がい児（者）、知的障がい児（者）、身体障がい児を支援の対象に相談・支援等に努めた。

① 障害児等療育支援事業の実績

		令和7年度	令和6年度
訪問による療育相談		0件	2件
訪問による健康診査		14	28
外来による療育相談	個別	228	198
	集団	0	0
施設職員等に対する療育技術指導		10	11
療育機関に対する支援		0	0

7) 徳島県医療的ケア児等支援センター（県受託事業）

医療技術の進歩等を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障がい児（医療的ケア児等）は増加しており、令和3年9月に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」を受けて、医療

的ケア児等の日常生活・社会生活を社会全体で支え、個々の医療的ケア児等の状況に応じて切れ目なく支援することを目的に、令和5年1月10日、県から受託、開設した。

コーディネーターを2名配置し、住み慣れた地域で、医療・保健・福祉・教育・就労等の関係機関と切れ目ない支援が受けられるよう、連絡調整や情報提供、従事者への研修を実施した。

① 相談実績

		令和7年度	令和6年度
延	相 談 人 数	615人	264人
延	相 談 件 数	909件	1,294件
相 談 手 段 (重複有)	来 所	304	501
	電 話	364	709
	メ ー ル	241	224



講演会の様子



災害デイキャンプ

② 研修・イベント実績

	令和7年度	令和6年度
医療的ケア児等支援者養成研修	34人	54人
医療的ケア児等コーディネーター研修	23	27
コーディネーターフォローアップ研修	14	20
医ケア児の家族と支援者の研修	15	14
医療的ケア児者を支援する看護師養成研修	8	8
災害デイキャンプ	140	100
医療的ケア児等の支援に関する講演会	75	165
保育士対象研修	120	60
医療的ケア児者の避難訓練	4	2

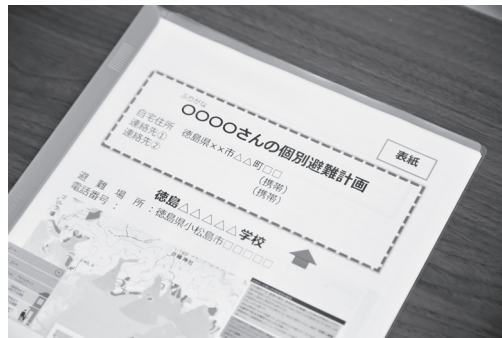


医療的ケア児者の避難訓練



医ケア児の家族と支援者の研修

③ 災害時対応ガイドブック作成と個別避難計画作成の支援



8) 実習生・研修生等の受け入れ

徳島赤十字ひのみね医療療育センターにおいて、他職種の実習生を受け入れ、次世代の育成に努めた。

	令和7年度		令和6年度	
	実人数(人)	延日数(日)	実人数(人)	延日数(日)
医師	6人	54日	9人	81日
看護師	118	504	161	547
准看護師	40	40	31	62
理学療法士	6	131	7	140
作業療法士	2	50	3	57
歯科衛生士	30	30	32	31
介護福祉士	4	92	4	96
保育士	0	0	0	0
社会福祉士	1	15	1	8
相談支援専門員	4	4	7	9
臨床心理士・公認心理師	15	63	5	59
計	226	983	260	1,090

※専門学校健祥会学園、四国大学、徳島県立総合看護学校、徳島大学、徳島文理大学、徳島医療福祉専門学校、鳴門教育大学大学院他

#### (4) 決算状況

##### 1) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター

##### ① 総括

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	増減
収入	3,232,165,000 <sup>円</sup>	50,400,000 <sup>円</sup>	3,282,565,000 <sup>円</sup>	3,196,404,651 <sup>円</sup>	△86,160,349 <sup>円</sup>
支出	2,387,387,000	50,400,000	2,437,787,000	2,309,890,705	127,896,295

収入支出差引額 886,513,946円

※収入決算額には、前期末支払資金残高845,661,974円を含む。

##### ② 事業活動による収入及び支出

科目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増減額	伸び率
児童福祉事業収入	13,614,862 <sup>円</sup>	16,642,153 <sup>円</sup>	△3,027,291 <sup>円</sup>	△18.2%
障害福祉サービス等事業収入	651,107,547	634,468,521	16,639,026	2.6
医療事業収入	1,576,163,931	1,513,962,770	62,201,161	4.1
経常経費寄附金収入	180,000	180,000	0	0.0
受取利息配当金収入	1,824,015	328,829	1,495,186	454.7
その他の収入	7,722,066	8,356,047	△633,981	△7.6
収入計	2,250,612,421	2,173,938,320	76,674,101	3.5
人件費支出	1,524,602,579	1,537,055,078	△12,452,499	△0.8
事業費支出	404,896,602	325,054,499	79,842,103	24.6
事務費支出	206,748,493	188,067,671	18,680,822	9.9
支払利息支出	584,807	1,043,617	△458,810	△44.0
その他の支出	902	0	902	-
支出計	2,136,833,383	2,051,220,865	85,612,518	4.2

③ 施設整備等による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
施設整備等補助金収入	175,000 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	175,000 <sup>円</sup>	- %
施設整備等寄付金収入	0	100,000	△100,000	△100.0
固定資産売却収入	20,000	0	20,000	-
収 入 計	195,000	100,000	95,000	95.0
設備資金借入金元金償還支出	50,000,000	50,000,000	0	0.0
固定資産取得支出	32,444,140	141,381,077	△108,936,937	△77.1
ファイナンス・リース 債務の返済支出	10,141,918	12,148,365	△2,006,447	△16.5
支 出 計	92,586,058	203,529,442	△110,943,384	△54.5

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	4,967,000 <sup>円</sup>	41,039,000 <sup>円</sup>	△36,072,000 <sup>円</sup>	△87.9 %
拠点区分間繰入金収入	679,580	0	679,580	-
その他の活動による収入	94,288,676	122,993,062	△28,704,386	△23.3
収 入 計	99,935,256	164,032,062	△64,096,806	△39.1
積立資産支出	0	0	0	-
他会計繰入金支出	0	0	0	-
拠点区分間繰入金支出	0	0	0	-
その他の活動による支出	80,471,264	80,466,358	4,906	0.01
支 出 計	80,471,264	80,466,358	4,906	0.01

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	113,779,038 <sup>円</sup>	122,717,455 <sup>円</sup>	△8,938,417 <sup>円</sup>	△7.3 %
施設整備等資金収支差額	△92,391,058	△203,429,442	111,038,384	△54.6
その他の活動資金収支差額	19,463,992	83,565,704	△64,101,712	△76.7
当期資金収支差額合計	40,851,972	2,853,717	37,998,255	1,331.5
前期末支払資金残高	845,661,974	842,808,257	2,853,717	0.3
当期末支払資金残高	886,513,946	845,661,974	40,851,972	4.8

## 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設〔障害者支援施設〕

### (1) 入所施設

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設は、障害者総合支援法に基づく障害者支援施設として、日中に介護・機能回復訓練・行事・クラブ活動を行う「生活介護」と主に夜間のサービス提供を行う「施設入所支援」を提供している。



スペースを拡大した自治会室

生活施設としての質の高いサービスを提供すると共に、利用者各々の個別支援計画に応じた生活支援に努めた。

南海トラフ巨大地震での津波対策として、平成29年度より居住スペースを2階に移転し、利用者の命と安全な生活を確保することができ、減災対策としてタンスの固定などの環境整備を行っている。

#### ① 障害者支援施設の実績

	令和7年度	令和6年度
入所延数	16,343人	16,681人
1日平均	44.8	45.7
入所者数	1	2
退所者数	3	1

### (2) 利用者の状況

#### 1) 年齢別、性別調（各年度末現在）

年齢別	性別		令和7年度	令和6年度
	男	女		
18～29	0人	0人	0人	0人
30～39	1	1	2	3
40～49	3	5	8	8
50～59	2	6	8	9
60～69	10	7	17	19
70～79	3	5	8	6
80以上	1	2	3	3
計	20	26	46	48

### (3) 地域を対象とした事業

#### 1) 身体障がい者を対象にした短期入所事業

在宅の身体障がい者または介護者が、社会的・私的理由により、一時的保護を必要とした場合の短期入所事業（宿泊を伴う利用）を実施した。

支援施設では、併設型（3床）として実施

##### ① 福祉型短期入所（併設型）の実績

併 設 型		令和7年度	令和6年度
短 期 入 所	実 利 用 数	9人	6人
	延 利 用 数	184	140



生活の様子



支援施設利用者の作品

#### (4) 決算状況

##### 1) 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

##### ① 総括

区分	当初予算額	補正予算額	計	決算額	増減
収入	389,109,000 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	389,109,000 <sup>円</sup>	343,464,412 <sup>円</sup>	△45,644,588 <sup>円</sup>
支出	306,394,000	0	306,394,000	273,334,553	33,059,447

収入支出差引額 70,129,859円

※収入決算額には、前期末支払資金残高87,329,316円を含む。

##### ② 事業活動による収入及び支出

科目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増減額	伸び率
障害福祉サービス等 事業収入	255,019,613 <sup>円</sup>	252,588,651 <sup>円</sup>	2,430,962 <sup>円</sup>	1.0%
経常経費寄附金収入	0	40,000	△40,000	-
受取利息配当金収入	112,297	0	112,297	-
その他の収入	239,186	237,652	1,534	0.6
収入計	255,371,096	252,866,303	2,504,793	1.0
人件費支出	190,722,686	239,659,887	△48,937,201	△20.4
事業費支出	39,869,053	40,967,972	△1,098,919	△2.7
事務費支出	32,032,107	31,109,610	922,497	3.0
支出計	262,623,846	311,737,469	△49,113,623	△15.8

##### ③ 施設整備等による収入及び支出

科目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増減額	伸び率
施設整備等補助金収入	414,000 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	414,000 <sup>円</sup>	-%
収入計	414,000	0	414,000	-
固定資産取得支出	510,000	0	510,000	-
支出計	510,000	0	510,000	-

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	350,000 <sup>円</sup>	300,000 <sup>円</sup>	50,000 <sup>円</sup>	16.7%
その他の活動による収入	0	37,840,270	△37,840,270	△100.0
収 入 計	350,000	38,140,270	△37,790,270	△99.1
その他の活動による支出	10,200,707	10,618,279	△417,572	△3.9
支 出 計	10,200,707	10,618,279	△417,572	△3.9

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	△7,252,750 <sup>円</sup>	△58,871,166 <sup>円</sup>	51,618,416 <sup>円</sup>	△87.7%
施設整備等資金収支差額	△96,000	0	△96,000	-
その他の活動資金収支差額	△9,850,707	27,521,991	△37,372,698	△135.8
当期資金収支差額合計	△17,199,457	△31,349,175	14,149,718	△45.1
前期末支払資金残高	87,329,316	118,678,491	△31,349,175	△26.4
当期末支払資金残高	70,129,859	87,329,316	△17,199,457	△19.7



### Ⅲ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院

## 【基本理念】

私たちは、こどもたちが児童憲章のもと、その人権を重んじ、幸せになることを願い、よりよい養育環境の提供に努めます。

## 【基本方針】

- 1 こどもたち一人ひとりの思いを汲み取り、安心して生活できる環境を提供します。
- 2 こどもたちとのふれあいを深め、豊かな愛着関係を築きます。
- 3 こどもたちの体調の変化に留意し、健康管理に努めます。
- 4 こどもたちが家庭に戻り、安定した生活を送れるように支援します。
- 5 ボランティアや地域と連携し、養育の専門性を活かした子育て支援に努めます。
- 6 職員は、専門職としてのより深い知識と確かな技術を身につけます。

### Ⅲ 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院

#### 1 乳児院の概要

##### (1) 沿革

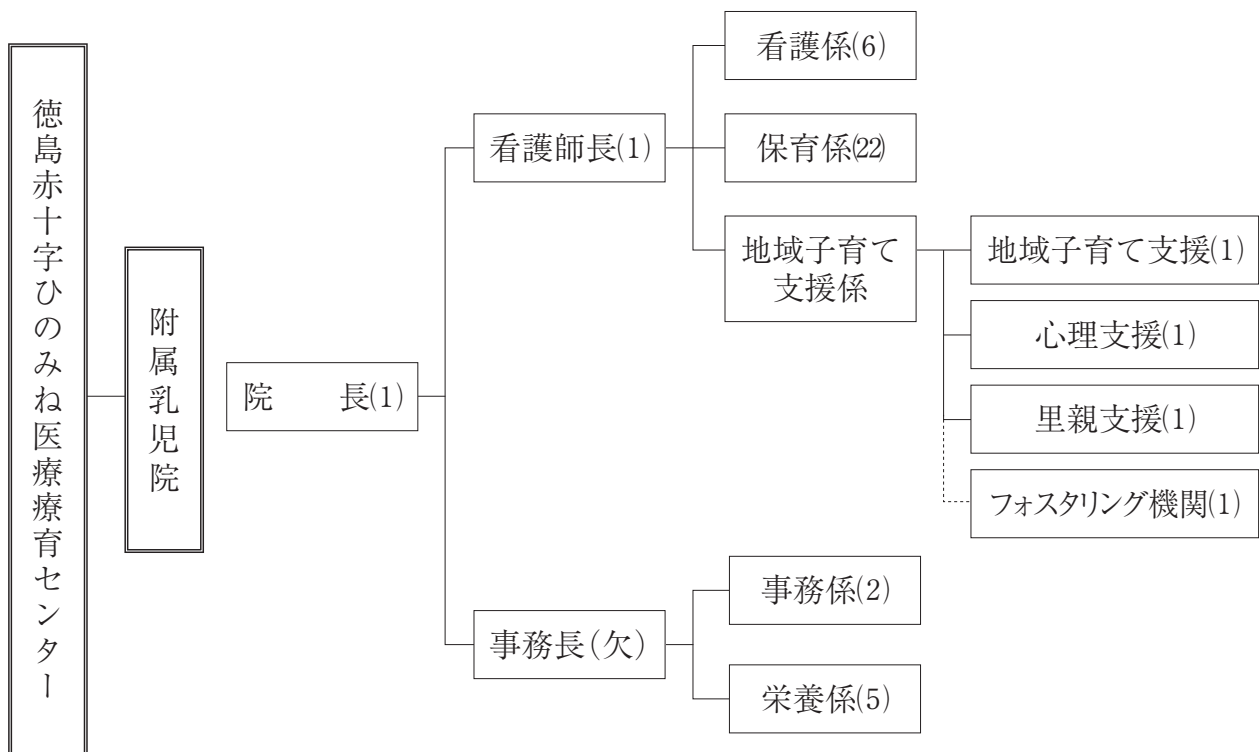
年 月 日	事 項
昭和28. 3. 31	徳島県により設置 建築落成（延べ面積288.75㎡）
6. 1	児童福祉法第37条の乳児院として許可（定員30名） 日本赤十字社徳島県支部に運営を委託（小松島赤十字病院が運営に当たる。）
8. 1	徳島県立徳島乳児院 開院
37. 5. 30	浩宮殿下ご誕生記念として遊戯室を新築（建坪66㎡）
40. 4. 1	小松島赤十字病院の運営より離れ日本赤十字社徳島県支部管理となる。
42. 4. 1	定員35名に増員
47. 6. 30	乳児院舎屋老朽と入所児童の増加のため改築工事落成（延べ面積1,059.55㎡）
7. 1	定員45名に増員
平成8. 4. 1	地域における公益的な活動として ショートステイ事業、病児・病後児保育事業実施
16. 4. 1	小規模グループケア開始（1ユニット）
18. 4. 1	徳島赤十字乳児院 と改称 （徳島県から施設移管を受け、日本赤十字社徳島県支部が開設）
20. 4. 1	地域の子育て支援の取組として 「子育てスペースにこにこほっぺ」事業開始
24. 4. 1	発達障がい者総合支援ゾーンの施設として移転改築（延べ面積1,277.40㎡） 小規模グループケア2ユニットへ
26. 4. 1	里親支援専門相談員の配置 小規模グループケア3ユニットへ
令和3. 4. 1	徳島県フォスタリング（里親養育包括支援）事業を受託
5. 4. 1	徳島県支部管内社会福祉施設における組織統合により、徳島赤十字ひのみね医療療育センターの附属施設となる 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院 と改称

## (2) 施設の概要

- ① 所在地 小松島市中田町字新開 2 番地 2
- ② 設置主体 日本赤十字社
- ③ 経営主体 日本赤十字社徳島県支部
- ④ 設置年月日 平成24年 4 月 1 日
- ⑤ 施設の規模 鉄筋コンクリート造 3 階・地下 1 階  
1 階部分 延べ面積1,277.40㎡
- ⑥ 定 員 45名  
令和 7 年度暫定定員 30名  
令和 8 年度暫定定員 28名予定

## (3) 組 織 図 (令和 8 年 4 月 1 日現在)

附属乳児院の部分を抜粋して表示



※カッコ内の数字は職員数

## (4) 職 員 数

(令和8年4月1日現在)

職 種 別	定 員	現 員	備 考
院 長	1 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	
医 師	1	1	
直接処遇職員	17	4	3歳以上児3人につき職員1人配置 2歳児2人につき職員1人配置 2歳未満児1.3人につき職員1人配置 看護師は、定員10人の場合は2人以上 10人を超える場合は10人増すごとに1人以上
		13	
		1	
家庭支援専門相談員	1	1	
里親支援専門相談員	1	1	
小規模グループケア	3	3	
個別対応職員	1	1	
心理療法担当職員	1	1	
管理栄養士	1	1	
栄養士・調理師	4	4	定員30人未満は職員4人 30人以上10人ごとに1人加算
業 務 員		2	
事 務 員	1	2	
フォスタリング委託事業	1	1	
パートタイマー (看護師・業務員)	—	2	
合 計	33	39	

## ※機能強化のための専門職員

- 家庭支援専門相談員…複雑な家庭環境等への専門的な関わりで家庭引取を目指す
- 心理療法担当職員…情緒面で不安定になっている子どもの支援を行う
- 里親支援専門相談員…里親委託を目指し支援を行う
- 個別対応職員…虐待で心や身体が傷ついた子どもに対し意図的に個別援助を行う

## 2 事業の実施状況

### (1) 事業の概要

徳島県の児童虐待相談対応件数は、毎年過去最多を更新する状況となっており、地域社会においては、さまざまな理由で子育てに困難を有する世帯がこれまで以上に顕在化している状況となっている。こうした中で県内唯一の乳児院として、目の前の子どもを守るため関係機関と連携を図り、家庭での養育が困難な乳幼児や、一時保護児の受け入れを積極的に行った。

養育においては「子どもの最善の利益」を念頭に、家庭に近い環境の提供を目指し、担当養育制や個別対応を導入することで愛着形成や発達促進を図るとともに、家庭復帰が困難な児の里親委託を推進するための、里親養育包括支援（フォスタリング機関）事業にも取り組み、里親制度普及のための広報と里親登録者の増加に努めた。

また、徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属施設の利点を活かし、関係機関と連携し家庭での養育が困難な病虚弱児の受入体制の充実・強化を図った。

更に、養育や支援、医療や看護の専門性、権利擁護意識の向上のための研修会等に積極的に参加し、より高い専門知識を習得し人材育成を図るとともに、最新の情報を院内で共有し一貫性のある養育体制に取り組んだ。

### (2) 重点事項

#### ① 入所児の養育とその家庭支援への取り組み

##### ア. 小規模グループケア・個別対応の実施

4～6人を1つの養育単位とした「小規模グループケア」を3グループ実施している。家庭に近い生活環境を提供する中で、大人との愛着が深まり、穏やかで応答性のある、一人ひとりのニーズに沿った関わりができるよう努めた。

また、被虐待児や発達に問題のある子どもに対して、個別的な対応を行う中で、発達の促進や愛着形成に努めた。



みんなで仲良くお店やさんごっこ



みんなで元気体操

## イ. 子どもや保護者への支援

虐待ケースが増加する中、保護者の思いを受け止めながら、親子関係が途切れないよう努めるとともに、関係機関との連携を密にし家庭復帰を行った。

家庭復帰が困難となった児については、子どもの思いを尊重しながら、良好な関係が築けるよう支援を行い、里親委託や施設変更につなげた。

例年開催している「乳児院まつり」には施設や里親宅で生活する多くの子どもたちを招待し、成長した姿を見て喜びを感じることができた。

また家庭復帰した保護者からの相談に応じるなどアフターケアに努めた。



乳児院まつり  
ヨーヨー釣りコーナー



乳児院まつり  
保育士ヒーローブレイクも登場

## ウ. 設定教育

「キッズルーム わくわく」

年長児に対して、定期的に普段と異なる環境の中で、季節行事や体験教育を行った。家庭に近い社会経験を積むことで、社会性や生きる力、創造する力を習得できるよう努めた。

「きらきら保育」

職員数を増やし日常保育とは違った活動の時間を提供し、その楽しかった体験を話題に取り上げ共有していくことで、表現力や語彙の増加、他者に言葉で伝えようとする意欲や積極性が増すよう取り組んだ。



キッズルーム わくわく  
「思い出になるフォトフレームを作ろう」



きらきら保育  
「風船バスケット」

## エ. 切れ目のない成長への支援

幼少期の思い出となる行事を企画し、たくさんの思い出作りが豊かな成長に繋がるよう、保育の充実を図った。また、その体験を壁新聞にして掲示し記憶の共有ができるよう努めた。



七五三の様子



壁新聞を作成

## オ. 病虚弱児の対応

病虚弱児に対し、徳島赤十字ひのみね医療療育センターのほか関係医療機関と連携し、細やかな健康観察をしながら心身の安定を図るためのケアを行うとともに、個別的な関わりを増やし成長発達を促すような養育に努めた。

## カ. ボランティアの受け入れ

お散歩や外遊びなど屋外での活動や、草取り、入所児の衣類に関する裁縫、おもちゃの清拭などの環境整備活動を中心に22名延べ99日の支援をいただいた。

また、地域赤十字奉仕団の方々からみかん狩り等の院外体験の機会提供をいただくとともに、地域の有志団体「松島会」の方々からは今年で15回目となる餅つき開催など様々な協力をいただいた。



みかん狩り



松島会の皆さんによる餅つき

② 地域の子育て支援への取り組み

ア. 子育て短期支援事業（ショートステイ）

県内全域を対象に、保護者の病気や出産、就労、冠婚葬祭等の社会的事由により、一時的に養育困難となった乳幼児をショートステイに受け入れた。

養育に不安を抱える保護者の増加により950人の利用があり、ショートステイ利用から措置・一時保護となったケースが10件あった。

【利用状況】

	実利用市町村数	利用実人数	利用延べ人数
令和7年度	10（6市4町）	75人	950人
令和6年度	12（6市6町）	74人	960人

イ. 子育てスペースにこにこほっぺ・ハローベビーすくすく

クリスマスやひなまつりなど季節のイベントを通じて、地域での子育て仲間づくりや専門性を活かした育児相談の場を提供し、保護者支援を行った。

また、見守りを必要としている特定妊婦・要支援家庭や新たに里子の委託を受ける里親に向けて、離乳食の作り方や沐浴、オムツ替えの体験指導を行った。

参加者延数（人）	にこにこほっぺ		ハローベビーすくすく	
	回数	人数	回数	人数
令和7年度	11回	127人	5回	5人
令和6年度	11回	100人	4回	4人



にこにこほっぺで  
ハロウィンバックを作製



ハローベビーすくすくで  
離乳食の相談を受ける様子

③ 里親養育包括支援（フォスタリング）事業の受託

新しい社会的養育ビジョンや徳島県こども未来応援プラン等の計画に基づき、里親のリクルートから研修、委託後の支援に至るまでの一貫した里親支援（フォスタリング業務）を実施した。

ア. 里親制度等普及促進・リクルート事業

里親制度等の理解を深めるため、県内各地で説明会を4回、個別対応説明

会を3回実施するとともに、広報資料を作成し、引き続き保健センター、子育て支援拠点をはじめとする関係機関や商業施設に設置依頼をした。

また、里親制度普及活動として映画の上映会を開催し、延べ150名の方に参加いただき、里親制度について広く周知を図った。

併せて、高い視認性をもつ徳島県庁前のスペースビジョンに里親制度の広告を掲載するとともに、地域のイベントに参加しリーフレットの配布やパネルの展示を行い、積極的な啓発活動を行った。



映画上映会を開催



県庁前スペースビジョン  
「里親ってなあに」

#### イ. 里親研修・里親トレーニング等事業

里親登録及び登録の更新に必要な研修を実施した。

##### (a) 基礎研修

制度や子どもの養育についての研修・実習を実施し、講義に延べ23名、実習に延べ25名が参加した。

##### (b) 登録前研修

基礎研修を修了し里親登録を希望される方に対し、研修と実習を実施し、講義に延べ56名、実習に44名が参加した。

##### (c) 更新研修

5年ごとに必要な更新研修を実施し、講義に25名、実習に9名が参加した。

#### ウ. 里親委託推進等事業

5組の里親委託にあたり、里子と里親の信頼関係を構築するため関係調整を83回行った。

#### エ. 里親訪問等支援事業

現に子どもを養育している里親等からの相談に応じるとともに、里親25名に対して延べ29回訪問し、相談や助言を行った。未委託の里親に対しても20

回訪問を行い、現状に対する考え方の確認等を行った。

また、里親へのレスパイト・ケア（休息）のため、子どもに応じた委託先を調整し、合計34回延べ112日間の調整を行った。

乳児院では18人51日間の受け入れを行った。

#### ④ 発達障がい者総合支援ゾーンでの連携

発達障がい者総合支援ゾーンにおける連携会議で行事やイベントの情報を共有し、連携可能な事項を話し合い、協力体制を構築した。また、合同防災会議を開催し、津波避難時の生活空間確保協議を行うとともに、合同避難訓練を実施した。

みなと高等学園の生徒とともに野菜の収穫や焼き芋体験等の野外活動による交流で、入所児童の社会性向上を図った。



#### ⑤ 広報活動

乳児院の事業内容を広く周知するため、広報紙「やっとなー！」及び地域子育て支援事業紹介チラシを幼稚園や児童養護施設に配布した。

また、乳児院事業の「見える化」を図るため、X（旧 Twitter）で子どもたちの日常について情報発信を行うとともに、徳島新聞に赤十字施設の事業紹介として「赤十字のボランティア～成長を支える活動多彩～」を掲載した。

### (3) 在籍児童の状況

#### ① 延べ人数

		令和7年度	令和6年度
在	籍 児 童 数	8,400 人	9,263 人
内 訳	措 置 児	7,563	8,493
	一 時 保 護 児	786	720
	里 親 レ ス パ イ ト	51	50

② 在籍児童の性別及び月齢

(令和8年4月1日現在)

月 齢	男	女	合 計	構成比
3 ヶ 月 未 満	0 人	0 人	0 人	0.0 %
3 ヶ 月 ～ 6 ヶ 月 未 満	0	1	1	5.5
6 ヶ 月 ～ 1 歳 未 満	1	1	2	11.1
1 歳 ～ 1 歳 6 ヶ 月 未 満	0	1	1	5.5
1 歳 6 ヶ 月 ～ 2 歳 未 満	2	1	3	16.7
2 歳 以 上	8	3	11	61.2
合 計	11	7	18	100.0

※構成比は小数第2位を四捨五入

③ 管轄地域別在籍児童の状況

(令和8年4月1日現在)

管轄地域別	男	女	合計
中 央	11 人	6 人	17 人
南 部	0	0	0
西 部	0	0	0
県 外	0	1	1
合 計	11	7	18

(4) 入所児童の状況

① 入所理由

入 所 理 由		令和7年度	令和6年度
虐 待	身体的虐待	0 人	1 人
	心理的虐待	3	3
	ネグレクト	5	3
養 育 困 難		5	0
父 母 の 疾 病		4	2
母精神障害（知的障害含）		0	2
育 児 疲 れ		0	1
児 童 自 身 の 障 害		0	0
そ の 他		0	0
合 計		17	12

② 入所時の月齢

月 齢	令和7年度	令和6年度
1ヶ月未満	4人	0人
1ヶ月～3ヶ月未満	4	2
3ヶ月～6ヶ月未満	1	1
6ヶ月～1歳未満	2	5
1歳以上	6	4
合 計	17	12

(5) 退所児童の状況

① 退所児童の退所理由

退 所 理 由	令和7年度	令和6年度
家 庭 引 取	8人	10人
里 親 委 託	5	0
他 の 施 設 に 移 管	1	10
そ の 他	0	0
合 計	14	20

(6) 決算状況

① 総 括

区 分	当初予算額	補正予算額	計	決 算 額	予算現額に比し増減
収 入	397,225,000 <sup>円</sup>	26,400,000 <sup>円</sup>	423,625,000 <sup>円</sup>	416,966,821 <sup>円</sup>	△6,658,179 <sup>円</sup>
支 出	312,889,000 <sup>円</sup>	26,400,000 <sup>円</sup>	339,289,000 <sup>円</sup>	325,801,552 <sup>円</sup>	13,487,448 <sup>円</sup>

収入支出差引額 91,165,269円

※収入決算額には、前期末支払資金残高 86,063,887円を含む。

② 事業活動による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
措置費収入	305,121,044 <sup>円</sup>	288,241,152 <sup>円</sup>	16,879,892 <sup>円</sup>	5.9%
私的契約利用料収入	1,179,040	1,157,330	21,710	1.9
補助金事業収入	6,302,330	4,525,480	1,776,850	39.3
受託事業収入	16,732,010	21,505,850	△4,773,840	△22.2
経常経費寄附金収入	20,000	60,000	△40,000	△66.7
その他の収入	198,510	140,000	58,510	41.8
収入計	329,552,934	315,629,812	13,923,122	4.4
人件費支出	214,462,012	217,130,670	△2,668,658	△1.2
事業費支出	18,744,446	19,026,587	△282,141	△1.5
事務費支出	14,002,804	17,779,217	△3,776,413	△21.2
支出計	247,209,262	253,936,474	△6,727,212	△2.6

③ 施設整備等による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
施設整備等補助金収入	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	0 <sup>円</sup>	-%
収入計	0	0	0	-
固定資産取得支出	1,772,431	4,650,731	△2,878,300	△61.9
支出計	1,772,431	4,650,731	△2,878,300	△61.9

④ その他の活動による収入及び支出

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
他会計繰入金収入	1,350,000 <sup>円</sup>	1,154,905 <sup>円</sup>	195,095 <sup>円</sup>	16.9%
拠点区分間繰入金収入	0	0	0	-
その他の活動による収入	0	2,468,620	△2,468,620	△100.0
収入計	1,350,000	3,623,525	△2,273,525	△62.7
積立資産支出	67,000,000	48,000,000	19,000,000	39.6
他会計繰入金支出	0	0	0	-
拠点区分間繰入金支出	679,580	0	679,580	-
その他の活動による支出	9,140,279	8,315,614	824,665	9.9
支出計	76,819,859	56,315,614	20,504,245	36.4

⑤ 当期末支払資金残高

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	増 減 額	伸び率
事業活動資金収支差額	82,343,672 <sup>円</sup>	61,693,338 <sup>円</sup>	20,650,334 <sup>円</sup>	33.5%
施設整備等資金収支差額	△1,772,431	△4,650,731	2,878,300	△61.9
その他の活動資金収支差額	△75,469,859	△52,692,089	△22,777,770	43.2
当期資金収支差額合計	5,101,382	4,350,518	750,864	17.3

前期末支払資金残高	86,063,887 <sup>円</sup>	81,713,369 <sup>円</sup>	4,350,518 <sup>円</sup>	5.3%
当期末支払資金残高	91,165,269	86,063,887	5,101,382	5.9



## IV 德島赤十字病院

## 【徳島赤十字病院の理念】

私たちは断らない医療を実践し、  
みなさまの健康と尊厳をお守りします。

## 【徳島赤十字病院の原則】

### 1 自由

自由は創造の原点。組織は個人の集合体である。職員一人ひとりの尊厳を守る基本は、個々の発想や思想の自由を尊重することにある。生き生きとした個人により構成された組織でない限り、組織の発展はありえない。

### 2 高度先進医療

この病院は、常に世界の先端をいく医療を維持し、それを地域の人達に提供し続けなければならない。医療の資質向上は、究極的には全世界の人々が対象となるが、病院としての性格上、まず地域の人々に充分満足してもらえる医療を提供することから始まるものである。これは、時代が変わっても、病院組織である限り変わることはない原則である。地域に対する医療提供者としての責務を、常に忘れてはならない。

### 3 教育

教育とは、人間の創造性を高める研修、訓練、人間相互の励まし合い、助け合いの中から生まれる個々の人間の成長、これが組織における教育の重要性であり、常に自己研鑽が出来る病院でなければならない。

### 4 文化の創造

病院は、疾患治療の場のみでなく、いろいろな人々の知性の集まる場所でもある。これからの病院医療も、人間学、人間科学としての概念を持ち、疾患を持つ人々からも知的情報をできる限り与えて戴き、それらの人々にも参加して戴き、病院の場での文化創造を考える。また、そのような情報を人間社会（世界）に発信することが重要なこととなってくる。人類の未来に対する発信を、病院としての組織体から生み出すことが大切であり、病院職員は、常にその意識を持って行動することである。

### 5 世界性

視野を世界に持つ。医師をはじめとして、病院職員の全てが常に世界に目を向けることは、非常に大切なことである。世界からあらゆる情報を受けとり、正確に分析、理解し、適切な判断を下すこと、また、自分達が創造した情報を常に世界に発信することも大切である。情報取得の道は待つだけでなく、発信することにより大きな道が開かれることを認識することである。

## IV 徳島赤十字病院

### I 病院の概要

#### (1) 沿革

年 月	事 項
昭和24. 9	小松島町立診療所が日本赤十字社徳島県支部に移管され支部診療所として発足
25. 3	本館新築工事竣工（昭和24年11月着工）
4	病院開設許可を受け、支部診療所を小松島赤十字病院と改称し内科、外科、放射線科の診療開始（60床）
8	眼科、産婦人科の診療開始
26. 3	第1病棟（100床）及び試験室増築工事竣工
6	許可病床数112床となる
12	海部郡浅川村に分院として浅川診療所を設置
27. 4	小松島市委託伝染病棟（16床）併設。徳島県立高等看護学校を併設し看護婦の養成開始
5	第2病棟（36床）増築工事竣工
5	小児科、耳鼻咽喉科の診療開始
6	総合病院の承認を得る
9	第3病棟（50床）増築工事竣工
9	許可病床数214床となる
28. 8	徳島県から「乳児院」の業務委託を受け運営開始
29. 4	整形外科診療開始
4	徳島県立高等看護学校が日本赤十字社徳島県支部に移管され小松島赤十字高等看護学院となる
8	第5病棟（60床）増築工事竣工
9	許可病床数262床となる（一般91床、結核155床、伝染16床）
9	血液銀行を新設し血液事業を開始
30. 5	浅川診療所廃止
33. 9	結核病床45床を一般病床に転用（一般136床、結核110床、伝染16床）
34. 5	皮膚泌尿器科診療開始
6	徳島県から肢体不自由児施設「ひのみね学園」の業務委託を受け運営開始
6	看護婦宿舎（第一清鷺寮）新築工事竣工
35. 1	許可病床数350床となる（一般224床、結核110床、伝染16床）
37. 3	第7病棟（77床）増築工事竣工
11	併設の血液銀行が分離され徳島県赤十字血液銀行となる
38. 1	歯科診療開始
2	許可病床数390床となる（一般260床、結核114床、伝染16床）
39. 7	麻酔科新設

年	月	事	項
昭和40.	4	徳島県から受託の「ひのみね学園」、「乳児院」を病院業務より分離	
41.	9	脳神経外科診療開始	
42.	3	心臓外科診療開始	
	6	許可病床数416床となる（一般286床、結核114床、伝染16床）	
	7	仁木イワノ看護部長、第21回フローレンス・ナイチンゲール記章受章	
43.	5	第一期増改築工事竣工（本館200床）	
	5	ガン治療棟竣工	
	5	精神神経科診療開始。皮膚科、泌尿器科を分離	
44.	12	救急病院として告示される	
47.	5	結核病床26床を一般病床に転用（一般312床、結核88床、伝染16床）	
48.	11	第二期増改築工事竣工（新館265床）	
	11	小松島市ほか2町総合隔離病舎改築工事竣工（25床）	
	11	許可病床数464床となる（一般312床、結核68床、精神59床、伝染25床）	
50.	3	結核病床18床を一般病床に転用（一般330床、結核50床、精神59床、伝染25床）	
	10	武田七郎院長、藍綬褒章受章	
51.	4	学校教育法の一部改正に伴い、小松島赤十字高等看護学院の名称を小松島赤十字看護専門学校と改称	
52.	3	小松島赤十字看護専門学校及び宿舎改築工事竣工。養成定員90名となる	
	8	院内託児所新築工事竣工	
	10	院内託児所開所（定員30名）	
54.	12	第三期増改築工事竣工（50床）	
55.	1	小児外科診療開始	
	1	心臓外科を循環器科に名称変更	
	2	許可病床数514床となる（一般380床、結核50床、精神59床、伝染25床）	
	2	三期にわたる整備計画の完了に伴い各建物の呼称を1号棟（本館）、2号棟（新館）、3号棟（第三期建物）と改称	
	4	創立30周年記念式典並びに第三期増改築工事落成式を挙行	
	6	武田院長退任、同日付で名誉院長の称号を授与	
	6	谷本副院長が院長に就任	
57.	4	武田七郎名誉院長、勲三等瑞宝章受章	
	6	谷本院長退任、7月1日付で名誉院長の称号を授与	
	7	松森副院長が院長に就任	
	10	小松島赤十字看護専門学校創立30周年記念式典挙行	
58.	6	結核病床20床を一般病床に転用（一般400床、結核30床、精神59床、伝染25床）	
	8	モバイルICU運行開始	
59.	9	第一回救急医療功労者県知事表彰受賞	
60.	9	救急医療功労者厚生大臣表彰受賞	
62.	12	許可病床数564床となる（一般450床、結核30床、精神59床、伝染25床）	

年 月	事 項
平成元. 11	第四期増改築工事起工式
3. 3	第四期増改築工事竣工（4号棟、5号棟）
4	創立40周年記念式典並びに第四期増改築工事落成式を挙行
4	健診部新設
6	形成外科診療開始
4. 4	理学診療科新設
5. 4	呼吸器科診療開始
4	徳島県南部医療圏における救命救急センターに指定される
8. 10	徳島県地域災害医療センターに指定される
11	医療法の一部改正に伴い、理学診療科の名称をリハビリテーション科と変更
9. 3	松森院長退任、4月1日付で名誉院長の称号を授与
4	片岡副院長が院長に就任
4	松森茂名誉院長、勲三等瑞宝章受章
10. 3	心臓血管外科新設
5	徳島県臓器移植コーディネーター設置推進事業受託
7	救急部新設
11. 4	伝染病床25床を廃止（一般450床、結核30床、精神59床）
4	病理部新設
12. 2	1号棟3階の病棟を廃止し、アネックスに転用する
3	結核病床30床を廃止（一般450床、精神59床）
4	臨床研修指定病院に指定される
9	精神病床を39床減床（一般450床、精神20床）
13. 4	病院名を「徳島赤十字病院」に改称
6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 3.1）の認定病院となる
10	地域医療支援病院に指定される
11	米国病理学会（CAP）認定を取得
14. 3	小松島赤十字看護専門学校を閉校
3	院内託児所閉所
4	救命救急センターが国の指定となる
4	小児救急医療拠点病院に指定される
4	臨床研修看護師制度を開始
10	紹介率80%の地域医療支援病院となる
15. 3	臓器移植法に基づく臓器提供施設となる
4	消化器科新設、内科・外科を主体として臓器別診療科に再編
10	ISO9001：2000認証取得
10	移転新築工事起工式
16. 4	新医師臨床研修制度での研修（単独型）を開始
17. 9	検査部 ISO15189認定取得
18. 1	移転新築工事竣工

年	月	事	項
平成18.	4	歯科を廃止	
	4	診断群分類別包括評価（DPC）対象病院となる	
	5	新病院開院（一般405床）	
	5	精神病床（20床）を廃止。精神神経科を神経科と精神科に変更	
	5	(社)照明学会「照明普及賞優秀施設賞」を受賞	
	5	「徳島県ひとにやさしいまちづくり条例」で定める整備基準の適合施設となる（平成19年9月条例廃止）	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 5.0）の認定病院となる	
19.	1	地域がん診療連携拠点病院に指定される	
	4	血管内治療科新設	
	10	(財)都市緑化技術開発機構主催、第6回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール屋上緑化部門「審査委員会特別賞」を受賞	
	12	NPO 法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価の認定病院となる	
20.	4	(社)日本医療福祉建築協会「医療福祉建築賞2007」を受賞	
	8	徳島県医師同乗救急ヘリコプターの搭乗医師の確保業務を受託（基幹病院）	
21.	4	循環器科を循環器内科に変更	
	4	管理型臨床研修病院に指定変更	
	5	基幹型臨床研修病院に指定名称変更	
	5	日本医療機能評価機構による付加機能「救急医療機能」の認定病院となる	
	6	高度救命救急センターに指定される	
	10	ISO9001を2008年版で登録更新	
22.	3	病院棟4階医局拡張工事及び病院棟1階仮眠室増築工事竣工	
	7	患者図書室「はなみずき」開設	
23.	1	創立60周年記念フォーラム開催	
	2	(財)骨髄移植推進財団による非血縁者間骨髄採取施設・移植診療科に認定	
	3	片岡院長退任、4月1日付で名誉院長の称号を授与	
	4	日浅副院長が院長に就任	
	4	地域周産期母子医療センターに認定される	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver 6.0）の認定病院となる	
24.	2	へき地医療拠点病院に指定される	
	3	院内保育園新築工事竣工	
	4	「ぼんぼこ保育園」開園	
	4	臨床研修薬剤師制度を開始	
	4	呼吸器科を呼吸器内科と呼吸器外科に変更	
	4	「ホスピタルカフェ」の運営を開始	

年	月	事	項
平成24.	9	救急医療功労者県知事表彰受賞	
	10	徳島県赤十字有功会からモバイル ICU の寄贈	
25.	1	産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞	
	4	産婦人科を産科と婦人科に変更	
	9	救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞	
26.	3	神経科を廃止	
	4	神経内科新設	
	5	病理部を病理診断科に変更	
	5	ハイブリッド手術室新設工事竣工	
	11	片岡名誉院長、瑞宝小綬章受章	
27.	4	産科・婦人科を産婦人科に変更	
	10	ISO9001：2000認証を返上。自主運営を開始する	
28.	4	増築・改修工事起工式	
	4	入院サポートセンター開設	
	6	日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver. 1.1）の認定病院となる	
	6	ラピッドレスポンスカー運行開始	
29.	9	西棟増築工事竣工	
	12	腎臓内科を新設、救急部・集中治療科部を救急科に変更	
30.	4	神経内科を脳神経内科に変更	
	7	既存建物の改修工事が完了	
	10	旧アンギオ室を手術室へ改修、手術室を12室体制とする	
31.	3	日浅院長退任、4月1日付で名誉院長の称号を授与	
	4	後藤副院長が院長に就任	
令和元.	11	小児がん連携病院に指定される	
2.	4	乳腺外科を新設。血液科を血液内科、代謝・内分泌科を糖尿病・内分泌内科に変更	
	7	新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定される	
	8	新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関に指定される	
4.	5	日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver. 2.0）の認定病院となる	
	5	小松島市との包括的連携に関する協定を締結	
5.	3	小児がん連携病院の指定期間が満了となる	
	4	頭頸部外科を新設し、耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉科・頭頸部外科に変更	
	8	紹介受診重点医療機関に指定される	
	8	からだにやさしい治療センター開設	

## (2) 概 要

### ① 土地、建物

#### ・土地

所 有 地	37,748.96m <sup>2</sup>
借 用 地	4,830.12m <sup>2</sup>
計	42,579.08m <sup>2</sup>

#### ・建物

所 有 建 物	51,168.24m <sup>2</sup>
借 用 建 物	0m <sup>2</sup>
計	51,168.24m <sup>2</sup>

### ② 診 療 科

内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、脳神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、救急科

### ③ 許可病床数

一般 405床

### ④ 特殊機能

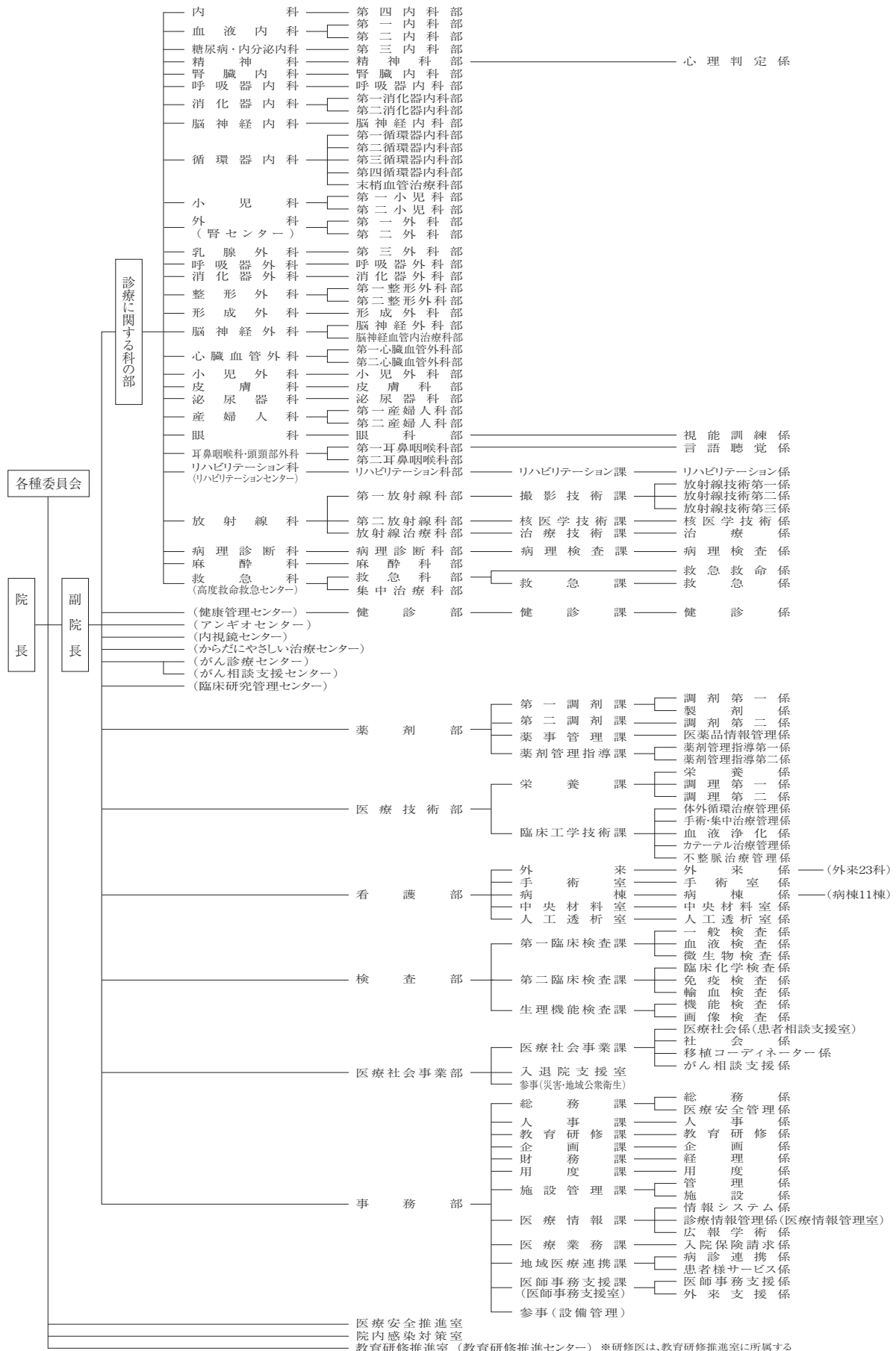
地域医療支援病院  
高度救命救急センター  
小児救急医療拠点病院  
地域周産期母子医療センター  
地域がん診療連携拠点病院  
へき地医療拠点病院  
地域災害医療センター  
臨床研修病院  
臓器提供施設  
紹介受診重点医療機関

### ⑤ 職 員 数 (常勤)

医 師	156人
医療技術職員	159人
看護職員	584人
事務等その他	142人
計	1,041人

⑥ 組織図

(令和8年3月31日現在)



## Ⅱ 重点事項

少子高齢化・人口減少が急速に進行する状況において、限りある資源を有効に活用しつつ、質の高い効率的かつ持続可能な医療提供体制を確保するため、医療の機能分化と連携の更なる推進が医療機関である我々にも強く求められている。

コロナ禍を経て大きく変化していく環境において、当院は病院理念である「断らない医療」を実践し、地域医療支援病院、高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院をはじめとする各基幹機能の充実を図った。外来機能についても、紹介と逆紹介を徹底することにより地域の医療機関と密な連携体制を構築し、高度化と専門化を更に強化した。

そして、大規模災害などの有事においても、切れ目のない安定した高度急性期医療を提供するための強固な組織体制を整備するだけでなく、日本赤十字社ならびに災害医療拠点病院としての使命をいかなる状況下でも全うすべく、対応能力の更なる増強を図った。

また、タスク・シェア及びタスク・シフトを加速させ、働き方改革に弛みなく取り組んだ。更にはDXの利活用を積極的に進め、それを労働時間短縮に繋げるだけでなく、ヒューマンエラーの発生を未然に防ぐことにより「患者の安全を最優先とする医療」と「医療従事者の負担軽減」の両立を目指し、より高度な医療に取り組める体制の整備を図った。

### 1 地域の基幹病院としての特色発揮と機能強化

- (1) 地域医療支援病院として、病診（病）連携の強化を図り、紹介患者と救命救急を中心とした高度急性期医療への特化に努めた。今年度も病診（病）連携をより強固なものにするため地域医療連携懇談会を開催したところ、連携医療機関からの参加者数は過去最高を記録した。
- (2) 高度救命救急センターとして、高度で専門的な医療を提供するとともに、「断らない医療」を実践し100%の救急医療対応の実現に向けて取り組んだ。更に、ラピッドレスポンスカー（医師派遣用自動車）により、救急現場や患者搬送中の救急車に一刻も早く救急処置薬剤・蘇生用具を携行した医師や看護師を派遣する積極的な「病院前救急診療」を展開することで、地域の救命率向上に寄与した。
- (3) 小児救急医療拠点病院として、小児救急患者の受け入れ体制を整備したほか、医療機関をはじめとする関係機関と密接に連携し、本県における小児救急医療体制の確保・充実に努めた。

- (4) 地域周産期母子医療センターとして、産科救急等の受け入れを強化するとともに、県内の周産期医療関連施設等との連携をより一層密にし、周産期医療体制の強化拡充を図った。
- (5) 地域がん診療連携拠点病院として、がんの診断・治療機能を強化し、地域におけるがん医療の充実に努め、診断から治療、更には社会復帰まで切れ目のない横断的な治療・支援体制の構築に取り組んだ。
- (6) へき地医療拠点病院として、医師が不足する地域への継続的な医師派遣により、その地域のプライマリを支援するとともに、3次救急医療機関として救急車やドクターヘリの受け入れ、ドクターカーの運行等を通じて地域医療の充実に努めた。
- (7) 5大疾病対応として、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病への対応力強化を継続し、精神疾患へはリエゾン精神医療実施体制を整備し、高度急性期病院として政策医療に積極的に取り組んだ。
- (8) 医療機能の分化・連携の推進として、DPC制度（DPC／PDPS）下においての医療の標準化と地域医療機関との連携により平均在院日数の最適化に努め、高度で高密度な医療提供体制の構築に努めた。また、日帰り手術センターを活用し、短期入院症例の外来化を促進するとともに、柔軟なベッドコントロールを展開することで入院患者の収容能力を強化した。
- (9) 手術支援ロボットを用いた手術の適用拡大など、治療や最先端の医療技術と低侵襲の治療をより一層推進するとともに、「からだにやさしい治療センター」の利活用により医療の質の更なる向上を図った。
- (10) 電子カルテシステムの更新を行ったほか、院内用携帯電話をスマートフォンに変更し、より効率的な診療体制を推進した。また、新たに自動精算機や患者呼び出し用電光板などの設置により、患者サービスの更なる向上を図った。



令和8年2月10日に開催した地域医療連携懇談会

## 2 安全・安心の医療提供体制の構築

- (1) 高度化・複雑化する医療環境の中で、安全で良質な医療を提供し続けるには、職員一人ひとりの心構えと医療安全や感染管理に関する知識の向上が不可欠である。医療安全推進室と院内感染対策室が核となり、病院の安全文化の醸成を図るとともに、患者の安全を最優先とする組織体制の充実と強化に努めた。また、RRS（院内救急対応システム）をより一層推進するなど、職種や年代の垣根を越えたチーム医療の充実に取り組んだ。
- (2) 患者・ご家族が病院や職員に求めるニーズは年々多様化しており、これらに対しても誠実に対応しなければならない。患者の視点を念頭においた接遇を心がけることで顧客満足度の向上に繋げるとともに、患者との十分な対話や円滑な意思疎通により「安心と満足」が得られる医療の提供に取り組んだ。
- (3) 近年、急増するサイバー攻撃や不正アクセスに対する万全なセキュリティ対策を講じるとともに、情報セキュリティについて全職員のコンプライアンス意識の徹底に努めた。

## 3 赤十字医療施設としての特色発揮と機能強化

- (1) 医療救護活動は赤十字事業として重要であることから、今後高い確率で発生が危惧されている大規模災害などの有事に備え、赤十字救護班や災害医療支援チーム（徳島日赤 DMAT）の養成に努めた。更に、赤十字のグループ力の発揮や防災関係機関とのネットワークの活用等により、災害マネジメントサイクル全体への関与を確立し、より一層の災害対応能力の強化に取り組んだ。
- (2) BCPに基づき、発災直後から復興期に至るまで切れ目のない医療活動が展開できるよう、院内災害医療訓練や関係団体との共同訓練等を通じて災害時の行動習熟を図り、災害拠点病院としての質向上に努めた。
- (3) 日本赤十字社徳島県支部との連携・協力関係をより密接なものとし、赤十字医療施設としての特色を発揮するとともに、効果的な広報活動を展開することで、赤十字思想の着実な普及に努めた。

## 4 効率的な運営体制の構築

病院運営は、医療そのものの質の高さを確保することは勿論であるが、これと同時に安定した経営基盤の確立、即ち「経営の質」の強化が重要である。高度医療の推進に伴う材料費や設備投資だけでなく、社会情勢を要因とした費用の増加が今後も見込まれるが、共同購入事業の活用をはじめとするコストマネジメント

に加え、新入院患者数の増加や適切な施設基準の取得、DPC 医療機関別係数のアップなどによる収益性の向上に徹底して取り組んだ。

また、種々のデータベースを活用することで、「人・物・金・情報・時間」を客観的・多角的に病院運営を検証し、柔軟かつ創造的な病院経営戦略の策定・実行を推進した。

全職員に対しては、今一度当院のビジョンや目的の浸透を図ることで、病院運営を担っているという責任感や使命感の向上に繋げ、積極的に経営参画ができる組織文化の醸成に努めた。

## 5 人材育成と確保

医療従事者の人材確保は最重要課題のひとつであるが、個々人がスキルを伸ばしてキャリアを形成できる土壌をつくり、内外から「働きたい」と思える組織風土を築くことが必要である。

有給休暇の取得促進や時間外労働の短縮をはじめとする労務管理を徹底し、職員の本質的な意識改革を促すことで、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の整備を進めた。また、多職種が連携したチーム医療を根幹とするタスク・シフト／シェアを推進し、医療従事者の勤務環境改善に努めた。更には、令和6年の診療報酬改定で新設された「ベースアップ評価料」をはじめとする処遇改善に関連する種々の施設基準を当初から届け出るなどして、医療職の処遇改善を推進した。

そして、地域医療に貢献できる人材を育成するため、専門知識や技術の修得を積極的に支援し、修得した知見や技能を存分に発揮し活躍できる組織運営に取り組んだ。

### (1) 質の高い医師の確保と育成

社会問題となっている医師不足や偏在化に対し、初期臨床研修制度と新専門医制度などの研修プログラムの充実を図り、医師の確保に最大限努めた。また、医師から他職種へのタスク・シフトを推進し、医師の勤務環境改善に取り組んだ。

#### ① 初期臨床研修制度（臨床研修医・2年間）

初期臨床研修を実施するにあたっては、医師としての人格を涵養し、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、将来に専門とする分野に関わらず幅広い臨床能力（知識・技術・態度・総合判断力等）を身につけ、チーム医療の一員としてその役割を理解し、チームメンバーと協力しながら全人的態度で医療を提供できる医師を守り育てることを研修理念とした。

また、幅広いプライマリ・ケアに対処し得る第一線の臨床医、あるいは高

度の専門医を目指すために必要となる基本的な知識や技術、態度の修得を目的としている。特に、当院の特長である救命救急医療及び地域医療支援の特殊機能を活かし、すべての急性期疾患と救急疾患の初期治療を行える技能の修得を基本方針として掲げ、臨床研修病院として研修体制の充実を図った。

〔令和7年度 1年次10名、2年次10名、合計20名〕

② 新専門医制度（専攻医 3年・4年制）

「内科」「整形外科」「救急科」の3領域を中心に初期臨床研修を終えた専攻医を広く募集し、医師の専門医取得を支援するとともに、専門的な診療能力を備えた臨床医の養成に努めた。また、連携施設との関係を強化し、特に内科については県内外から広く受け入れを行うなど、より高度な専門性を持つ医師の養成に貢献した。

③ フェロー医（研究医）制度（4年間）

指導医師として必要な能力を身に付け、厚生労働省が認めた臨床研修指導医養成講習会の受講を促進した。

④ 国内外の救護活動に貢献できる赤十字臨床医としての誇りを持った医師を育成し確保に取り組んだ。



臨床研修医を対象にした皮膚縫合セミナー

(2) 質の高い職員の確保と育成

安全・安心な医療の提供にはチーム医療の推進が重要であり、医療従事者に期待される役割は日々拡大している。細分化する専門資格の取得に要する費用の援助、及び学習環境づくりを推進することで、資格取得を積極的に支援した。

① 臨床研修看護師（助産師）の育成

基本的な臨床実践能力を修得し、臨床において確実な看護ケアが提供できる赤十字の看護職員を育成した。

〔令和7年度 31名〕

② 認定看護管理者、専門看護師、認定看護師の養成、特定行為研修の受講  
医療の高度化・複雑化が進む中でチーム医療を推進するため、手順書により一定の診療の補助を行う看護師（特定行為に係る看護師）を養成する特定行為研修の受講を積極的に支援するなど、高度かつ専門的な知識・技術を有する看護師を育成するため、費用の援助と学習環境などへの配慮を行い、資格取得を推進した。令和7年度においては、がん看護専門看護師1名を養成した。

(3) 地域における医療水準の向上

スキルラボ（臨床技能学習室）などを活用し、職員のみならず医学生や地域の医療関係者を対象とした研修会などを、オンラインを含む形態で積極的に開催し、地域における医療水準の向上に寄与した。

## 6 保健事業

国の医療政策により義務付けられた特定健診をはじめ、女性スタッフだけの乳がん検診やPET-CT検診といった特色と魅力あふれる健診事業を推進した。

なお、コロナ禍以前には好評を得ていた「踊る血管阿波踊り健診」や市民公開講座については今年度の実施・開催には至らなかったが、当院の特性を活かして地域の方々の健康増進と疾病予防に寄与するため、今後の新たな保健事業の展開について模索した。

### Ⅲ 事業実績数値

項 目		7年度実績	6年度実績
入 院	在 院 患 者 延 数 (1日平均)	321.1人	336.1人
	新 入 院 患 者 数 (1日平均)	36.9人	37.8人
	入 院 患 者 延 数 (1日平均)	358.1人	373.9人
	平 均 在 院 日 数	8.7日	8.9日
	病 床 利 用 率	88.4%	92.3%
外 来	外 来 患 者 延 数 (1日平均)	703.9人	721.7人
	新 患 者 数 (1日平均)	99.1人	104.5人
	紹 介 率 (地域医療支援病院)	91.5%	89.0%
	院 外 処 方 箋 発 行 率	94.1%	94.0%

### Ⅳ 事業の実施状況

#### (1) 入院患者延数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	130,696 人	136,477 人	△5,781 人	95.8 %
一 日 平 均	358.1	373.9	△15.8	

#### (2) 新入院患者数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	13,471 人	13,804 人	△333 人	97.6 %
一 日 平 均	36.9	37.8	△0.9	

#### (3) 平均在院日数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数
年 間 平 均	8.7 日	8.9 日	△0.2 日

#### (4) 外来患者延数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	169,646 人	174,650 人	△5,004 人	97.1 %
一 日 平 均	703.9	721.7	△17.8	

#### (5) 紹介患者数（再診含む）

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	19,900 人	20,857 人	△957 人	95.4 %
一 日 平 均	82.6	86.2	△3.6	

#### (6) 初診の紹介率

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数
年 間 平 均	91.5 %	89.0 %	2.5 P

#### (7) 救急患者数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	12,634 人	13,605 人	△971 人	92.9 %

#### (8) ドクターカー出動件数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
消防機関からの要請	233 件	323 件	△90 件	72.1 %
医療機関からの要請	6	3	3	200.0
他病院への搬送	92	61	31	150.8
年 間 延 数	331	387	△56	85.5

#### (9) ドクターヘリ受入件数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数	対前年度比率
年 間 延 数	80 件	91 件	△11 件	87.9 %

#### 診療実日数

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減 数
入 院	365 日	365 日	0 日
外 来	241	242	△1

## (10) 保健医療圏患者数

## ア. 入院

(単位：人)

保健医療圏	延患者数	市 町 村 別									
		徳島市	鳴門市	佐那河内村	石井町	神山町	松茂町	北島町	藍住町	板野町	上板町
東 部 I	49,948 (38.2%)	39,166	3,301	1,099	1,140	491	1,063	1,367	1,516	429	376
東 部 II	2,826 (2.2%)	阿波市 1,331	吉野川市 1,495								
南 部 I	66,484 (50.9%)	小松島市 27,646	阿南市 29,928	勝浦町 3,495	上勝町 1,195	那賀町 4,220					
南 部 II	6,756 (5.2%)	美波町 2,666	牟岐町 1,062	海陽町 3,028							
西 部 I	1,415 (1.1%)	美馬市 1,217	つるぎ町 198								
西 部 II	671 (0.5%)	三好市 423	東みよし町 248								
県 外	2,596 (2.0%)										
計	130,696 (100.0%)										

## イ. 外来

(単位：人)

保健医療圏	延患者数	市 町 村 別									
		徳島市	鳴門市	佐那河内村	石井町	神山町	松茂町	北島町	藍住町	板野町	上板町
東 部 I	60,529 (35.7%)	49,923	2,926	1,127	887	645	1,126	1,295	1,592	489	519
東 部 II	2,672 (1.6%)	阿波市 1,270	吉野川市 1,402								
南 部 I	95,004 (56.0%)	小松島市 42,994	阿南市 42,432	勝浦町 4,217	上勝町 1,334	那賀町 4,027					
南 部 II	7,477 (4.4%)	美波町 3,012	牟岐町 1,218	海陽町 3,247							
西 部 I	1,367 (0.8%)	美馬市 985	つるぎ町 382								
西 部 II	721 (0.4%)	三好市 440	東みよし町 281								
県 外	1,876 (1.1%)										
計	169,646 (100.0%)										

## V 決算の状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### ① 決算数値

(単位：円)

科 目	年 度 令和7年度 予 算 額	令和7年度 決 算 額	予 算 額 との増減	令和6年度 決 算 額	前年度決算額 との比較	決算額 増減率 (%)
医 業 収 益	19,843,927,000	19,304,630,244	△539,296,756	19,617,270,766	△312,640,522	△1.59
入院診療収益	14,472,865,000	14,055,237,238	△417,627,762	14,392,956,514	△337,719,276	△2.35
室料差額収益	407,051,000	401,200,029	△5,850,971	416,640,225	△15,440,196	△3.71
外来診療収益	4,817,365,000	4,718,601,814	△98,763,186	4,661,845,546	56,756,268	1.22
保健予防活動収益	165,317,000	151,351,107	△13,965,893	165,924,626	△14,573,519	△8.78
受託検査・ 施設利用収益	5,409,000	4,111,900	△1,297,100	5,094,450	△982,550	△19.29
その他医業収益	47,349,000	39,509,981	△7,839,019	44,802,769	△5,292,788	△11.81
保険等査定減	△71,429,000	△65,381,825	6,047,175	△69,993,364	4,611,539	△6.59
医 業 外 収 益	280,384,000	553,637,215	273,253,215	281,010,729	272,626,486	97.02
医療社会事業収益	5,871,000	6,293,728	422,728	5,950,382	343,346	5.77
付帯事業収益	0	0	0	0	0	-
特別利益	0	1,843,661	1,843,661	0	1,843,661	-
収 益 的 収 入	20,130,182,000	19,866,404,848	△263,777,152	19,904,231,877	△37,827,029	△0.19
医 業 費 用	20,293,535,000	18,513,621,893	△1,779,913,107	17,847,460,528	666,161,365	3.73
材 料 費	6,875,003,000	6,814,795,484	△60,207,516	6,743,173,215	71,622,269	1.06
給 与 費	9,136,401,000	7,677,780,871	△1,458,620,129	7,323,074,584	354,706,287	4.84
委 託 費	1,286,942,000	1,259,450,854	△27,491,146	1,146,467,003	112,983,851	9.85
設 備 関 係 費	2,176,368,000	2,007,798,063	△168,569,937	1,825,074,218	182,723,845	10.01
(再掲) 減価償却費	1,264,261,000	1,207,166,108	△57,094,892	1,018,658,467	188,507,641	18.51
研 究 研 修 費	78,229,000	73,908,413	△4,320,587	77,632,947	△3,724,534	△4.80
経 費	740,592,000	679,888,208	△60,703,792	732,038,561	△52,150,353	△7.12
医 業 外 費 用	70,393,000	68,113,827	△2,279,173	56,968,550	11,145,277	19.56
医療奉仕費用	161,279,000	124,823,737	△36,455,263	126,766,149	△1,942,412	△1.53
付帯事業費用	0	0	0	0	0	-
特別損失	38,383,000	29,747,145	△8,635,855	1,959,844	27,787,301	1,417.83
法人税等	0	△226,841	△226,841	0	△226,841	-
予 備 費	30,000,000	0	△30,000,000	0	0	-
収 益 的 収 入 支 出 合 計	20,593,590,000	18,736,079,761	△1,857,510,239	18,033,155,071	702,924,690	3.90
収 支 差 引 額	△463,408,000	1,130,325,087	1,593,733,087	1,871,076,806	△740,751,719	△39.59

② 決算整理における退職給付引当金の処理を除いた数値

(単位：円)

年 度 科 目	令和7年度 予 算 額	令和7年度 決 算 額	予 算 額 との増減	令和6年度 決 算 額	前年度決算額 との比較	決算額 増減率 (%)
医 業 収 益	19,843,927,000	19,304,630,244	△539,296,756	19,617,270,766	△312,640,522	△1.59
入院診療収益	14,472,865,000	14,055,237,238	△417,627,762	14,392,956,514	△337,719,276	△2.35
室料差額収益	407,051,000	401,200,029	△5,850,971	416,640,225	△15,440,196	△3.71
外来診療収益	4,817,365,000	4,718,601,814	△98,763,186	4,661,845,546	56,756,268	1.22
保健予防活動収益	165,317,000	151,351,107	△13,965,893	165,924,626	△14,573,519	△8.78
受託検査・ 施設利用収益	5,409,000	4,111,900	△1,297,100	5,094,450	△982,550	△19.29
その他医業収益	47,349,000	39,509,981	△7,839,019	44,802,769	△5,292,788	△11.81
保険等査定減	△71,429,000	△65,381,825	6,047,175	△69,993,364	4,611,539	△6.59
医 業 外 収 益	280,384,000	553,637,215	273,253,215	281,010,729	272,626,486	97.02
医療社会事業収益	5,871,000	6,293,728	422,728	5,950,382	343,346	5.77
付帯事業収益	0	0	0	0	0	-
特 別 利 益	0	1,843,661	1,843,661	0	1,843,661	-
収 益 的 収 入	20,130,182,000	19,866,404,848	△263,777,152	19,904,231,877	△37,827,029	△0.19
医 業 費 用	20,293,535,000	19,886,644,893	△406,890,107	19,314,280,560	572,364,333	2.96
材 料 費	6,875,003,000	6,814,795,484	△60,207,516	6,743,173,215	71,622,269	1.06
給 与 費	9,136,401,000	9,050,803,871	△85,597,129	8,789,894,616	260,909,255	2.97
委 託 費	1,286,942,000	1,259,450,854	△27,491,146	1,146,467,003	112,983,851	9.85
設 備 関 係 費	2,176,368,000	2,007,798,063	△168,569,937	1,825,074,218	182,723,845	10.01
(再掲) 減価償却費	1,264,261,000	1,207,166,108	△57,094,892	1,018,658,467	188,507,641	18.51
研 究 研 修 費	78,229,000	73,908,413	△4,320,587	77,632,947	△3,724,534	△4.80
経 費	740,592,000	679,888,208	△60,703,792	732,038,561	△52,150,353	△7.12
医 業 外 費 用	70,393,000	68,113,827	△2,279,173	56,968,550	11,145,277	19.56
医療奉仕費用	161,279,000	167,380,995	6,101,995	151,021,365	16,359,630	10.83
付帯事業費用	0	0	0	0	0	-
特 別 損 失	38,383,000	29,747,145	△8,635,855	1,959,844	27,787,301	1,417.83
法 人 税 等	0	△226,841	△226,841	0	△226,841	-
予 備 費	30,000,000	0	△30,000,000	0	0	-
収 益 的 収 入 支 出 合 計	20,593,590,000	20,151,660,019	△441,929,981	19,524,230,319	627,429,700	3.21
収 支 差 引 額	△463,408,000	△285,255,171	178,152,829	380,001,558	△665,256,729	△175.07

## (2) 資本的収入及び支出

(単位：円)

年度 科目	令和7年度 予算額	令和7年度 決算額	予算額 との増減	令和6年度 決算額	前年度決算額 との比較	決算額 増減率 (%)
固定負債	0	21,901,000	21,901,000	64,931,138	△43,030,138	△66.27
資産売却収入	0	0	0	0	0	-
その他資本収入	2,610,096,000	2,562,269,770	△47,826,230	1,036,596,862	1,525,672,908	147.18
資本的収入合計	2,610,096,000	2,584,170,770	△25,925,230	1,101,528,000	1,482,642,770	134.60
固定資産	2,100,000,000	2,074,074,770	△25,925,230	591,536,000	1,482,538,770	250.63
借入金等償還	510,096,000	510,096,000	0	509,992,000	104,000	0.02
資本的支出合計	2,610,096,000	2,584,170,770	△25,925,230	1,101,528,000	1,482,642,770	134.60



## V 徳島県赤十字血液センター

# 基本理念

血液製剤を必要としている方の尊い生命を救うため

需要に応じた献血血液を安定的に確保し

安全性・品質向上に取り組み

献血者の皆様の想いを届けます

## V 徳島県赤十字血液センター

### 1 血液センターの概要

#### (1) 沿革

年 月 日	事 項
昭和29. 9. 21	小松島赤十字病院内に院内血液銀行を設置 (施設長として武田七郎氏就任)
37. 11. 1	徳島県赤十字血液銀行として発足 (所長に武田七郎氏就任)
39. 8. 21	「献血の推進について」閣議決定
12. 7	徳島県献血推進協議会設置
12. 14	徳島県赤十字血液センターに改称
41. 10. 17	所長に志賀信雄氏就任
10. 17	徳島市新蔵町に新築移転
42. 1. 25	徳島県血液配給公社設立 供給業務を開始
11. 1	所長に松本光幸氏就任
46. 4. 1	所長に安淵繁市氏就任
8. 5	所長に伊達和男氏就任
47. 9. 1	所長に島田徳男氏就任
48. 12. 16	所長に武田七郎氏就任
50. 4. 1	血液成分製剤の製造開始
52. 4. 1	生化学的検査開始
8. 1	徳島県計画採血実施要綱策定
57. 8. 1	HBs 抗原検査陽性者に通知開始
58. 4. 1	徳島県血液配給公社が解散し供給業務直配となる
8. 23	延献血者数50万人達成
10. 1	徳島駅前出張所 (献血ルーム アミコ) を開設
11. 1	徳島市庄町に新築移転
59. 10. 1	所長に近藤貞義氏就任
61. 4. 1	採血基準改正により400mL 献血開始
8. 1	成分献血開始
10. 23	AIDS・ATL・(HIV-1・HTLV-I) 抗体検査開始
平成元. 11. 20	HCV 抗体検査・HBc 抗体検査開始
2. 8. 16	延献血者数100万人達成
3. 12. 20	骨髓データセンター併設
4. 4. 1	献血由来凝固因子製剤 (クロスエイト M) 供給開始
4. 1	所長に遠藤悦男氏就任
7. 1	HCV 抗体検査陽性者に通知開始 (通知基準による)
6. 3. 1	AIDS2型 (HIV-2) 抗体検査開始

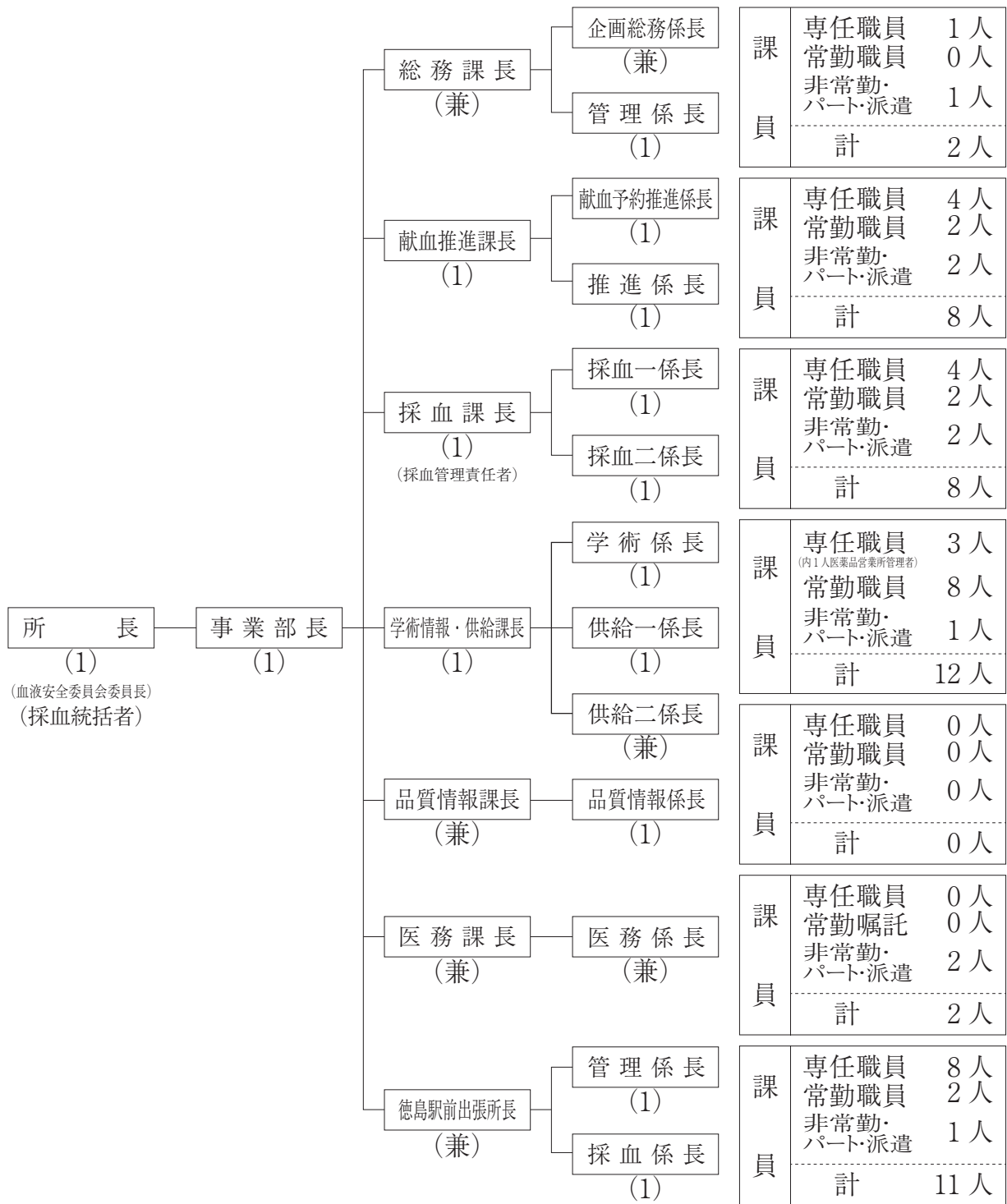
年 月 日	事 項
平成6. 3. 15	徳島駅前出張所（献血ルーム アミコ）拡張
5. 1	血液事業統一システム運用開始
11. 1	血液専用 X 線照射装置を設置、照射協力を開始
7. 1. 1	GMP 適合医薬品製造業として許可更新
7. 1	製造物責任法（PL 法）の施行により輸血用血液が対象となる
8. 9. 1	輸血血液の検体保管開始
11. 20	赤血球 MAP 製剤の製造開始
9. 7. 22	皇太子殿下・同妃殿下、血液センター行啓
7. 23	第33回献血運動推進全国大会開催
10. 1	所長に林弘治氏就任
10. 6. 19	放射線照射輸血用血液製剤製造開始
11. 4. 1	採血基準の改正により献血可能年齢が変更（69歳まで）
10. 1	HTLV-I 抗体陽性者に通知開始
10. 10	核酸増幅検査開始
11. 1	血液製剤全てを放射線照射輸血用血液として製造開始
12. 12. 15	中央薬事審議会企画・制度改正特別部会 「新たな血液事業等のあり方について」の報告書を提出
13. 1. 31	「血液製剤の使用にあたって」（使用指針）を発行
4. 1	所長に渡辺恒明氏就任
4. 1	ヒトパルボウイルス B19抗原検査開始
8. 1	赤十字アルブミン25% 50mL 供給開始
14. 4. 1	HCV 抗体検査の結果を陽性者全員に通知開始
15. 3. 28	全国統一問診票の改訂
4. 1	HBc 抗体検査の結果を陽性者全員に通知開始
7. 30	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の施行
8. 31	貯留保管後凍結血漿の供給開始
10. 15	検査業務を香川県赤十字血液センターに集約
16. 4. 1	「生物由来製品感染等被害救済制度」の施行
10. 1	献血者本人確認の全国実施
17. 4. 1	所長に小阪昌明氏就任
7. 7	徳島県赤十字血液センターに「献血推進本部」を設置
18. 8. 28	日赤ポリグロビン N 注 5 % の販売開始
10. 1	「献血者健康被害救済制度」の施行
19. 1. 16	白血球除去をした赤血球濃厚液の製造開始
3. 1	検査業務を岡山県赤十字血液センターに集約
11. 14	血小板製剤の有効期間が「採血後 4 日間」に延長
21. 3. 15	グリコアルブミン（GA）検査開始
3. 16	製剤業務を香川県赤十字血液センターに集約

年 月 日	事 項
平成21. 4. 1	所長に三木章男氏就任
23. 4. 1	徳島駅前出張所（献血ルーム アミコ）を同ビル内に増築移転 96.5㎡（6ベット）から305.0㎡（10ベット）に拡張 採血基準が改正され400mL 献血可能下限年齢が変更（男性17歳から）
24. 1. 1	所長に沖野實氏就任
4. 1	日本赤十字社中四国ブロック血液センターが広島市に新設され、 香川製造所を所管 徳島県赤十字血液センターは地域血液センターに移行
8. 6	献血血液の検査基準が変更され、輸血後の B 型肝炎対策として HBc 抗体1.0以上12.0未満かつ HBs 抗体200mIU/mL 未満の献血者 に対する献血を制限
25. 1. 16	「献血の同意説明書」による献血の同意事項の説明を開始
1. 23	日赤ポリグロビン N 注10%の販売開始
4. 1	災害時の通信手段として、衛星通信装置＜衛星電話・FAX＞（固定型） 及び衛星携帯電話（携帯型）を整備
26. 5. 11	血液事業情報システムを導入
8. 1	職員安否確認システムを導入
8. 1	献血者20人分プールの NAT（核酸増幅検査）から個別 NAT に 変更
27. 3. 30	日本赤十字社中四国ブロック血液センター香川製造所が廃止
3. 31	日本血液製剤機構（JB）との販売提携関係終了に伴い、血漿分 画製剤の販売中止
28. 1. 1	所長に浦野芳夫氏就任
3. 20	母体採血施設の献血受付業務を終了
6. 13	分割血小板採血（20単位）が可能なトリマアクセルを導入
9. 13	照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板 HLA-LR「日赤」 の供給開始
29. 9. 1	母体採血施設を「とくしま赤十字災害救護サポートセンター」 設置のため日本赤十字社徳島県支部に無償貸与
30. 3. 17	全社統合情報システムを導入
10. 29	献血推進・予約システムを導入
31. 2. 20	国の血液事業部会運営委員会で、改めて血漿分画製剤を含むす べての血液製剤について、日本赤十字社が献血により確保する 旨を宣言
4. 1	成分献血の増量採取開始
令和元. 11. 1	分割血小板採血強化策運用開始（土・日・祝日のみ）
2. 3. 1	分割血小板採血強化策の拡大運用開始（全日）

年 月 日	事 項
令和2. 3. 2	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染防止対策として献血会場入場前の献血者に手指消毒と体温測定を開始
4. 1	中四国ブロック管内において、採血能力に応じた按分率での全血採血を開始
8. 5	HEV NAT を全国導入 従来の3価NAT（HBV・HCV・HIV）にHEVを加え4価NATを実施
9. 1	全血献血時の指先穿刺による採血前検査を導入 血液法一部改正に伴い、採血基準を一部変更（脈拍、体温等を追加）
3. 4. 1	所長に新谷保実氏就任
11. 26	感染症検査結果における（梅毒トレポネーマ検査、HBV検査、HCV検査、HTLV-1検査）偽陽性結果の通知を開始
4. 9. 28	献血カードアプリ「ラブラッド」を導入
5. 3. 13	（照射）赤血球液-LR「日赤」の有効期間を「採血後28日間」に延長
5. 1	固定施設におけるすべての献血希望者を対象とした体重測定の開始
9. 25	移動採血車におけるすべての献血希望者を対象とした体重測定の開始
6. 2. 1	血漿分画製剤の海外輸出に係る同意の導入
7. 7. 30	細菌スクリーニングを導入した血小板製剤（PC-LRBS）の供給を開始。血小板製剤の有効期間を「採血後6日間」に延長
8. 1. 4	ラブラッドアプリへの移行に伴い、献血カード・献血手帳の新規発行・更新を終了

## (2) 組織と人員配置

(令和8年4月1日現在)



専任職員35人 (医師1人、薬剤師1人、臨床検査技師1人、看護師14人、事務等18人)

常勤嘱託14人、非常勤嘱託・パート・派遣9人、計58人

## 2 重点事項

血液事業に携わる唯一の採血事業者として、安心・安全な輸血用血液製剤の確保に努めるとともに、医療機関への安定供給体制の構築に取り組んだ。

また、若年層や初回献血者の確保など、将来に亘る献血基盤を維持するための様々な施策を展開した。

### (1) 若年層献血者及び複数回献血協力者の確保

#### ① 学域への取り組み

献血の意義・重要性を認識してもらうことを目的として高等学校や大学、専門学校で献血セミナーを行うとともに、若年期に献血に触れる機会の一環として各学校に献血バスを配車し、将来の献血基盤の確立に取り組んだ。



学内献血での広報活動



献血をしている様子

#### ② 将来の若年層献血者確保に向けた取り組み

献血を幅広い世代の方に理解していただくために、小学生と保護者を対象とした体験学習会（親子で楽しくけんけつ教室）を計6回実施した。

また、夏休み期間中の学童保育等での親子向けイベントに参加し、献血についての展示や体験ブースを設置することで、献血に触れる機会を提供した。

#### ア 献血セミナーの回数

	高等学校	大学・専門学校
学校数	10	3
セミナー数	10	5
参加人数	2,168	228

#### イ 高等学校・大学・専門学校での献血

	高等学校	大学・専門学校
学校数	10	8
配車台数	16	19
献血者数	306	395



大学での献血セミナー

### ③ 学生献血ボランティアの活動

徳島大学、四国大学の学生からなる徳島県学生献血ボランティアと連携し、学内献血や献血ルーム・商業施設等でキャンペーンを実施した。また、献血バスの配車前に事前広報を実施し、献血キャンペーンの案内を行うなど献血者確保に取り組んだ。

また、当センター Instagram アカウントや各大学ボランティア部のアカウントを活用し、学内献血の広報を行った。

#### ア 学内献血

	R 6	R 7
実施回数	9	8
献血者数	118	192

#### イ キャンペーン

- a 中国四国学生献血統一キャンペーン 1回（ゆめタウン徳島）
- b 徳島ガンバロウズ献血キャンペーン 1回（アスティとくしま）
- c マチ★アソビ献血 2回（献血ルーム アミコ 藍場浜公園御成婚広場）
- d 全国学生クリスマス献血キャンペーン2025 1回（献血ルーム アミコ）
- e 令和8年「はたちの献血」キャンペーン 1回（献血ルーム アミコ）



献血ルームでのキャンペーン



スポーツ会場でのキャンペーン

#### ウ 年齢別献血者数

年 齢	年度	年度目標	延べ献血者数	実献血者数	初回献血者数
16歳～19歳	R 6	1,177	577	455	295
	R 7	1,382	627	499	323
20歳～29歳	R 6	4,267	2,497	1,627	376
	R 7	4,267	2,592	1,732	458
30歳～39歳	R 6	5,732	3,726	2,058	133
	R 7	5,732	3,532	2,011	136
40歳～69歳	R 6	16,820	19,663	9,189	133
	R 7	15,993	20,102	9,485	147

## (2) 献血バス1稼働当たりの採血数の確保

### ① 情報発信の強化

ア ホームページやInstagramを活用し、輸血用血液製剤の在庫状況や献血バスおよび献血ルームでのキャンペーン情報等を発信した。また、ラブラッド会員にメールやLINEでの献血依頼についても発信したほか、非会員にはハガキや電話で献血協力を依頼した。

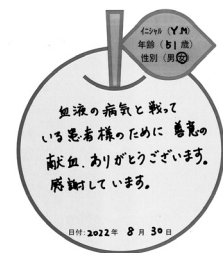
イ 学内献血推進のため、各大学の食堂の机の上にPOPを設置した。配車前に学内でチラシを配布し、当日の昼休憩時に食堂付近に広報職員を配置するなど広報活動を強化した。



大学内での事前広報の様子

② 地方公共団体や協力企業と連携を図り、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・延期となった献血会場の再開および休眠団体での献血再開に努めた。

③ 献血バス配車先の事業所の社内回覧システムを利用し、血液からしか作ることができない血漿分画製剤に関する資料を紹介するとともに、輸血者やご家族から寄せられた心温まるメッセージ「ありがとうの声」を紹介した。



## (3) 献血ルームの活性化

① 若者の感性を活かした情報発信を目的として、専門学校徳島穴吹カレッジと協働し、アニメーション学科学生による献血ポスター制作に取り組んだ。同世代が共感しやすいビジュアル表現で作製され、制作物を年3回、各3点を献血ルームに掲示するとともに、チラシ・ホームページ・SNSに活用した。特にInstagramでは、学生作品を用いたストーリー投稿を毎営業日実施することで、若い世代が日常的に献血を想起しやすい環境を整えた。



- ② 血漿分画製剤の需要が増加していることから、小松島市、日本赤十字社徳島県支部、徳島赤十字病院および徳島赤十字ひのみね医療療育センターに職員の成分献血への協力依頼を行った。
- ③ 献血経験のある学生に長期休暇期間中の献血協力を促したほか、献血協力団体の研修会等に参加し、団体関係者の献血協力を促した。
- ④ 愛の血液助け合い運動期間に合わせて、徳島駅周辺で献血啓発活動を行った。



徳島駅前での広報活動

#### (4) 献血推進団体等との連携強化

県内ライオンズクラブ、徳島県婦人団体連合会、天理教等、献血推進団体からのご協力をいただき、献血推進活動を強化するとともに、献血バスの配車事業所への事前訪問を推進した。

- ① 献血推進団体が主催する献血キャンペーンを増やしていただき、献血者の確保を図った。
- ② 献血バス配車先事業所への事前訪問回数を増やし、血液事業の現状について説明するとともに、事前予約を推進し献血見込み数の事前把握に努めた。

	ライオンズクラブ	婦人団体連合会	天理教
実施回数	87 (うち25回は 記念品協賛)	68	32

#### (5) 輸血用血液製剤適正使用の促進

県内医療機関130施設に1,026回訪問し、主要医療機関10施設の輸血療法委員会に41回出席して情報共有及び情報収集を行った。また、医療機関の担当者とりモート形式や参集型での研修会を32回開催し、血液製剤の適正使用の啓発及び促進を図った。

なお、血液製剤の感染症にかかる遡及調査は14件あり、調査の結果、感染が確認された事例はなかった。

## **(6) 効率的な供給体制の構築**

赤血球製剤を多数使用する医療機関に対して、院内在庫の適正化を推進した結果、定時配送便率は86.2%であった。また、令和6年度から運用しているWeb発注システムの発注率は、令和6年度以降99%以上を維持しており、輸血用血液製剤を取り扱う県内医療機関のほとんどがWeb発注システムによる発注が行える環境となった。

## **(7) 採血環境の改善と看護師の育成**

献血者とのコミュニケーションを積極的に図り、身体の保温・緊張の緩和を推進して副作用の軽減を図るとともに、採血における減損率が低下するよう個々の技術向上に努めた。また、中四国9県のアフェレーシスナースと共にインシデント事例集を基にした教育訓練を行うなど、教育体制を強化した。令和7年度には1名が採血副作用の対応に係る研修会を受講し、評価試験に合格した。

## **(8) 災害に対する備え**

中四国9県合同で安否確認システムを活用した職員安否確認訓練や職員参集確認訓練および災害対策本部訓練を実施し、災害時における日本赤十字社中四国ブロック内血液センターの危機管理体制の強化を図った。

また、自然災害、大事故などの緊急事態の際に、最も重要な業務を素早く再開させることで被害を最小化することを目的としてBCP（事業継続計画）を整備するとともに、危機管理マニュアルを更新し緊急時の体制強化を図った。献血ルームでは、災害時に職員や献血者が安全かつ迅速に避難できるよう役割分担の把握等を目的とした訓練を独自に行うとともに、採血部門では採血中の災害発生を想定した訓練を実施した。

### 3 事業の実施状況

#### (1) 献血状況

##### ① 施設別・種類別献血状況

単位：人

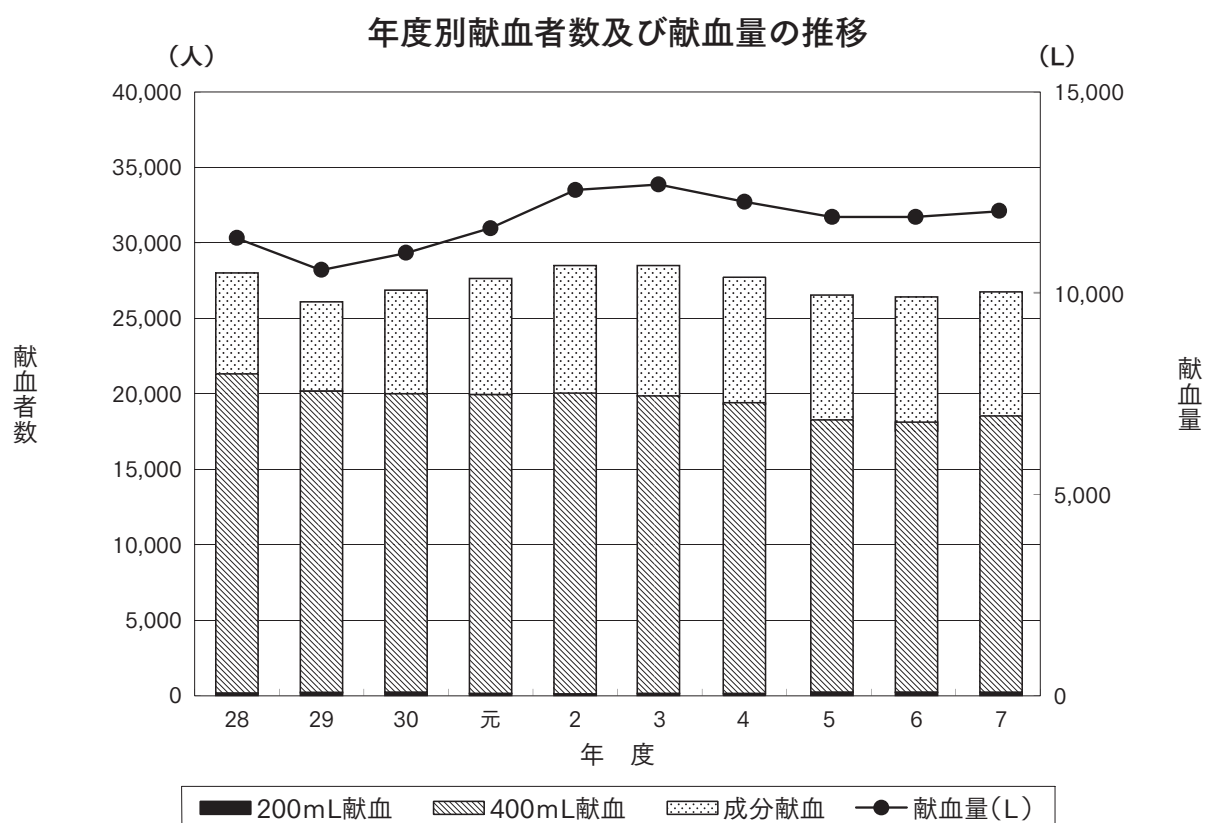
		出張所	移動採血	合計	構成比 (%)	献血者 目標	目標 達成率 (%)	前年度 実績	対前年 度比 (%)	
全血 献血	200mL	134	0	134	0.5	120	111.7	130	103.1	
	400mL	6,583	11,975	18,558	69.1	18,622	99.7	18,141	102.3	
成分 献血	血漿	5,947	0	5,947	22.1	7,026	84.6	6,193	96.0	
	血小板	非分割	415	0	415	-	0	-	162	256.2
		分割	1,799	0	1,799	-	1,606	112.0	1,837	97.9
		血小板計	2,214	0	2,214	8.2	1,606	137.9	1,999	110.8
	成分献血計	8,161	0	8,161	-	8,632	94.5	8,192	99.6	
合計		14,878	11,975	26,853	100.0	27,374	98.1	26,463	101.5	

##### ② 施設別稼働数状況

単位：人

		出張所		移動採血		合計		対前年度比 (%)
		7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	
献血者目標		16,412	16,146	10,962	11,850	27,374	27,996	97.8
受付者		16,448	17,047	13,703	12,993	30,151	30,040	100.4
不適格者		1,570	1,910	1,728	1,667	3,298	3,577	92.2
献血者 内訳	200mL	134	130	0	0	134	130	103.1
	400mL	6,583	6,815	11,975	11,326	18,558	18,141	102.3
	血漿	5,947	6,193	0	0	5,947	6,193	96.0
	非分割血小板	415	162	0	0	415	162	256.2
	分割血小板	1,799	1,837	0	0	1,799	1,837	97.9
献血者計		14,878	15,137	11,975	11,326	26,853	26,463	101.5
達成率		% 90.7	% 93.8	% 109.2	% 95.6	% 98.1	% 94.5	
稼働日数・ 配車台数		339	338	298	292	637	630	
一稼働当り 献血者数		43.9	44.8	40.2	38.8	42.2	42.0	
施設別献血者数 構成比		% 55.4	% 57.2	% 44.6	% 42.8	% 100.0	% 100.0	

③ 年度別献血者の状況



単位：人

年 度	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計	献血量 (L)
平成 28	55	21,239	6,750	28,044	11,322
29	128	20,017	5,946	26,091	10,546
30	136	19,890	6,881	26,907	11,001
令和 元	79	19,980	7,563	27,622	11,650
2	94	19,935	8,500	28,529	12,597
3	95	19,776	8,694	28,565	12,699
4	92	19,319	8,315	27,726	12,319
5	130	18,175	8,280	26,585	11,935
6	130	18,141	8,192	26,463	11,930
7	134	18,558	8,161	26,853	12,053

令和7年度献血種別構成比

	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計
徳 島 県	0.5%	69.1%	30.4%	100.0%
全 国	2.7%	66.0%	31.3%	100.0%

④ 徳島県における献血血液の流れ（令和7年度実績）

献血者受付	
男性	22,263 人
女性	7,888 人
合計	30,151 人

献血できなかった人数		血色素不足（割合）	その他（割合）
男性	1,469人	449人（2.0%）	1,020人（4.6%）
女性	1,829人	1,023人（13.0%）	806人（10.2%）
合計	3,298人	1,472人（4.9%）	1,826人（6.1%）

献血者数	
男性	20,794 人
女性	6,059 人
合計	26,853 人

	献血ルーム	移動採血車	合計	構成比（%）
200mL	134人	-	134人	0.5%
400mL	6,583人	11,975人	18,558人	69.1%
成分	8,161人	-	8,161人	30.4%
合計	14,878人	11,975人	26,853人	100%

血液検査 (中四国ブロック血液センター)	
-------------------------	--

検査不合格 307 件(1.1%)	
・肝機能	203 件
・HBs 抗原	8 件
・HBc 抗体	24 件
・HCV 抗体	3 件
・不規則性抗体	43 件
・その他（量不足）	26 件

血液製剤製造 (中四国ブロック血液センター)	
---------------------------	--

原料血漿
------

輸血用血液製剤受入 (徳島センター学術情報・供給課)	
-------------------------------	--

血漿分画製剤製造*	
一般社団法人 日本血液製剤機構	
武田薬品工業株式会社	
KMバイオロジクス 株式会社	
※国内製薬企業上記2社に送付した原料血漿から製造した血漿分画製剤にはすべて [献血] 採血国：日本と明記されています。	

県内医療機関供給実績	
赤血球製剤	40,744 単位
血漿製剤	10,972 単位
血小板製剤	59,805 単位
合計	111,521 単位

⑤ 献血推進関係会議

名 称	開 催 日	開 催 場 所
令和7年度徳島県学生赤十字奉仕団総会	2月26日	徳島県赤十字血液センター
令和7年度徳島県献血推進協議会	3月12日	徳島グランヴィリオホテル

⑥ 献血バス配車事業所一覧

(事業所名：五十音順)

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
1	au ショップ沖浜	35	医療法人 修誠会 吉野川病院
2	JA 阿波みよし ふれあい産直市	36	医療法人松風会 江藤病院
3	JA 徳島厚生連 阿南医療センター	37	医療法人青鳳会 美摩病院
4	JA 徳島厚生連 吉野川医療センター	38	医療法人清和会 協立病院
5	JA 東とくしま みはらしの丘 あいさい広場	39	医療法人第一病院
6	(株)NDK	40	医療法人道志社 リハビリテーション大神子病院
7	(株)NTT 西日本 徳島支店 大工町ビル	41	医療法人平成博愛会 博愛記念病院
8	(株)NTT フィールドテクノ 四国支店 徳島営業所	42	医療法人悠穰会 芳川病院
9	藍住町役場	43	医療法人有誠会 手束病院
10	藍場浜公園 ご成婚広場(マチ★アソビ)	44	(株)オオキタ フレッシュフーズオオキタ ポルト牟岐店
11	アオアヲナルトリゾート	45	大クス公園(天理教ひのきしん)
12	阿南市役所	46	オートモール徳島
13	阿南生コンクリート工業(株)	47	大塚化学(株)徳島工場
14	阿波池田通運(株)吉野川営業所	48	大塚製薬(株)徳島板野工場
15	(株)阿波銀行 鴨島センター	49	大塚製薬(株)徳島工場
16	(株)阿波銀行 研修所	50	大塚製薬(株)徳島第二工場
17	(株)阿波銀行 本店	51	(株)大塚製薬工場 本社
18	阿波市役所	52	(株)大塚製薬工場 松茂工場
19	阿波製紙(株)	53	大塚テクノ(株)本社
20	石井町地域防災交流センター	54	大塚テクノ(株)鷺敷工場
21	石井町中央公民館 藍畑分館	55	(株)岡部機械工業
22	石井町中央公民館 浦庄分館	56	オンダン農業協同組合
23	石井町中央公民館 高原分館	57	介護老人福祉施設 やまもも荘
24	石井町役場	58	海上自衛隊 第24航空隊
25	石井町竜王集会所	59	海上自衛隊 徳島教育航空群
26	(株)イズミ ゆめタウン徳島	60	海陽町役場 海南庁舎
27	板野町町民センター	61	海陽町役場 穴喰庁舎
28	板野東部消防組合消防本部	62	化研テクノ(株)
29	(株)井上組	63	勝浦町役場
30	医療法人愛生会 兼松病院	64	学校法人勝浦学園 徳島医療福祉専門学校
31	医療法人倚山会 田岡病院	65	学校法人四国大学
32	医療法人喜久寿会 木下病院	66	学校法人生光学園 生光学園高等学校
33	医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院	67	学校法人徳島城南学園 徳島工業短期大学
34	医療法人久仁会 鳴門山上病院	68	学校法人村崎学園 徳島文理大学 徳島キャンパス

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
69	上板町役場	114	専門学校 健祥会学園
70	神山町役場	115	ソルベイ・スペシャルケム・ジャパン(株)
71	川内ベルベ玉鳳院	116	(株)大一器械
72	喜多機械産業(株)(キタチャレンジフェスタ)	117	大鵬薬品工業(株)北島工場
73	(株)北島建設	118	大鵬薬品工業(株)徳島工場
74	北島町役場	119	太陽ファスナー(株)徳島工場
75	協同組合 徳島総合流通センター	120	地方独立行政法人 徳島県鳴門病院
76	(株)キョーエイ ドラッグ三加茂店	121	長生堂製薬(株)本社第二工場
77	(株)キョーエイ 羽ノ浦店	122	つるぎ町立半田病院
78	(株)キョーエイ 本社	123	つるぎ町役場
79	(株)キョーエイ山川店	124	帝國製薬(株)土成工場
80	国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所	125	テック情報(株)
81	国立阿南工業高等専門学校	126	(株)十川ゴム 徳島工場事務所
82	国立大学法人 徳島大学蔵本キャンパス(学園祭)	127	トヨタカローラ徳島株式会社
83	国立大学法人 徳島大学蔵本キャンパス 徳島大学病院	128	(株)寺内製作所
84	国立大学法人 徳島大学常三島キャンパス	129	(株)大真空 徳島事業所
85	国立大学法人 鳴門教育大学	130	(株)鷹鉾組
86	小松島市役所	131	とくぎんトモニアリーナ
87	(株)サイバネ	132	徳島刑務所
88	(株)さくら印刷	133	徳島県 JA 会館
89	佐那河内村役場	134	徳島県警察 阿南警察署
90	佐野電機工業(株)	135	徳島県警察 警察学校
91	ザ・パシフィックハーバー	136	徳島県警察 小松島警察署
92	サンスター(株)徳島工場	137	徳島県警察 徳島板野警察署
93	シオノギファーマ(株)徳島工場	138	徳島県警察 徳島中央警察署
94	(株)シケン 徳島第二技工所	139	徳島県警察 徳島名西警察署
95	(株)シケン 徳島本社技工所	140	徳島県警察 鳴門警察署
96	四国化工機(株)本社工場	141	徳島県警察 本部
97	四国高速運輸(株)	142	徳島県警察 本部 運転免許センター
98	四国電気保安協会 徳島支部	143	徳島県警察 美馬警察署
99	四国電力(株)阿南火力事業所 橋湾発電所	144	徳島健康生活共同組合 徳島健生病院
100	四国電力送配電(株)池田支社	145	徳島県消防学校
101	四国電力送配電(株)徳島支社	146	徳島県西部総合県民局 美馬庁舎
102	シティプラス徳島沖浜店	147	徳島県西部総合県民局 美馬保健所
103	シミズ精工(株)	148	徳島県西部総合県民局 三好庁舎
104	(株)シャイネックス	149	徳島県赤十字血液センター
105	社会医療法人あいざと会 藍里病院	150	徳島県庁
106	社会福祉法人三美厚生団 障害者支援施設 かしがおか	151	徳島県東部県土整備局 徳島庁舎
107	昭和精機工業(株)	152	徳島県徳島保健所
108	ショッピングセンター ピアカイフ	153	徳島県南部総合県民局 保健福祉環境部 阿南庁舎 阿南保健所
109	ショッピングプラザ アピカ	154	徳島県南部総合県民局 阿南庁舎
110	ショッピングプラザ・アワーズ	155	徳島県南部総合県民局 美波庁舎
111	(株)ジェイテクトシーリングテクノ	156	徳島県立阿南光高等学校
112	(株)ジェイテクト 徳島工場	157	徳島県立産業観光交流センター アスティとくしま(徳島ガンバローズ)
113	新日本電工(株)徳島工場	158	徳島県立城ノ内中等教育学校

No.	配車事業所等	No.	配車事業所等
159	徳島県立総合教育センター	204	農産物直売所 百姓一
160	徳島県立中央テクノスクール	205	東みよし町役場
161	徳島県立中央病院	206	フィットネスクラブ DOWNTOWN阿南店(才見町青壮年同士の会)
162	徳島県立つるぎ高等学校	207	(株)フォステクノ四国
163	徳島県立徳島科学技術高等学校	208	(株)藤田計夫商店 トレンディプラザ北島SS
164	徳島県立徳島視覚支援学校	209	(株)フジタ建設コンサルタント
165	徳島県立徳島商業高等学校	210	(株)フジ フジグラン阿南
166	徳島県立鳴門高等学校	211	(株)フジ フジグラン石井
167	徳島県立三好病院	212	(株)フジ フジグラン北島
168	徳島県立吉野川高等学校	213	(株)フジ マルナカパワーシティ鴨島店
169	徳島県吉野川合同庁舎	214	(株)フジ マルナカ徳島店
170	徳島合同庁舎	215	(株)フジ マルナカ脇町店
171	徳島市中央卸売市場	216	フレスポ阿波池田
172	徳島市民病院	217	ホンダカーズ徳島 応神店
173	徳島市役所	218	松茂住宅公園(住友林業(株))
174	徳島市立高等学校	219	松茂町役場
175	徳島信用金庫 本店営業部	220	(株)松本コンサルタント 本社
176	徳島赤十字ひのみね医療療育センター	221	まるほ食品(株) 徳島工場
177	徳島赤十字病院	222	道の駅 公方の郷なかがわ
178	徳島税務署	223	道の駅 いたの
179	徳島大正銀行 本店	224	港産業(株)
180	徳島第二地方合同庁舎	225	美波町役場
181	徳島地方合同庁舎	226	美馬市消防本部・美馬市消防署
182	徳島地方裁判所	227	美馬市役所
183	徳島トヨペット(株)	228	牟岐町役場
184	徳島日産自動車(株)	229	むつみパーク蔵本
185	徳島日野自動車(株)	230	山本光学(株)徳島工場
186	特別養護老人ホーム 健祥会モルダウ	231	(株)ヨコタコーポレーション本社
187	特別養護老人ホーム 水明荘	232	吉野川市役所
188	那賀町役場 鷺敷庁舎	233	四電エンジニアリング(株)徳島支店
189	中本造林(株)	234	(株)四電工徳島営業所
190	鳴門・大塚スポーツパーク(徳島ヴォルティス)	235	(株)四電工 徳島支店
191	鳴門市役所	236	(株)四電工 吉野川営業所
192	鳴門市役所 市民環境部 市民課 板東連絡所	237	(株)よんやく徳島
193	西精工(株)土成工場	238	陸上自衛隊 徳島駐屯地
194	西精工(株)本社オフィス・工場	239	リコージャパン(株) 徳島支社 徳島事業所
195	西日本高速道路(株)四国支社 徳島高速道路事務所	240	(株)リブドゥコーポレーション 徳島貞光工場
196	西松建設(株)西日本支社 徳島営業所	241	(株)リブドゥコーポレーション 徳島三野工場
197	日亜化学工業(株)辰巳工場	242	リンテック株式会社 小松島工場
198	日亜化学工業(株)鳴門工場	243	老人保健施設 健祥会シェーンブルン
199	日亜化学工業(株)本社	244	老人保健施設 健祥会ハート
200	日清紡ホールディングス(株)徳島事業所	245	山菱電機(株)石井工場
201	日本ハムファクトリー(株)徳島工場	246	(株)ワイ・ジー・ケー鳴門工場
202	日本フネン(株)阿波工場	247	和田島漁業協同組合(みさき・日の出自治会)
203	日本フネン(株)本社	248	和田島ちりめん市

⑦ 献血推進キャンペーン

名 称	開 催 日	参加団体	実施場所
春の400mL 献血キャンペーン	4月2日～6日	-	献血ルーム アミコ
「シャレン!で献血」	4月1日 ～12月31日	明治安田生命	献血ルーム アミコ
	5月11日	明治安田生命 徳島ヴォルティス	ポカリスエット スタジアム
GW 献血キャンペーン	5月3日～5日	-	献血ルーム アミコ
ゴゴケン400 GoGo 献血キャンペーン	5月21日～23日 5月26日～30日 6月23日～27日	-	献血ルーム アミコ
令和7年度献血推進方策	令和7年6月9日 ～令和8年3月31日	-	-
世界献血者デーキャンペーン	6月14日	-	献血ルーム アミコ
花ポットプレゼント キャンペーン	6月21日・22日 28日・29日 12月6日・7日 13日・14日	徳島県立みなと高等学園	献血ルーム アミコ
愛の血液助け合い運動 月間キャンペーン (中四国学生統一献血 キャンペーン)	7月13日	徳島インディゴソックス 徳島県薬務課 徳島県学生献血ボランティア	ゆめタウン徳島
親子で献血キャンペーン	7月19日 ～8月31日	-	献血ルーム アミコ 献血バス
Tay Tawan34thBD企画inJP による献血協力キャンペーン	7月10日 ～9月30日	Tay Tawan34thBD企 画inJP	献血ルーム アミコ
コミックマーケット 献血応援イベント	8月16日 ～9月30日 12月30日 ～1月31日	-	献血ルーム アミコ
献血奉仕協力強化月間	8月17日 ～9月30日 1月5日 ～2月15日	生命保険協会 徳島県協会	献血ルーム アミコ 献血バス
献血の日キャンペーン	8月21日	-	献血ルーム アミコ
徳島インディゴソックス 試合会場での献血 事前予約キャンペーン	8月23日	徳島インディゴソックス 徳島県薬務課	むつみスタジアム
#けんけつデビュー献血 応援キャンペーン	9月1日 ～3月31日	-	献血ルーム アミコ 献血バス

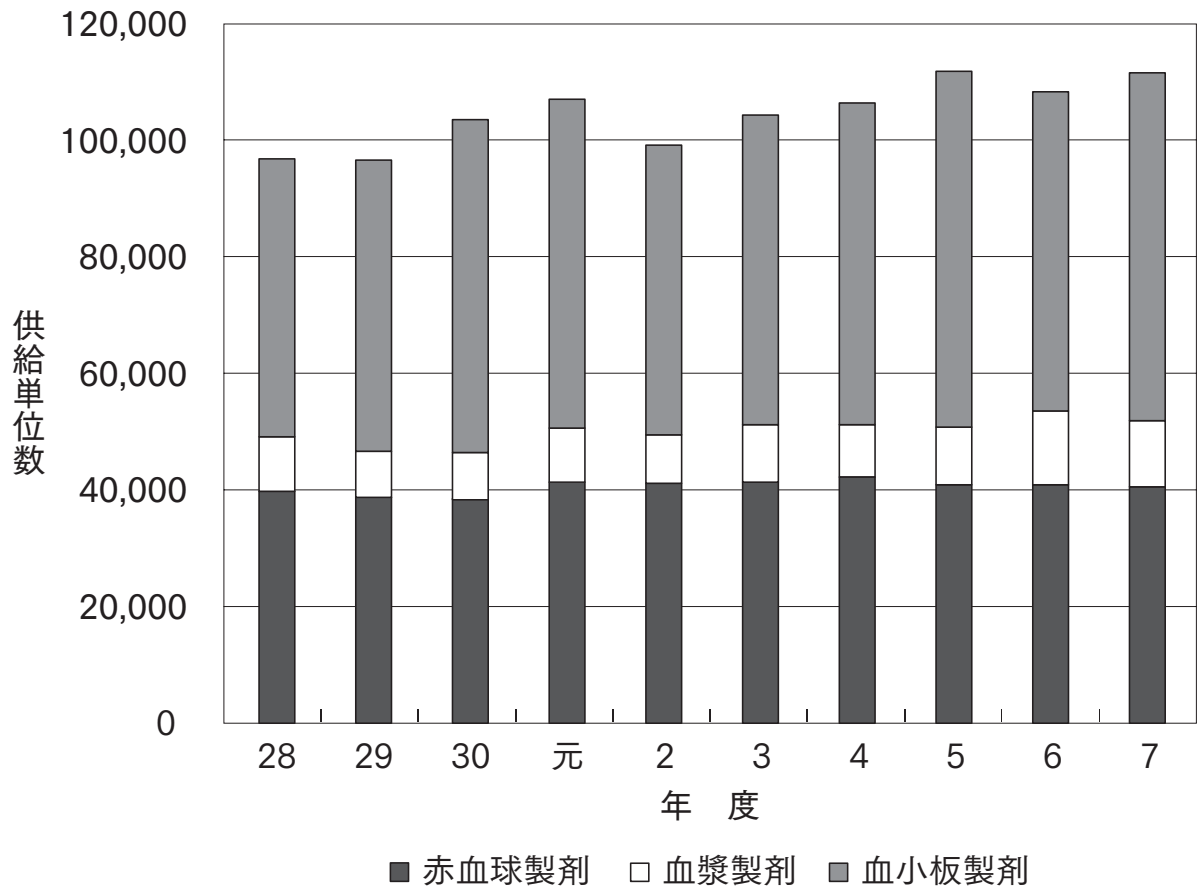
名 称	開 催 日	参加団体	実施場所
献血応援キャンペーン	9月17日 2月24日～25日	日清医療食品株式会社	献血ルーム アミコ
カレー×献血キャンペーン	9月22日 ～10月17日	—	献血ルーム アミコ
徳島ガンバロウズ 献血キャンペーン	9月27日	徳島ガンバロウズ 徳島県学生献血ボランティア	アステイトくしま
骨髄バンク登録応援 キャンペーン	10月1日 ～12月31日	—	献血ルーム アミコ
マチ★アソビ献血	10月18日～19日	徳島県薬務課	献血ルーム アミコ 献血バス
けんけつちゃんお誕生日 WEEKキャンペーン	10月22日～26日	—	献血ルーム アミコ
徳島ヴォルティス 献血キャンペーン	11月9日	徳島県薬務課	ポカリスエット スタジアム
平日の400mL献血キャンペーン	11月5日 ～11月30日	—	献血ルーム アミコ
献血の普及・啓発活動	11月6日	明治安田生命	献血ルーム アミコ
献血今いこキャンペーン	12月1日 ～3月29日	徳島県赤十字有功会	献血ルーム アミコ
全国学生クリスマス 献血キャンペーン2025	12月20日～21日	徳島県学生献血ボラン ティア	献血ルーム アミコ
令和8年「はたちの献血」 キャンペーン	1月1日 ～2月28日	徳島県薬務課	献血ルーム アミコ 献血バス
	2月8日	徳島県学生献血ボランティア	献血ルーム アミコ
アフラックバレンタイン 献血キャンペーン	2月1日～28日	アフラック生命保険 株式会社	献血ルーム アミコ 献血バス
バレンタイン献血キャンペーン	2月7日～14日	—	献血ルーム アミコ
ラクロス献血キャンペーン	3月24日～30日	徳島大学ラクロス部	献血ルーム アミコ
完全予約制！献血キャンペーン	月末日曜	県内各ライオンズクラブ	献血バス
献血キャンペーン	通年	県内各ライオンズクラブ	献血ルーム アミコ 献血バス

## (2) 供給状況

### ① 血液製剤品目別供給状況

献血由来別 品名		供給本数							計 (本)	200mL 換算 単位	前年度 200mL 換算 単位	対前年 度比 (%)
		全血献血由来		成分献血由来								
		1単位 (本)	2単位 (本)	4単位 (本)	5単位 (本)	10単位 (本)	15単位 (本)	20単位 (本)				
赤血球製剤	照射赤血球液 - LR	72	20,336	-	-	-	-	-	20,408	40,744	40,845	99.8
	照射洗浄 赤血球液- LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	-
	照射合成血液 - LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	-
	照射解凍 赤血球液 - LR	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	-
	小計	72	20,336	-	-	-	-	-	20,408	40,744	40,845	99.8
血漿製剤	新鮮凍結 血漿- LR	0	4,280	-	-	-	-	-	4,280	8,560	9,055	94.5
	新鮮凍結 血漿- LR 成分採血	-	-	603	-	-	-	-	603	2,412	3,620	66.6
	小計	0	4,280	603	-	-	-	-	4,883	10,972	12,675	86.6
血小板製剤	照射濃厚 血小板- LR	-	-	-	3	5,892	0	0	5,895	58,935	54,150	108.8
	照射洗浄 血小板- LR	-	-	-	0	87	0	0	87	870	540	161.1
	小計	-	-	-	3	5,979	0	0	5,982	59,805	54,690	109.4
合計		72	24,616	603	3	5,979	0	0	31,273	111,521	108,210	103.1

② 年度別供給状況（200mL換算）の推移



(単位)

年 度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	総供給単位数
平成 28	39,621	9,282	47,930	96,833
29	38,896	9,067	48,690	96,653
30	39,030	8,389	55,750	103,169
令和 元	41,302	9,091	56,830	107,223
2	41,008	8,492	49,725	99,225
3	41,848	9,700	52,600	104,148
4	42,018	8,980	55,465	106,463
5	40,774	9,864	61,215	111,853
6	40,845	12,675	54,690	108,210
7	40,744	10,972	59,805	111,521

※ 1 単位は血液200mL に由来する量

〈参考資料〉

